

構造特記仕様書

2026年度版

§1 一般事項

選択項目は◎印を適用し、○印が無い場合は※印を適用する。
○印が複数ある場合は、共に適用する。

1-1

使用材料は原則としてJIS規格品、JAS規格品、又は大臣認定品とする。

1-2

設計図書

設計図書の優先順位は下記による。
1)本特記仕様書
2)設計図
3)標準図
4)仕様書
5)日本建築学会標準仕様書、JASS5、JASS6(最新版とする)

1-3

各工事に際して、施工計画書及び施工図を提出し、工事監督者の承認を得る。

1-4

構造関係材料及び各種試験成績書・検査報告書を作成し提出する。
第三者機関による検査・試験費用は工事費に(※含む・含まない)

1-5

設計図書に示されていない材料、工法等を採用する場合は文書にて工事監督者の承認を得る。

1-6

梁貫通位置、径、及び箇所数は(※意匠図・構造図※設備図)による。

1-7

1)屋根葺き材・外装材、屋外帳壁の構造体への取付き及び風圧に対する構造強度等の技術的基準は令39条・令82条の4(平12建告第1458号)に適合すること。

§2 構造計算ルート

2-1

方向	構造計算ルート
X	ルート1・ルート2●ルート3
Y	ルート1・ルート2●ルート3

2-2

鉄筋の継手(定着については設計図書若しくは標準図による)
構造計算ルート別による主筋又は、耐力壁の鉄筋の継手の重ね長さ
◎建築基準法施行令第73条第2項による仕様規定
・日本建築学会 JASS5(2018)、鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説
・日本建築学会 RC規準2024
XY両方向共ルート3及び限界耐力力計算の場合は、令第73条第2項の仕様規定によらずJASS5(2018)、鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説及びRC規準2024とすることができる。

2-3

重要度係数(用途係数)
用途係数の区分と対象建築物：区分(Ⅱ)=1.25 建築物=校舎

§3 仮設工事、土工事

3-1

山留め、根切り 意匠図による

3-2

埋戻し土、盛土、残土処分
埋戻し土 ー根切り土の中の食土●搬入良土(埋戻し土は30cm毎に転圧締固めを行うこと)
盛土 ー根切り土の中の食土●搬入良土(盛土は30cm毎に転圧締固めを行うこと)
残土処分 ー場内地均し※場外搬出処分(※自由・指定場所)

§4 地業工事

4-1

場 所	捨てコンクリート厚さ	注1) A: 切込砕石 B: 再生砕石	厚 さ
基 礎	独立、布	※ 50・60・100 ※ A・B	※ 60・100・150・
	ベ タ	※ 50・60・100 ※ A・B	※ 60・100・150・
基 礎 梁	※ 50・60・100 ※ A・B	※ 60・100・150・	
構造スラブ	※ 50・60・100 ※ A●B	※ 60●100・150・	
土間コンクリート	屋 内	※ 50・60・100 ※ A・B	※ 60●100・150・
	屋 外	※ 50・60・100 ※ A・B	※ 60 ※ 100・150・

注1). アンカーボルト支持用フレームの、あと施工アンカーを打込む部分は100以上とする。
注2). 端部aは100以上とする。

4-2

設計耐力力 長期 ー kN/m² 短期 ー kN/m² 終局 ー kN/m²
地耐力載荷試験 行う(箇所、長期設計耐力力の3倍を確認する) ※ 行わない

4-3

地盤改良
・無筋コンクリート地業
・セメント系固化材投拌
・締固め工法
・圧密排水工法
・柱状改良
・圧密排水工法
[載荷試験 ー 一軸圧縮試験] 行う (1箇所) ※ 行わない
[六面クロム溶出試験] 行う ※ 行わない

4-4

既製コンクリート杭、鋼管杭、その他特殊杭
1)杭種
●PHC杭 ●A種 ●B種 ●C種
●ST杭 ●A種 ●B種 ●C種
●SC杭 tmm ●6mm ●9mm ●12mm
●PRC杭 ●I種 ●II種 ●III種 ●IV種
●節杭 ●A種 ●B種 ●C種
●鋼管杭
2)工法
・打撃工法
・油圧ハンマー
・ディーゼルハンマー
・埋込み工法
・プレバレーン工法(認定工法)
●ハバーストレーNT工法(TACP-0675、TACP-0676) (管理棟)
●ハバーストレー工法(TACP-0404、TACP-0405) (渡り廊下2)
3)杭径、設計耐力、本数表 校舎棟

杭径(符号)mm	長期 kN	短期 kN	終局 kN	本数	備 考
φ800(P1)	6230	12460	18690	11	
φ800(P2T)	4170	8340	12510	3	
φ700(P2)	4170	8340	12510	9	
φ600(P3、P3T)	3260	6520	9780	9	

杭径、設計耐力、本数表 渡り廊下棟

杭径(符号)mm	長期 kN	短期 kN	終局 kN	本数	備 考
φ350(P4)	830	1660	2490	4	

4)杭の構成は設計図による。

渡り廊下2

管理棟

5)杭頭補強
・かご筋 ●スタッド溶接
・杭外周溶接 ●クラウンパイルアンカー構法

4-6

杭打地業共通事項
1)◎試験杭 ●試験掘 1 ●行う(3本) ●行わない
2)載荷試験 ●行う(箇所、長期設計耐力力の3倍を確認する) ※ 行わない
3)SL散布 ●行う ※ 行わない

§5 鉄筋工事

5-1

種 類	径	継 手
●SD295	D 16 以下	※ 重ね継手 ● スパイラル ● 工場溶接
●SD345	D 19 以上 D 25 以下	● 重ね継手 ※ 溶接継手 ● 機械継手
●SD390	D 29 以上	※ 溶接継手 ● 機械継手(縦)
●SD490	D 以上	※ 溶接継手 ● 機械継手(縦)
●溶接金網		● 重ね継手
●高強度せん断補強筋	●1275級 P ●785級 K Ⅱ'-Ⅱ'785 ●685級 U	●フック加工 ● スパイラル○ 工場溶接

溶接継手 ● ガス溶接 ● 突き合せ溶接 (D16以下は重ねアーク溶接でも可)
●新NT工法等の評定取得工法

5-2

ガス圧接部の検査(第三者機関による)外観検査全数(引張り試験の場合、施工者自主検査でもよい)
●各工法、認定・評定条件による
●抜取り検査
・引張り試験(JISZ3120)
1検査ロットにつき ※ 3本
・原則 柱・梁の径毎に3本
●超音波探傷試験(JISZ3062)
1検査ロットにつき ●30箇所
・熱間押抜き試験
○不合格となった圧接部は切り取って再圧接を行う。また残り全数に対して超音波探傷試験を行う。
1検査ロットは1組の作業班が1日に施工した圧接箇所の数量で200箇所以内

5-3

溶接、機械式継手の検査は各々の認定方法による他、日本建築士協会仕様書(2017年)及び下記を参照する。
JIS Z 3063 (鉄筋コンクリート用異形棒鋼溶接部の超音波探傷試験方法及び判定基準)
JIS Z 3064 (鉄筋コンクリート用機械式継手の鉄筋挿入長さの超音波測定試験方法及び判定基準)

5-4

梁貫通補強
補強筋は原則として工場製品(評定品)を使用する。

5-5

その他
基礎梁、基礎小梁の継手及び定着は原則として ● ①一般 ● ②地反力を受ける
● ③上載荷重が大きい場合
● ④端部上下筋15d 中央上下筋20d
● ⑤端部上下筋15d 中央上下筋20d
梁の余長 l の採用 大梁・小梁 ※ D' (梁有効成) ● 端部上下筋15d 中央上下筋20d
基礎梁 ※ min(D' , L) ● 端部上下筋15d 中央上下筋20d
鉄筋の組立は適切な位置にスパーサーを使用し、組立後は形状保持のための養生を行う。
コンクリートを2回打する部材は、初回の打設後に鉄筋の清掃を行う。
コンクリート打設前に工事監督者の検査を受け不備な箇所は修正を行う。

§6 コンクリート工事

6-1

レディーミクストコンクリート(JIS A5308-2024)
1)セメント ●普通ポルトランドセメントJISRS5210 ●高炉セメントB種
●低熱ポルトランドセメントJISRS5210
●砂利 ※ 砕石 ● 高炉セメントB種
●人工軽量骨材 ● 再生骨材
最大径(mm) ※ 20 ● 25 ● 40
2)粗骨材
3)設計基準強度(N/mm²)
●普通コンクリート 渡り廊下2 管理棟 渡り廊下2 管理棟
● Fe18 ● Fe21 ● Fe24 ● Fe27 ● Fe30 ● Fe ● Fe
● 軽量コンクリート(1種 ● 2種 気乾単位容積質量 ※ 18.5 ●)
● LFc18 ● LFc21 ● LFc24 ● LFc27 ● LFc30 ● LFc
4)土間コンクリート ● Fe24 (ただし柱、壁等と同時に打込む場合は躯体の強度とする)
5)捨てコンクリート ● Fe18
6)防水押さえコンクリート ● Fe ● LFc (気乾単位容積質量 ※ 18.5 ●)
7)かさ上げコンクリート ● Fe ● LFc (気乾単位容積質量 ※ 18.5 ●)

6-2

混和材 ● AE減水剤 ● 高性能AE減水剤 ● 躯体防水材料 ● 膨張材
注1). 混和剤は所定の品質を確保するためにプラントの特性に応じたものを使用する。
※監督者と協議の上決定すること。

6-3

箇 所	基礎、基礎梁	一 般		備 考
スランプ	cm 15	18		
水セメント比	% 60以下	60以下		60以下
単位水量	kg/m ³ 185以下	185以下		185以下
単位セメント量	kg/m ³ 270以下	270以下		270以上

注2). スランプは特記なき限り施工者が決め監督者に報告する。
試験(躯体コンクリートの28日圧縮試験は公的機関において行う)

6-4

1)骨材 [● 塩分含有量 ● アルカリシリカ反応性] ※ 行う ● 行わない
2)フレッシュコンクリート [● スランプ ● 空気量] ※ 行う ● 行わない
3)躯体のせき板取り外し時期決定圧縮試験 ※ 行う ● 行わない
4)コンクリートコア抜き取り圧縮試験 ● 行う ※ 行わない
5)マスコンクリートのひび割れ照査(温度応力解析) ● 行う ※ 行わない
6)単位水量測定 ● 行う ● 行わない

6-5

調査(補正値は工事費に含む)
計画供用期間の級(α)は耐久設計基準強度 F_d
短期(4年) 標準(4年) 長期(40年) 超長期(60年)
調査管理強度 $F_m = \text{Max}(\frac{F_d}{\alpha}, F_d) + S$ $S = 3 \sim 6$
材齢28日の調査強度 F は下記の式を満たすものとする。
 $F \geq F_m = 1.73 \text{ or } F \geq 0.85 F_m + 3 \text{ or}$
せき板及び支柱の在置期間(普通ポルトランドセメントの場合)

	基礎、梁側、柱、壁	スラブ下	梁 下
コンクリートの材齢による場合	15℃以上 3 日 5℃以上 5 日 0℃以上 8 日	17 日 25 日 28 日	28 日
圧縮試験による場合	5N/mm ²	注) 0.85 F_c または12N/mm ²	注) 設計基準強度

注) かつ、施工中の荷重及び外力について、構造計算により安全が確認されるまで。
Fc36を超える場合は高強度コンクリートとし、仕様は別記特記仕様書(JASS5等)による

6-7

§7 鉄骨工事

7-1

規格名称	鋼 材 名	柱	通しダイア	内ダイア	大梁	ブレース	小梁
一般構造用圧延鋼材	● SM400 ●				○		○
溶接構造用圧延鋼材	● SM400A ● SM490A ● SM400A ●						
建築構造用圧延鋼材	● SM400B ● SM490B ● SM400C ● SM490C		○				
一般構造用角形鋼管	● STKR400 ● STKR490						
冷間成形角形鋼管	● BCR295 ● ● BCP235 ● BCP325	○					
熱間成形角形鋼管	● SHC400B ● SHC400C ● SHC490B ● SHC490C						
一般構造用炭素鋼管	● STK400 ● STK490 ● STKN400 ● STKN490						
一般構造用軽量形鋼管	● SSC400 ●						
建築構造用圧延棒鋼	● SNR400 ●						

7-2

高力ボルト	高 力 ボ ル ト の 種 類	使 用 箇 所
トルシア形高力ボルト	※ S10T	全般
JIS形高力ボルト	● F10T	トルシア形が使用できない部分
溶融亜鉛メッキ高力ボルト	● F8T	母材が亜鉛メッキされている部分
超高力ボルト	● S14T	屋内環境

7-3

普通ボルト、アンカーボルト
1)材質 ● SS400 ● SS490 (M 以上)
● ABR400 ● ABR490 ● ABM400 ● ABM490 (ABMはM24以上)
2)大臣認定柱脚(メーカー仕様による) ● 使用する ● 使用しない

7-4

頭付きスタッド	長 さ (mm)	使 用 箇 所
16 φ	● 80 ● 100 ● 120 ● 150 ●	梁上
19 φ	● 80 ● 100 ● 120 ● 150 ●	梁上
22 φ	● 100 ● 120 ● 150 ● ●	

7-5

溶接材料
1)アーク溶接に使用する溶接棒、ワイヤ及びフラックスは母材の種類、寸法、及び溶接条件に相応したものを選定する。
2)ガスシールドアーク溶接に使用するシールドガスは溶接に相応したものとする。

7-6

スカラップ形状 ※ ノンスカラップ工法 ● スカラップ工法

7-7

継手	柱	梁
フランジ	● 高力ボルト ● 現場溶接	※ 高力ボルト ● 現場溶接
ウェブ	● 高力ボルト ● 現場溶接	※ 高力ボルト ● 現場溶接

7-8

溶接手法及び管理
1)使用する溶接ワイヤー、入熱量及びバス間温度等の仕様については鉄建協又は全協の仕様で、専任の溶接施工管理技術者により管理を行うこと。
2)完全溶け込み溶接はAW検定の有資格者が行うとする指定を ※ 行う ● 行わない
3)本工事で代替タブを使用する場合は、代替タブ溶接技術者技量検定付加試験を ※ 行う ● 行わない
但し、代替タブのAW検定有資格者は技量検定付加試験を免除する。

7-9

デッキプレート (単位 mm)		
1)床用	高さ ● 板厚 ●	
2)合成スラブ用	高さ ● 板厚 ●	
3)型枠用	高さ ● 板厚 ●	形版 タイプ
4)防錆処理	●プライマー ●亜鉛メッキ ●Z12 227	

7-10

塗装(工場塗 ※ 2回 ● 1回、現場タッチアップ程度とする)
1)素地調整
2)下塗り塗料 ※ ケレン ● プラスト

7-11

適用	塗 料	種 別	標準膜厚
屋外 室内			
※ ※	鉛、クロムフリー錆び止め JISK5674	※ 1種 ※ 2種	30 μm
	水系さび止めペイント JASS18 M-111		30 μm
	変性エポキシ樹脂プライマー JASS18 M-109	● 1種 ● 2種	40 μm
	有機ジンクリッチプライマー JISK5552	● 2種	15 μm
	構造物用さび止めペイント JISK5551	A種	30 μm

3) 溶融亜鉛メッキ ● 行う ● 行わない
4) 常温亜鉛メッキ ● 行う ● 行わない
5) 高耐食メッキ鋼板 (t3.2mm以下) ● 用いる ● 用いない

7-12

鉄骨製作工場 下記○印のグレード認定工場の内、納期・製作能力・鉄骨数量を勘案して工場選択のこと
国土交通省大臣認定(グレード)

S	H	●	R	J
---	---	---	---	---

§8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板・PcA板工事

8-1

コンクリートブロック
1)種類 ● A 種 ● B 種 ● C 種
2)厚さ mm ● 100 ● 120 ● 150 ● 190

8-2

ALC パネル
1)使用箇所 ● 床 ● 屋根 ● 外壁 ● 内壁
2)厚さ mm ● 75 (80) ● 100 ● 120 (125) ● 150 ● 175
3)外壁取り付け構法

方 向	構 法	使 用 箇 所	備 考
縦	● ロッキング構法		
横	● アンカー構法		

8-3

押出成形セメント板
外壁取付構法及び厚さ mm ● ●

方 向	構 法	使 用 箇 所	備 考
縦	● ロッキング構法		
横	● スライド構法		

8-4

PcA板
1)床及び屋根
●PcA板単独 厚さ mm ● 床 ● 屋根
●合板板 ● ●

PcA板厚さ mm	現場打厚さ mm	合計厚さ mm	備 考

2)外壁 厚さ mm ● ●

§9 建築設備の構造強度

令第129条の2の3の事項

9-1 建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。
○ 建築設備(昇降機を除く)、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽の恐れがないものとする事
○ 屋上から突出する水櫃・煙突・冷却塔その他これらに類するもの(以下「屋上水櫃等」という)は、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に緊結する事
・ 煙突の往生突出部の高さは、れんが造・石造・コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は、鉄製の支枠を設けたものを除き、90cm以下とする事
・ 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は、厚さが25cm以上の無筋コンクリート造・石造若しくはコンクリートブロック造とする事
○ 建築物に設ける給水・排水その他の配管設備(給湯設備*)を除く)は下記による事
・ 風圧・土圧及び水圧並びに地震その他の振動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とする事
・ 建築物の部分を通って配管する場合に於いては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等、有効な管の損傷防止のための措置を講ずる事
・ 管の伸縮その他の変形により当該間に損傷が生じる恐れがある場合に於いて、伸縮継手又は可撓継手を用いる等有効な損傷防止のための措置を講ずる事
・ 管を支持し、又は固定する場合に於いては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の振動及び衝撃の緩和のための措置を講ずる事
○ 法第20条第一号から三号までの建築物に設ける屋上水櫃にあっては、平成12年建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の振動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする事
○ 給湯設備**は、風圧・土圧及び水圧並びに地震その他の振動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とする事
満水時の質量が15kgを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成12年建設省告示第1388号第5に規定する構造方法による事
* 1「給湯設備」：建築物に設ける電気給湯器その他の給湯設備で、屋上水櫃等のうち給湯設備に該当するものを除いたもの

倉敷市建設局建築部公共建築課

担当

三宅

倉敷市立倉敷第一中学校校舎増築ほか

建築工事

図名

構造特記仕様書

綜企画・倉敷構造設計共同体

一級建築士 第243674号
構造設計一級建築士 第4087号
木村 誠司

設計担当

木村

図番

令和7年9月作成
S-001

倉敷市鉄筋コンクリート構造配筋標準図

設計図書に記載なき場合は本標準図による。

§ 1 一般共通事項

1. 1 鉄筋の折曲げ形状及び寸法

折曲げ 角 度	折 曲 げ 図	折曲げ内法直径 (D)			使 用 箇 所
		SD295	SD345	SD390	
		D16以下	D19～D38	D19～D38	
180°		3 d 以上	4 d 以上	5 d 以上	柱・梁の主筋及び杭基礎の ベース筋並びにD16以上 の鉄筋
135°					あばら筋、帯筋、スパイラル 筋、D13以下の鉄筋
90°					T形及びL形の梁のあばら筋
135° 及び 90°					幅止め筋
90° 以下		4 d 以上 (5 d 以上)	6 d 以上 (6 d 以上)	8 d 以上 (8 d 以上)	その他の鉄筋

(注) 1. Dは、曲げ内法直径

2. dは、呼び名に用いた数値

3. 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90° フック又は135° フックを用いる場合には、余長は4 d以上とする。

4. S D 3 9 0 は、() 内を適用する。

1. 2 鉄筋の継手

(1) 鉄筋の継手は重ね継手、ガス圧接継手又は特殊な鉄筋継手（「鉄筋の継手の構造方法を定める件」(平成12年5月31日 建設省告示第1463号)に適合する機械式継手）とし、適用は特記による。

(2) 鉄筋の溶接は、アーク溶接とし、公共建築工事標準仕様書(建築工事編) 7. 6. 5 [部材の組立] (4) 及び7. 6. 7 [溶接施工] 格者に準じ、工事に相応した技量を有する者とする。

(3) 重ね継手は、次による。
なお、径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。

1) 柱及び梁の主筋並びに耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、特記による。特記がなければ4 0 d (軽量コンクリートの場合は5 0 d) と下記表の重ね継手長さのうち大きい値とする。

2) 1) 以外の鉄筋の重ね継手の長さは、下記表による。

鉄筋の 種 別	コンクリートの 設計基準強度 F c (N/mm2)	L1(フックなし)	L1h(フックあり)
SD295	1 8	4 5 d	3 5 d
	2 1	4 0 d	3 0 d
	2 4、2 7	3 5 d	2 5 d
	3 0、3 3、3 6	3 5 d	2 5 d
SD345	1 8	5 0 d	3 5 d
	2 1	4 5 d	3 0 d
	2 4、2 7	4 0 d	3 0 d
	3 0、3 3、3 6	3 5 d	2 5 d
SD390	2 1	5 0 d	3 5 d
	2 4、2 7	4 5 d	3 5 d
	3 0、3 3、3 6	4 0 d	3 0 d

(注) 1. L1、L1h：重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ

2. フックありの場合のL1hは、下図に示すようにフック部分1)を含まない。

3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5 dを加えたものとする。

フックありの場合の重ね継手長さ

1. 3 隣り合う継手の位置

(1) 隣合う継手の位置は下記表による。ただし、壁の場合及びスラブ筋でD16以下の場合は除く。
なお、先組込み工法等で、柱、梁の主筋の継手を同一箇所には設ける場合は、特記による。

	フックありの場合	フックなしの場合
重ね継手		
圧接継手	—	
機械式継手	—	

1. 4 鉄筋の定着

1. 4. 1 鉄筋の定着の長さ

(1) 鉄筋の定着の長さは、下記表により、適用は特記による。

鉄筋の 種 類	コンクリートの 設計基準強度 F c (N/mm2)	フックなし		フックあり					
		L1	L2	L3		L3h			
				小梁	スラブ	L1h	L2h	小梁	スラブ
SD295	1 8	4 5 d	4 0 d	2 0 d	1 0 d	3 5 d	3 0 d	1 0 d	—
	2 1	4 0 d	3 5 d			3 0 d	2 5 d		
	2 4、2 7	3 5 d	3 0 d			2 5 d	2 0 d		
	3 0、3 3、3 6	3 5 d	3 0 d			2 5 d	2 0 d		
SD345	1 8	5 0 d	4 0 d	2 0 d	1 5 0 mm 以上	3 5 d	3 0 d	1 0 d	—
	2 1	4 5 d	3 5 d			3 0 d	2 5 d		
	2 4、2 7	4 0 d	3 5 d			3 0 d	2 5 d		
	3 0、3 3、3 6	3 5 d	3 0 d			3 0 d	2 5 d		
SD390	2 1	5 0 d	4 0 d	2 0 d	1 5 0 mm 以上	3 5 d	3 0 d	1 0 d	—
	2 4、2 7	4 5 d	4 0 d			3 5 d	3 0 d		
	3 0、3 3、3 6	4 0 d	3 5 d			3 0 d	2 5 d		

(注) 1. L1、L1h：2. 以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ

2. L2、L2h：割製端部のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ

3. L3：小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ（基礎埋込スラブ及びこれを受ける小梁を除く。）
なお、片持小梁及び片持スラブの場合は、20d及び10dを25d以上とする。

4. L3h：小梁の下端筋のフックあり定着の長さ

5. フックあり定着の場合は、1. 4. 2に示すようにフック部分1)を含まない。また、中間部での折曲げは行わない。

6. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5 dを加えたものとする。

1. 4. 2 定着の方法

(1) 定着の方法は下図による。

(2) 仕口内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さLが、1. 4. 1のフックあり定着の長さを確保できない場合は、全長を1. 4. 1に示す直線定着の長さ以上とし、かつ、余長を8 d、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを下記表に示す長さ(かつ、梁主筋の柱内定着においては原則として柱せいの3/4倍以上)をのみ込ませる。

定着起点

1. L2又はL3

全長

L a(ただし、柱せいの3/4倍以上)

余長

梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ

定着起点

1h、L2h又はL3h

全長

小梁及びスラブの上端筋の
梁内折曲げ定着の投影定着長さ
(口) 折曲げ定着

フックあり
(イ) 直線定着

鉄筋の 種 別	コンクリートの 設計基準強度 F c (N/mm2)	L a	L b
SD295	1 8	2 0 d	1 5 d
	2 1	1 5 d	1 5 d
	2 4、2 7	1 5 d	1 5 d
	3 0、3 3、3 6	1 5 d	1 5 d
SD345	1 8	2 0 d	2 0 d
	2 1	2 0 d	2 0 d
	2 4、2 7	2 0 d	1 5 d
	3 0、3 3、3 6	1 5 d	1 5 d
SD390	2 1	2 0 d	2 0 d
	2 4、2 7	2 0 d	2 0 d
	3 0、3 3、3 6	2 0 d	1 5 d

(注) 1. L a：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ（基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブを含む。）

2. L b：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ（片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。）

3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5 dを加えたものとする。

1. 4. 3 溶接金網の継手及び定着

(1) 溶接金網の継手及び定着は下図による。なお、L1は1. 4. 2に、L2及びL3は、1. 4. 1による。

1節半以上、かつ、
150mm以上

鉄筋

重ね継手

スラブの場合

鉄筋

L3

L1

壁の場合

鉄筋

L2

L1

1. 5 鉄筋の最小かぶり厚さ及び間隔

1. 5. 1 鉄筋の最小かぶり厚さ

(1) 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、下記表による。

(2) 貫通孔に接する鉄筋かぶり厚さは最小かぶり厚さ以上とする。

(3) 柱、梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1. 5倍以上として最小かぶり厚さを定める。

構 造 部 分 の 種 別		最小かぶり厚さ
土 に 接 し な い 部 分	スラブ・耐力壁 以 外 の 壁	仕 上 げ あ り 2 0 仕 上 げ な し 3 0
	柱	屋 内 仕 上 げ あ り 3 0 仕 上 げ な し 3 0
		屋 外 仕 上 げ あ り 3 0 仕 上 げ な し 4 0
	耐力壁	仕 上 げ あ り 3 0 仕 上 げ な し 4 0
	擁 壁、耐 圧 ス ラ ブ	4 0
	土 に 接 す る 部 分	柱、梁、スラブ、壁
	基礎、擁 壁、耐 圧 ス ラ ブ	*6 0
	煙 突 等 高 熱 を 受 け る 部 分	6 0

(注) 1. *印のかぶり厚さは普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は特記による。

2. 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ（仕上塗料、塗装等）を除く。

3. スラブ、梁、基礎及び擁壁で直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。

4. 杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭先端からとする。

5. 塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は、特記による。

1. 5. 2 鉄筋の間隔

(1) 鉄筋相互のあきは、下記の値のうち最大のもの以上とする。

1) 粗骨材の最大寸法1. 2 5 倍

2) 2 5 mm

3) 隣り合う鉄筋の平均径（呼び名に用いた数値）の1. 5 倍

4) 鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは上記（1）～（3）のうち最大のもの以上とする。

異形鉄筋

間 隔

L

あ き

D

(注) D：鉄筋の最大外径

§ 2 基礎及び基礎梁の配筋

2. 1 基礎の配筋

2. 1. 1 一般事項

(1) 杭基礎のはかま筋は縦筋、横筋ともD13～300φを標準とする。

(2) 地業の種類及び厚さは特記する。ただし捨コンクリート厚さ5 0 mm、砂利地業厚さ6 0 mmを標準とする。

2. 1. 2 基礎の配筋及び杭頭補強の方法

(1) 杭基礎の場合

< A 形 >

< B 形 >

杭頭補強

(注) 1. 中詰めコンクリート補強筋は、下記による。
●杭径300φ以下……4-D13
●350φ～400φ……6-D13
●450φ～600φ……8-D13
●帯筋：D10～100φ
2. 中詰めコンクリート補強筋にはフックをつけない。

A 形、B 形とも(平面)

(2) 直接基礎の場合

< 独立基礎 >

< 連続基礎 >

2. 2 基礎接合部の補強

0 < D ≤ 200

200 < D ≤ 1000

(注) L2hを確保できない場合は、1. 4. 2にすることができる。

2. 3 基礎梁筋の継手、定着及び余長

2. 3. 1 一般事項

(1) 梁筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。
ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、図2. 3. 1による。

(2) 梁筋を柱内に定着する場合は、4. 1. 1(3)による。

(3) 継手中心位置は図2. 3. 2の斜線部分とする。

図 2. 3. 1

独立基礎で基礎梁にスラブが
つかない場合

連続基礎及びべた基礎

2. 3. 2 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合

図 2. 3. 2

(注) 1. 図示のない事項は、4. 1による。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
※ L aの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

2. 3. 3 独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合（耐圧スラブが付く場合は、2. 3. 4による）

(注) 1. 図示のない事項は、4. 1による。

2. 印は、継手及び余長位置を示す。

3. 破線は、柱内定着の場合を示す。

※ L aの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

2. 3. 4 連続基礎及びべた基礎の場合

(注) 1. 図示のない事項は、4. 1による。

2. 印は、継手及び余長位置を示す。

3. 破線は、柱内定着の場合を示す。

※ L aの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

2. 4 基礎梁のあばら筋

(1) あばら筋組立の形及びフックの位置は、4. 2. 2による。

(2) 梁の上下にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1. 5 m以上の場合は、下図にすることができる。

一般の場合

重ね継手とする場合

§ 3 柱

3. 1 柱筋の継手及び定着

3. 1. 1 一般事項

(1) 継手中心位置は、梁上端から500mm以上、500mm以下、かつ3 h o / 4（h oは柱の内法高さ）以下とする。

(2) 柱頭定着長さL2が確保できない場合は、構造計算等により必要長さの確認を行うものとする。

(3) 柱頭柱主筋は、梁上端主筋との取合いを考慮し、適切なかぶり厚さを確保する。

500 mm以上かつ1,500 mm以下

500 mm以下かつ1,500 mm以下

500 mm以上かつ1,500 mm以下

500 mm以下かつ1,500 mm以下

3. 2 帯 筋

3. 2. 1 帯 筋

(1) 帯筋の種類及び間隔は、特記による。

(2) 帯筋組立の形は、特記がなければ、下記による。

(3) フック及び継手の位置は、交互とする。

(4) 上下の柱断面寸法が異なる場合は、帯筋は、一般の帯筋より1 サイズ太い鉄筋又は同径のものを2本重ねたものとする。

図 3. 2. 1

図 3. 2. 2

(注) 1. 隣り合う継手の位置は1. 3の表による。
2. 柱の四隅にある主筋で、重ね継手に場合及び真上層の柱頭にある場合はフックを付ける。

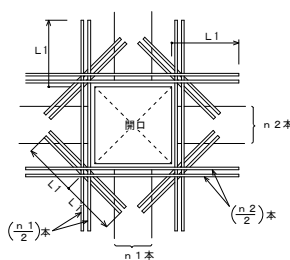
倉敷市建設局建築部公共建築課	担当	三宅
倉敷市立倉敷第一中学校校舎増築ほか	建築工事	
鉄筋コンクリート構造標準配筋図 R C - 1		
綜企画・倉敷構造設計共同体		
一級建築士 第243674号 構造設計一級建築士 第4087号 木村 誠司	設計担当	令和7年9月作成
	木村	図番 S-002

RC構造配筋標準図_RC-T(260601改定)

6. 3 スラブ開口部の補強

(1) スラブ開口の最大径が700mm以下の場合は、スラブ開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13 (I=2L1) シングルを上下筋の内側に配筋する。

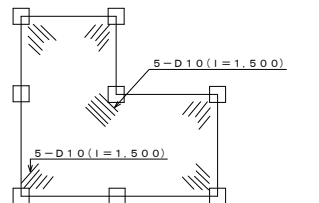
(2) スラブ開口の最大径が両方向の鉄筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。



6. 4 その他の補強

6. 4. 1 屋根スラブ

屋根スラブの出隅及び入隅部分には、下図により、補強筋を上端筋の下側に配置する。



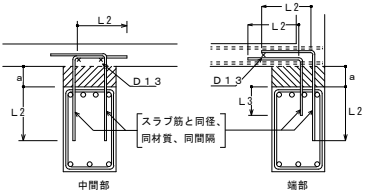
6. 4. 2 壁付きスラブ

(1) スラブに上端筋がなく、壁が付いている場合には、下図により補強筋を入れる。

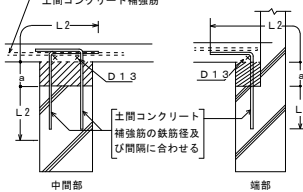


6. 4. 3 土間スラブ、土間コンクリートの打継ぎ補強

(1) 土間スラブの打継ぎ補強



(2) 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋



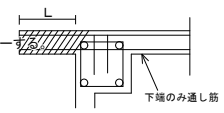
(注) 1. 土間コンクリートとは、土に接するスラブのうち、床荷重を直接支持地盤へ伝達できるものをいい、それ以外は土間スラブとして、梁及び柱を介して基礎へ荷重を伝達するものとする。
2. aが300mm以下の場合に限る。

6. 5 増築予定がある場合

(1) 継手長さL=L1+0.5L1

(2) 増築取合せ部分の床主筋は増築用床まで延長することなく梁にアンカー

(3) 右図ハッチ部分はラスモルタルとし現場の状況に応じて指示する。



§ 7 梁貫通孔補強

梁貫通孔の補強はこの標準配筋により、孔の形状寸法および配筋種別は特記する。

7. 1 一般事項

(1) 孔の径は、梁せいの1/3以下とし、孔が円形でない場合はこの外接円とする。

(2) 孔の上下方向の位置は梁せい中心付近とし、梁中央部下端は梁下端より1/3Dの範囲に設けてはならない。

(3) 孔は、柱面から、原則として、1.5D (Dは梁せい) 以上離す。
ただし、基礎梁、壁付帯梁は除く。

(4) 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。

(5) 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。

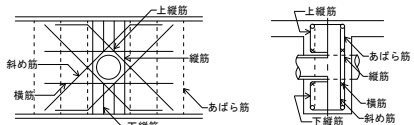
(6) 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは下図による。

(7) 孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

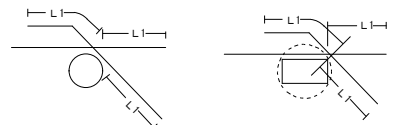
(8) 溶接金網の余長は1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。

(9) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋1-13φのリング筋を取り付ける。
なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。

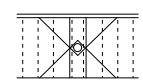
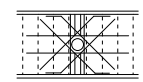
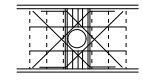
(10) 溶接金網の割付け始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中止とする。



H形



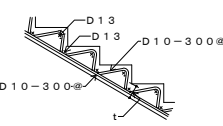
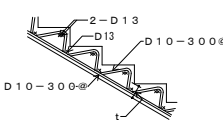
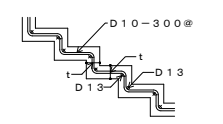
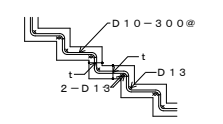
7. 2 補強の形式と種類

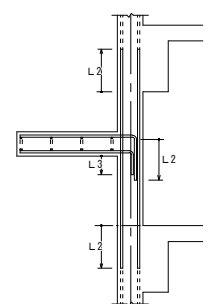
H形配筋					
配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	
H1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H2		2-2-D13			
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16				
H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H6	4-2-D19				
H7	4-2-D22				

(注) - - - は、一般部分のあばら筋を示す。

§ 8 階段の配筋

8. 1 片持スラブ形階段の基準配筋

片持スラブ形階段の基準配筋				
配筋種別	KA1	KA2		
配筋図				
配筋種別	KA3	KA4		
配筋図				

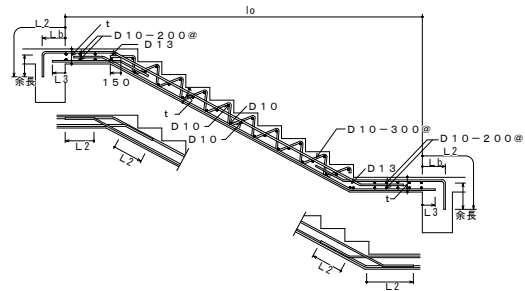


片持スラブ形階段配筋の定着

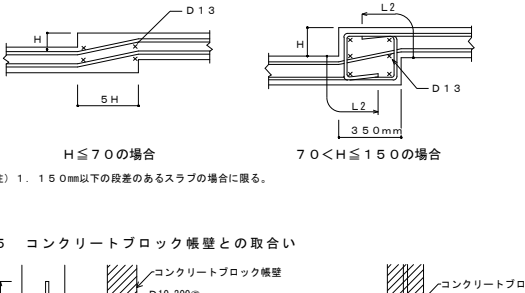
(注) 1. 階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に下ろす。
2. スラブ配筋筋の継手及び定着の長さは、1.4.1(2)のL3とする。

8. 2 二辺固定スラブ形階段の基準配筋

二辺固定スラブ形基準配筋	
配筋種別	上端筋、下端筋とも (全域)
KB1	D13-200@
KB2	D13-150@
KB3	D13-100@
KB4	D13、D16-150@
KB5	D16-150@
KB6	D16-125@
KB7	D16-100@



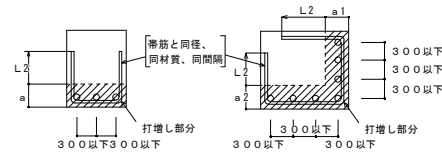
二辺固定スラブ形階段配筋 (その1)



二辺固定スラブ形階段配筋 (その2)

9. 2 その他の補強

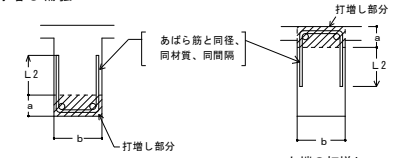
9. 1 柱の打増し補強



柱の打増し補強

(注) 1. 柱の打増し幅 (a, a1, a2) が70mm以上の場合は補強を示す。
2. 寄筋と同一方向の補強筋は、寄筋と同径、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。
3. 横方向の補強間隔は300mm以下とする。

9. 2 梁の打増し補強



梁の打増し補強

(注) 1. 梁の打増し幅 (a, a1, a2) が70mm以上の場合は補強を示す。
2. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同径、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

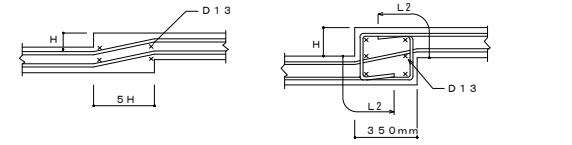
9. 3 壁の打増し補強



壁の打増し補強

(注) 1. 壁の打増し幅 (a) が50mm以上の場合は補強を示す。

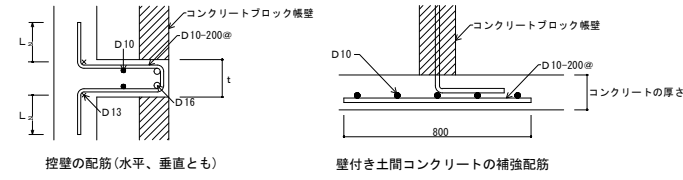
9. 4 段差のあるスラブの補強



段差のあるスラブの補強

(注) 1. 150mm以下の段差のあるスラブの場合に限る。

9. 5 コンクリートブロック帳壁との取合い



コンクリートブロック帳壁との取合い

倉敷市建設局建築部公共建築課	担当	三宅
倉敷市立倉敷第一中学校校舎増築ほか	建築工事	
鉄筋コンクリート構造標準配筋図 RC-3		
総企画・倉敷構造設計共同体		
一級建築士 第243674号	設計担当	令和7年9月作成
構造設計一級建築士 第4087号	木村 誠司	図番 S-004

RC構造配筋標準図_RC-3(260601改定)

鉄骨構造標準図(1)

※修正箇所は下線を引くこと

1. 一般事項

(1) 材料及び検査

- (a) 構造設計特記仕様による。
(b) 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが40mm以下のものとする。
ただし、ベースプレートの厚さは除く。
(c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法・精度及びその他の結果を添付する。

(2) 工作一般

- (a) 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る。
(b) 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による。
(c) 高張力鋼の歪み矯正は、冷間矯正とする。

(3) 高力ボルト接合

- (a) 本締め使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない。
(b) 高力ボルトの摩擦面の処理は黒皮などを座金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した赤さび状態であること。ただし、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面荒さが、 $50\mu\text{mR}_z$ 以上である場合は、赤さびは発生しないまでよい。
(c) 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分に密着するように注意して行う。

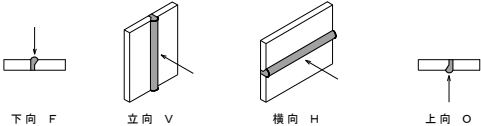
(4) 溶接接合

- (a) 平成12年建設省告示第1464号第二号イ、ロによる、溶接部の性能、溶着金属の性能を満足すること。
(b) 溶接技能者
溶接技能者は施工する溶接に適用するJISZ3801(手溶接)又はJISZ3841(半自動溶接)の溶接術検定試験に合格し引続き、半年以上溶接に従事している者とする。
(c) 溶接機器
(イ) 交流アーク溶接機 300A～500A (ニ) 炭酸ガスアーク半自動溶接機
(ロ) アークエアーガウジング機(直流) (ホ) 溶接電流を測定する電流計
(ハ) サブマージアーク溶接機一式 (ヘ) 溶接棒乾燥機

(d) 溶接方法

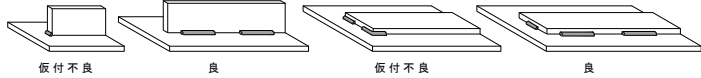
- アーク手溶接 (M C) ガスシールドアーク半自動溶接 (G C)
セルフ(ノンガス)シールドアーク半自動溶接 (N G C) アークエアーガウジング (A A G)

(e) 溶接姿勢

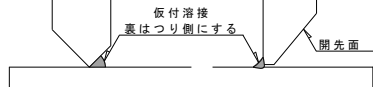


(f) 組立溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う。

- (イ) 仮付位置
組立溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける。



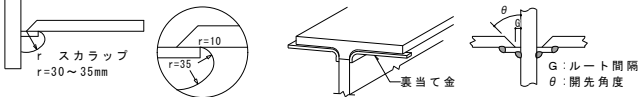
(ロ) 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する。



(g) 溶接施工

- (イ) エンドタブ
I) 完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける。
II) エンドタブの材質は、母材と同質とする。
III) エンドタブの長さは、M C : 35mm以上
N G C、G C : 40mm以上とし特記のない場合は、
溶接終了後、母材より10mm程度残し切断して、
グラインダー仕上げとする。
IV) プレス鋼板タブ、円形タブ使用については、資料を提出し設計者、又は工事監理者の承認を得る。
(ロ) 裏当て金
材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上、巾は25mm以上を原則とする。
ただし、溶接性能が確認できれば監理者の承認を得て変更することができる。
(ハ) スクラップ半径は30～35mmと10mmのダブルールとする。
ただし梁成が D=150mm未満の場合のスクラップはr=20mmとする。

(ニ) ノンスクラップ工法



(ホ) 裏はつり

標準図の溶接において A A G と記載のある部分は全て、溶接監理者の確認を励行し、部材に確認マークを付ける。

- (ヘ) 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。
また、開先部を傷めないように養生を行う。

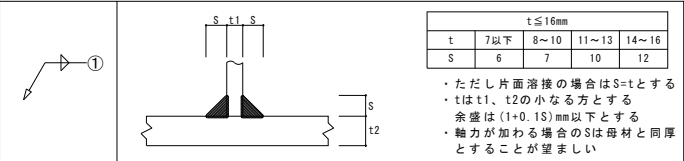
(5) 塗装

コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない。

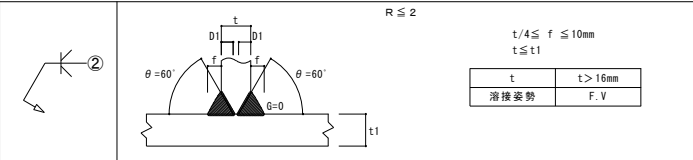
2. 溶接規準図 (注) f:余盛 G:ルート間隔 R:フェース S:脚長

(単位mm)

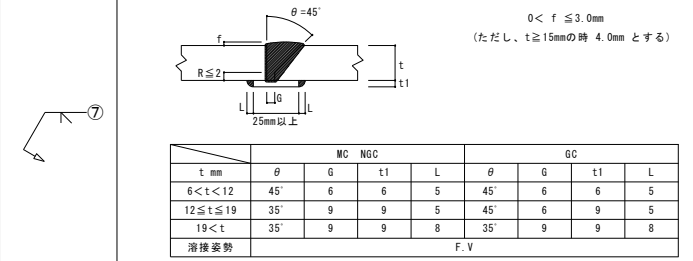
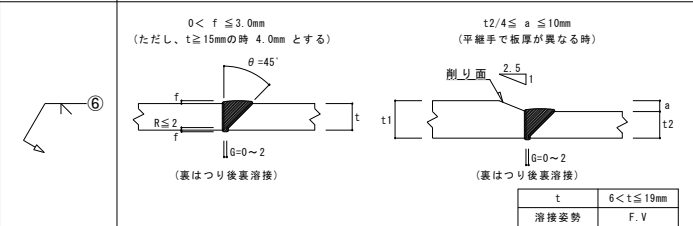
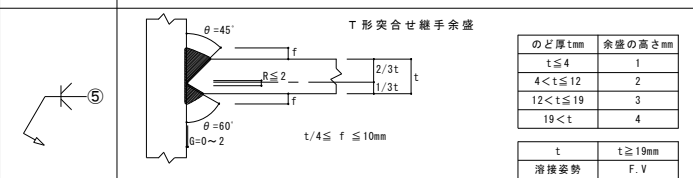
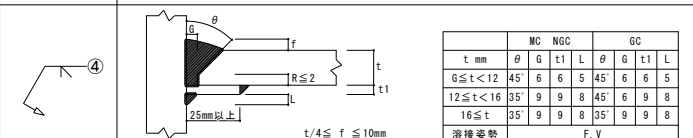
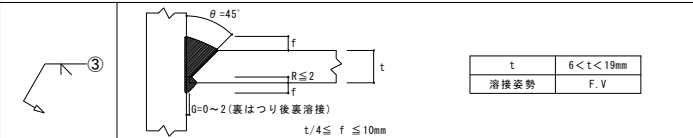
(1) 隅肉溶接



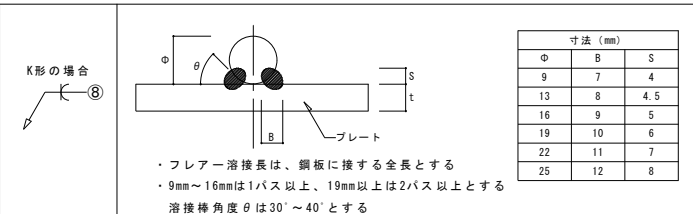
(2) 部分溶け込み溶接 (使用箇所注意)



(3) 完全溶込み溶接 (平継手 T形継手)

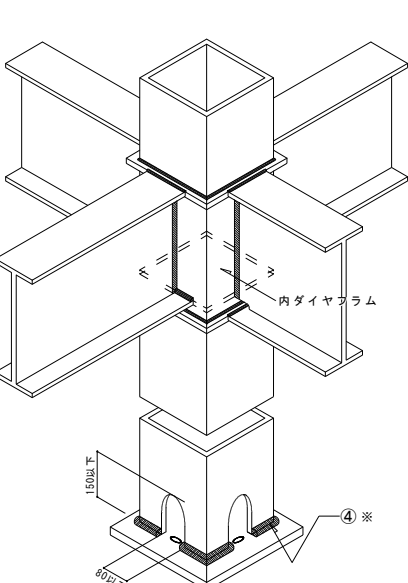


(4) フレアー溶接



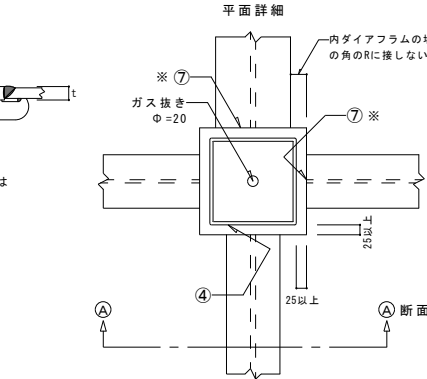
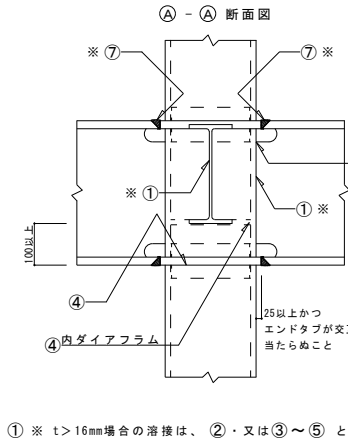
※ 溶接記号番号を○中に記入のこと

●BOX型 (通しダイアフラムの場合)



● 柱が途中で折れる場合 及 梁成が異なる場合

⑦ ※ はリフランジは、通しダイアフラムの厚み(t)の内部で溶接する事。



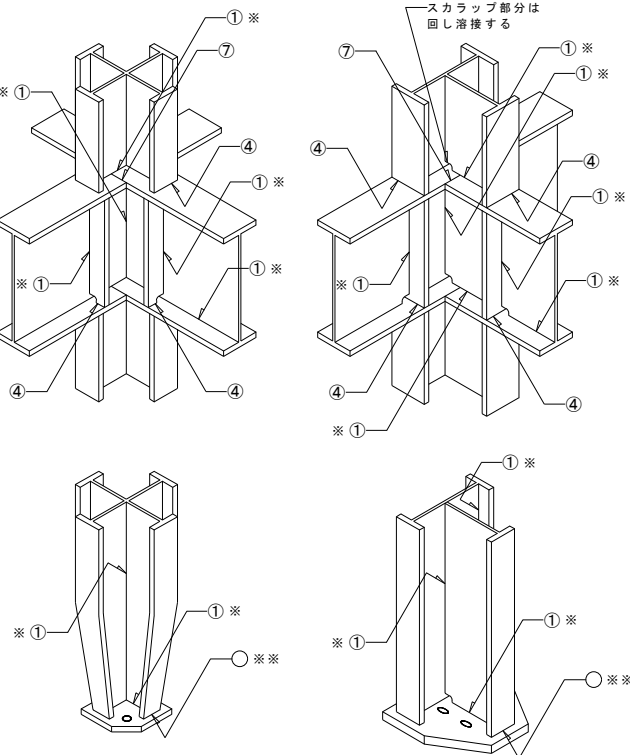
ダイアフラム厚は、接合する梁の最大厚の2サイズアップ以上とする。
<柱材料:BCR295、BCP325を使用する場合>
ダイアフラムは、柱フランジ厚 16 mm未満の場合 SN490C SN490B
柱フランジ厚 16 mm以上の場合 SN490C を使用する。

●鋼材種別による溶接条件

鋼材の種類	溶 接 材 料	入熱 (KJ/cm)	バス間温度 (℃)
400N級鋼	JIS Z 3211、3212、3214	40以下	350以下
	YGW-11、15		
	YGW-18、19		
	YGA-50W、50P		
490N級鋼	JIS Z 3212、3214	40以下	350以下
	YGW-11、15		
	YGW-18、19		
	YGA-50W、50P		

注) STKR、BCR、BCP材はJIS Z 3312、のみ使用可
「構造設計特記仕様 6.鉄骨工事(2)口認定または登録工場」のグレード別に定められた適用範囲と溶接条件制限事項による。

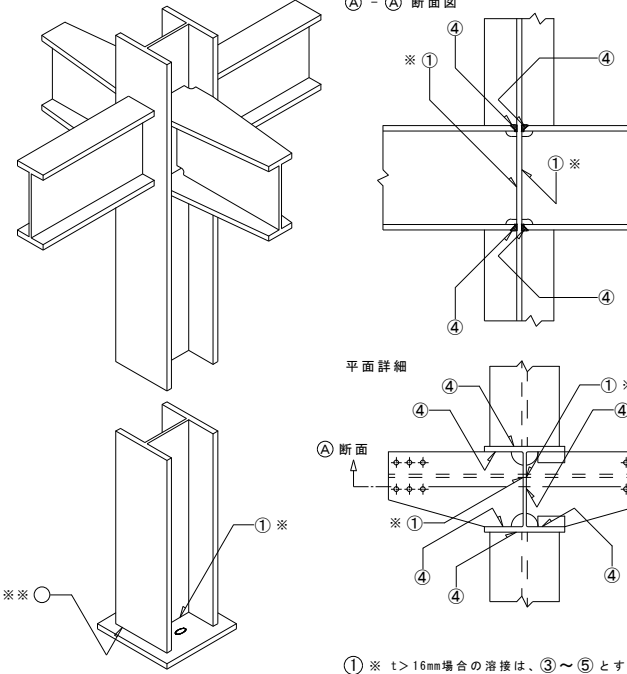
●I-I型



① ※ t>16mm場合の溶接は、②又は③～⑤とする。

○ ※ 印は設計者が記入すること。

●B.H方式



① ※ t>16mm場合の溶接は、③～⑤とする。

倉敷市建設局建築部公共建築課	担当	三宅
工事名	倉敷市立倉敷第一中学校校舎増築ほか	建築工事
図名	鉄骨構造標準図 S-1	
綜企画・倉敷構造設計共同体		
一級建築士 第243674号 構造設計一級建築士 第4087号 木村 誠司	設計担当	令和7年9月作成
	木村	図番 S-005

※修正箇所は下線を引くこと

(1) 高力ボルト、ボルト、アンカーボルトのピッチ (P)

【注】 (1) 引張材の接合部で応力方向にボルトが3本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離
(2) せん断縁・手動ガス切断縁の場合の縁端距離
(3) 圧延縁・自動ガス切断縁・のこ引き縁・機械仕上縁の場合の縁端距離

Figure 10 consists of three cross-sectional diagrams of a column-beam joint, labeled (TYPE-1), (TYPE-2), and (TYPE-3). Each diagram shows a column with main reinforcement (10) and column reinforcement (PL-(2) for TYPE-1, PL-(1) for TYPE-2 and TYPE-3). The diagrams also show the column reinforcement (N) and the main reinforcement (10) with a 100mm lap length. The diagrams are labeled with dimensions and reinforcement details.

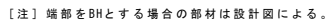
(TYPE-1) shows a column with main reinforcement (10) and column reinforcement (PL-(2)) with a 100mm lap length. The diagram is labeled with dimensions and reinforcement details.

(TYPE-2) shows a column with main reinforcement (10) and column reinforcement (PL-(1)) with a 100mm lap length. The diagram is labeled with dimensions and reinforcement details.

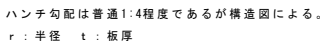
(TYPE-3) shows a column with main reinforcement (10) and column reinforcement (PL-(1)) with a 100mm lap length. The diagram is labeled with dimensions and reinforcement details.

H-100x50 及び H-150x75 の場合

(3) 剛接合梁継手リスト (SCSS-H97による)



(4) ハンチ部の継手



$B_1 \leq 250$ $B_1 = 300$ $B_1 = 350 (400)$

B_1	B_2
150	60
175	70
200	80
250	100
300	110
350	140
400	170

$D \leq 150$ $D \leq 300$

35以上

エレクションピース

Aタイプ
Aタイプ使用は
柱 D=250mm以下とする

Bタイプ
Cタイプ

注] 現場溶接は原則として超音波探傷試験を100%行う。

(6) 鉄筋ブレース (JIS規格品とする …JIS A 5540…1982/5541・5542…2003)

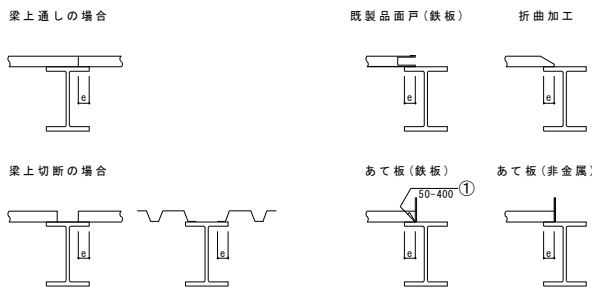
[注] (1) e_1, e_2 が確保されていれば形状は自由でよい。

(2) 羽子板とガセットプレートの場合は表に示す取付けボルトを使用し、一面せん断(支圧)接合とする。

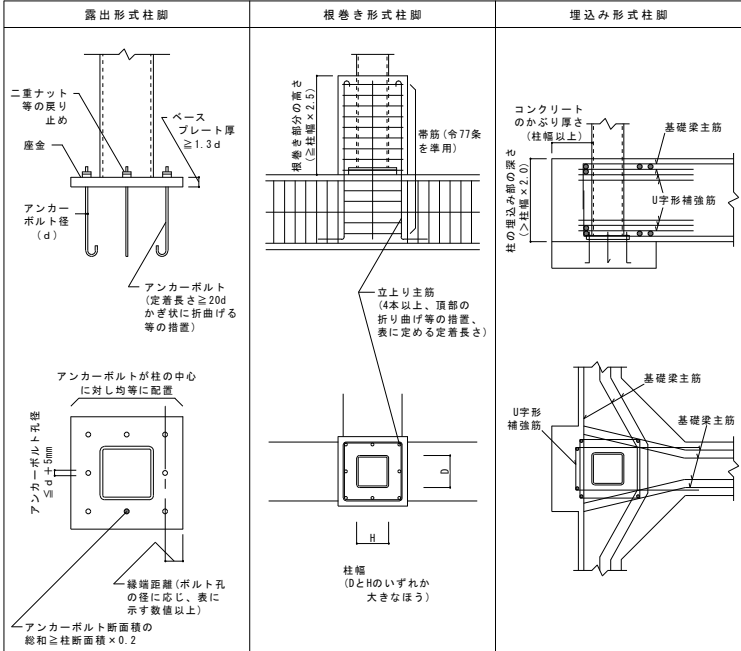
梁との溶接およびコネクター

アークスポット溶接
16Φ ≒#200

水平ブレース

受梁へのかかり寸法及端部処理 $e \geq 35\text{mm}$ 

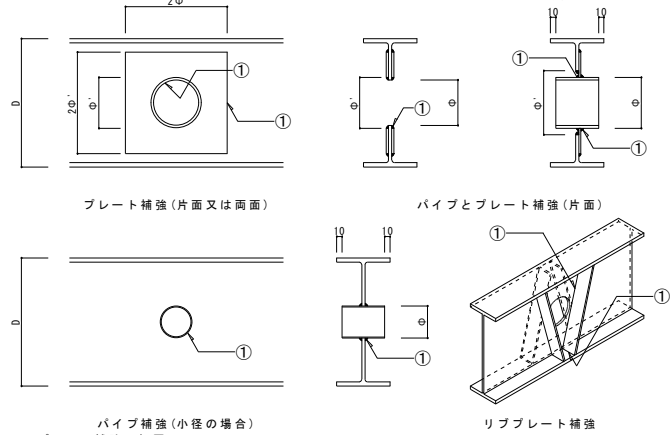
注) 許容応力度計算を行わなかった場合の構造形式



スタッド材の標準形状・寸法

(10) 梁貫通補強

- ・計算で確認された場合は下図の位置、寸法及び補強方法によらずに良い。
- ・梁端部(内法スパン10の1/10以内かつ、2D以内)は避ける。
- ・ $\Phi \leq 0.4D$
- ・ Φ' は補強板の穴径を示す。



スリーブ径	補 強 板
$\phi \leq 0.150$	補強板不要
$\phi \leq D/4$	Web板厚以上(片面)
$\phi \leq D/3$	Web板厚 $\times 1.2$ 倍以上(片面)
$\phi \leq 0.40$	Web板厚以上(両面)

倉敷市建設局建築部公共建築課		担当	三宅
工事名	倉敷市立倉敷第一中学校校舎増築ほか 建築工事		
図名	鉄骨構造標準図 S-2		
綜企画・倉敷構造設計共同体			
一級建築士 第243674号 構造設計一級建築士 第4087号 木村 誠司	設計担当	令和7年9月作成	
	木村	図番	S-006

ハイベースNE0工法設計施工標準

(ハイベースNE0工法は、S造及びC F T造に適用)

2025/10

大臣認定
BCJ評定

MSTL-0566 (Gタイプ用ベースプレート)
MBLT-0042~0044, 0046, 0228~0230 (アンカー用ボルトセット)
BCJ評定-ST0058 (Gタイプ)
BCJ評定-ST0059 (エコタイプ、高強度柱適用タイプ)

本工法の設計・施工は、鋼構造設計規程、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書 J A S S 6 鉄骨工事、建築工事標準仕様書・
同解説 J A S S 5 鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNE0工法設計ハンドブックに準拠する。

設計

1. 材質

(1) ベースプレート・アンカーボルト・ナット・座金・定着板

エコタイプ (EB型式、EM型式、EH型式)、高強度柱適用タイプ (KB型式)

規 格	ベースプレート		アンカーボルト	エコナット	ナット	座 金	定着板
	エコタイプ	高強度柱適用タイプ					
ね じ の 種 類	JIS G3136 又はTMCP鋼	TMCP鋼	HAB (大臣認定取得材)	大臣認定取得材	JIS B1181 (六角ナット)	JIS G3106	JIS G3101 (一般構造用 圧延鋼材)
	—	—	メートル並目	メートル並目	メートル並目	—	—
備 考	板厚40mm以下の場合 SN490B 板厚40mm超の場合 TMCP325B、C		TMCP385B、C	降伏比 70%以下	—	強度区分5	SM490A SS400

エコタイプ、高強度柱適用タイプのベースプレート上ナットはエコナットを使用する。

Gタイプ (GB型式、GM型式、GH型式)

規格	ベースプレート	アンカーボルト	ナット	座金	定着板
	HCW490B (大臣認定取得材)	HAB (大臣認定取得材)	JIS B1181 (六角ナット)	JIS G3106	JIS G3101 (一般構造用 圧延鋼材)
ねじの種類	—	メートル並目	メートル並目	—	—
備考	SN490B同等	降伏比 70%以下	強度区分5 (二重ナット時) 強度区分8 (一重ナット時)	SM490A	SS400

※1 国土交通大臣認定 (MSTL-0566) ※2 国土交通大臣認定 (MBLT-0042~0044, 0046, 0228~0230)
※3 M72は細目ねじ ※4 建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定を取得した材料を使用 ※5 電炉材を使用する場合があります

(2) ベースプレート下面のモルタル

後詰めモルタル ハイベース工法無収縮モルタルNX-2000、又はクイック3およびこれと同等以上の無収縮性モルタル*
※ センクシアが供給するものに限る

中心塗部分モルタル ○無収縮モルタルパッド用又は普通モルタル (NX-2000及びクイック3は使用不可。)
○強度はこれに接するコンクリートの強度以上

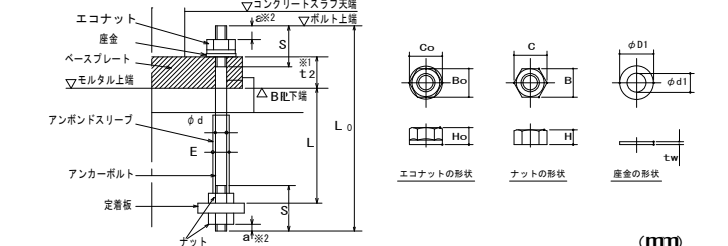
(3) 基礎・基礎ばり

コンクリート ○日本建築学会「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に適合する普通コンクリート
○設計基準強度は、 $F_c = 18 \sim 36 \text{ N/mm}^2$

鉄筋 JIS G 3112「鉄筋コンクリート用棒鋼」に定められる、熱間圧延異形棒鋼
柱 形 ヘリあき量は、ベースプレート外形寸法の0.1倍以上確保しなければならない。

2. アンカーボルトのセット寸法

エコタイプ、高強度柱適用タイプ用アンカーボルト部品



ねじの呼び	アンカーボルト					エコナット		ナット		座金	
	軸径	ねじ径	ねじ長さ	全長さ	外径	高さ	二面幅	対角距離	高さ	二面幅	対角距離
エコタイプ※3	M24	24	3	95	10	480	550	29	22	46	53
	M30	30	3.5	110	13	480	580	35	27	50	58
	M36	36	4	130	16	480	600	41	33	55	64
	M42	42	4.5	155	18	480	690	48	38	65	75
高強度柱適用タイプ	M42	42	4.5	155	18	840	1080	48	38	65	75
	M42	42	4.5	165	18	840	1110	48	38	65	75

※1 t_2 はベースプレート台座厚さを示し、ハイベースNE0型式によって変わります。
※2 a寸法は設置誤差を考慮した設計時の最小寸法です。
施工時は、ねじ山が最低3山ナットの外に出るように余長を確保してください。
※3 表中のエコタイプ上段はEB、EM型式のアンカーボルト4本タイプ、
エコタイプ下段はEB、EM型式のアンカーボルト8本、12本タイプ及びEHタイプの場合の寸法です。



・エコタイプ、高強度柱適用タイプのアンカーボルトはシングルナットとしておりますので、ゆるみ止め処置としてコンクリートスラブで被覆してください。
・コンクリートによる被覆を行わない場合は、二重ナット等のゆるみ止め処置が必要です。
・その場合、せん断耐力が変化する可能性がありますのでセンクシアにご相談ください。
・アンカーボルト上部には必ずエコナットを使用してください。通常のナットでは所定の性能が発揮できません。

センクシア株式会社

本社 TEL 03-4214-1932
札幌 TEL 011-708-1177
東北 TEL 022-213-5595

URL <https://www.senqcia.co.jp/>

関東 TEL 027-322-9411
中部 TEL 052-582-3356
北陸 TEL 076-233-5260
関西 TEL 06-6395-2133
中国 TEL 082-240-1630
九州 TEL 092-452-0341

工場加工

1. 溶接材料

被覆アーク溶接 JIS Z 3211 (旧JIS Z 3212) に従い選定する (低水素系)

ガスシールドアーク溶接 JIS Z 3312 又は JIS Z 3313に従い選定する

※ベースプレートと柱のF値が異なる場合は、JASS6や各材質毎に定められた指針に従い溶接材料を選定する。

2. ベースプレートの鉄骨柱への取付け (柱端部に開先を設ける)

※ 柱とベースプレートの溶接は完全溶込み溶接
開先はMC-T L-1 B、GC-T L-1 Bによる ※開先形状は参考

ベースプレート形状		開先形状
角形鋼管柱用 (EB型式)	円形鋼管柱用 (EM型式)	
アンカーボルト 4本タイプ	アンカーボルト 8本タイプ	
高強度角形鋼管柱用 (KB型式)	H形柱用 (EH型式)	
アンカーボルト 4本タイプ	アンカーボルト 8本タイプ	



柱はベースプレートのフラット面に
取り付けてください。
アンカーボルト孔周辺に凹加工して
いる面はベースプレート表面であり、
無収縮モルタルと接する面となります。

ベースプレート形状		開先形状
角形鋼管柱用 (GB型式)	円形鋼管柱用 (GM型式)	
アンカーボルト 4本タイプ	アンカーボルト 8本タイプ	
高強度角形鋼管柱用 (KB型式)	H形柱用 (GH型式)	
アンカーボルト 4本タイプ	アンカーボルト 8本タイプ	

3. 組立溶接

角形鋼管	円形鋼管	H形	角形鋼管	円形鋼管	H形

5. 溶接施工一般

予熱	鋼材の種類、板厚により必要に応じて適切な予熱を行う。
余盛	溶接余盛はベースプレート側A点から 柱側B点へ向かってなめらかになるよ うに施工する。 余盛高さは、柱接合突出部形状に対応 し突き合わせ継手またはT継手余盛り 高さに準拠する (Gタイプ)。
H形柱の溶接	エンドタブの取付とH形柱ウェブの すみ肉溶接

⚠注意 柱の溶接時にベースプレートとの組合せによってはベースプレートが溶接熱室によって曲がる場合があります。

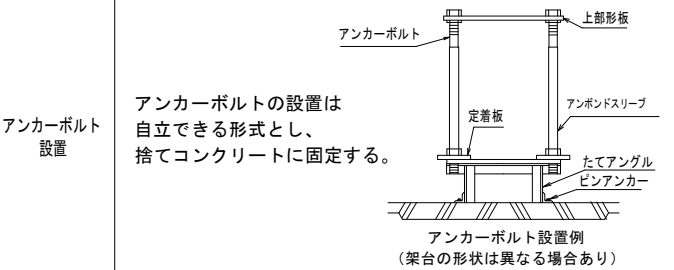
6. 検査

方法	溶接部の検査を行う場合は、超音波探傷検査による。 探傷は柱フランジ側から行う。
不良溶接部の補正	(1) 有害な欠陥のある溶接部は削除して再溶接する。 (2) 溶接部に割れの入った場合には、割れの入った両端から 50mm以上、はつり取り再溶接する。

現場施工

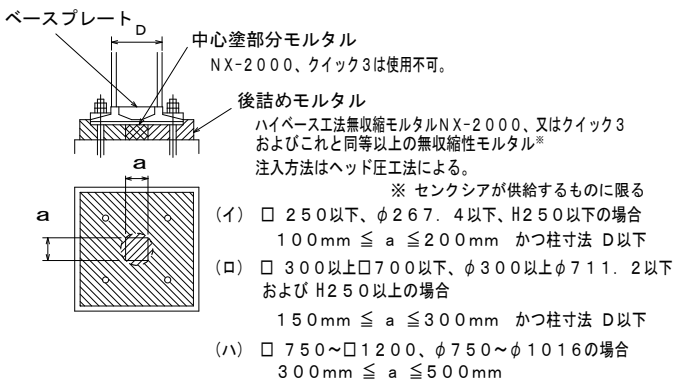
(#): センクシアの担当範囲

- 捨てコンクリート打設
柱脚部の捨てコンクリートの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。
- 墨出し
- アンカーボルト搬入 (#)
- アンカーボルト据付 (#)



平面	レベル
	基準高さよりの誤差eh - 3mm ≤ eh ≤ 10mm e ≤ 3mm (形板芯にて検査)

- 鉄筋配筋・型枠の立込み
- 基礎コンクリート打設
基礎柱形上面の目荒らし・水洗いを行ってください。
- 中心塗り部分モルタル施工



中心塗部分モルタル及び後詰めモルタルの養生
基礎、基礎ばりコンクリートの強度以上となるよう養生期間を確保すること。

EB, GB, EM, GM, EH, KB型式	GH型式
8. 鉄骨建方 アンカーボルト締付 アンカーボルトは隙間がないよう確実に 締め付けを行う。	8. 鉄骨建方 9. モルタル注入枠設置 (#) 後詰めモルタル充填 (#)
9~10. モルタル注入枠設置 (#) 後詰めモルタル充填 (#) アンカーボルト締付確認 (#) ベースプレートと座金とナットが密着 していることを確認。	10. アンカーボルト締付 (#) 予備締め マーキング ナット回転法による本締め (30°回転、許容差: ±10°)

11. モルタル注入枠取り外し

施工完了後、ハイベースNE0工法のチェックシートに工事記録を記載する。



注意

- アンカーボルトの設置、無収縮モルタルの充填、これらの施工は、センクシアが定めた認定業者が行うこと。(日本建築センターの評定で義務付けられています。)
- アンカーボルト及びナットは加熱、溶接、加工は絶対に行わないでください。
- 設置後のアンカーボルトのねじ部は打ちきずやコンクリートが付着しないようにねじ部の保護養生をしてください。
- 建て入れ直し用のワイヤをアンカーボルトにとらないでください。
- 本資料以外の施工方法で行った場合、ハイベースNE0の性能が発揮できなくなります。

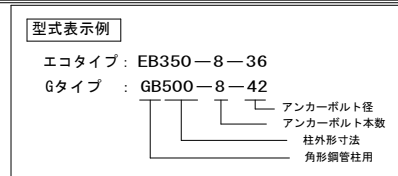
ハイベースNE0工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc21の場合)
〈角形鋼管柱用 □150～□550〉

(ハイベースNE0工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用)
(ハイベースNE0工法エコタイプは、S造及びCFT造に適用)

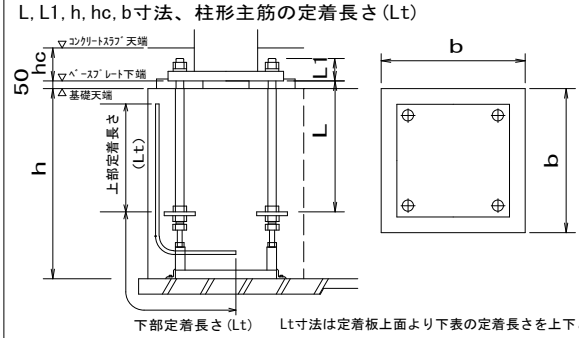
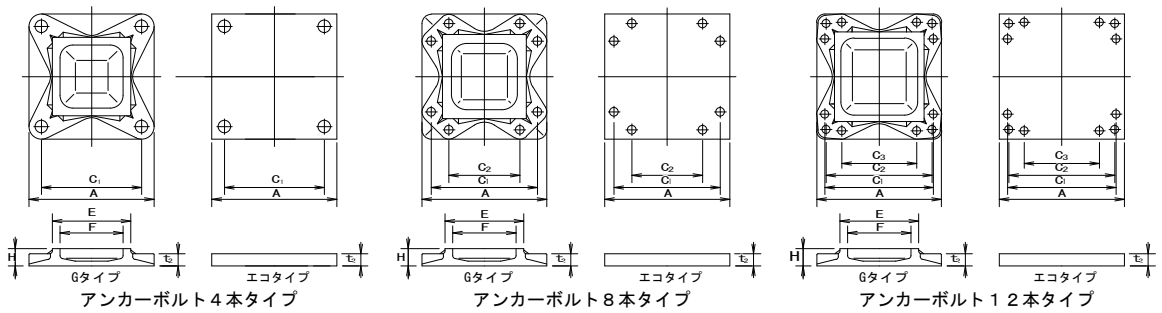
大臣認定
BCJ評定

MSTL-0566, 0404, 0180 (Gタイプ用ベースプレート)
MBLT-0042～0044, 0046, 0228～0230 (アンカーボルト)
BCJ評定-ST0058 (Gタイプ)
BCJ評定-ST0059 (エコタイプ)
本工法の設計・施工は、鋼構造設計規程、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書 J A S S 6 鉄骨工事、建築工事標準仕様書 同解説 J A S S 5 鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNE0工法設計ハンドブックに準拠する。

2025/10



ベースプレート形状



エコタイプはシングルナット仕様（コンクリートスラブに埋込）
Gタイプはダブルナット仕様（露出が標準）
注）表中のh寸法は杭がない場合です。
杭がある場合は表中のh寸法に+100mm以上確保して下さい。
Gタイプでコンクリートスラブに埋め込む場合、スラブ厚（hc寸法）は
“L1寸法+最低40mm以上のかぶり”となる寸法を確保してください。

・ハイベースNE0工法
(角形鋼管柱用□150～□550)

採用		適用 柱	ハイベースNE0型式		アンカ ボルト X10 ⁴ kN・m/rad	寸法 (mm)										質量 (kg)			L (mm)	L1 (mm)	基礎埋め 透てコンクリート		基礎柱形の設計例 (Fc21) < 側・隅柱用 >		基礎柱形の設計例 (Fc21) < 中柱用 (4方向から基礎梁が取り付く場合のみを示す。)>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
						h (mm)	hc (mm)	I ゾーン				I ゾーン									鉄筋の定着長さ Lt (mm)	I ゾーン				I ゾーン				鉄筋の定着長さ Lt (mm)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
								柱形 (mm)	主筋量	帯筋	柱形 (mm)	主筋量	帯筋	柱形 (mm)	主筋量							帯筋	柱形 (mm)	主筋量	帯筋																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
柱符号	数量	柱サイズ	板厚範囲	エコタイプ	Gタイプ	A	C1	C2	C3	E	F	H	t ₂	ベースプレート	部品	セツト質量																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									

1. 工法概要

1. 1 工法概要

クラウンパイルアンカー工法は、SC 杭の杭頭鋼管外周部に定着部材（以下、杭頭アンカー）を接続する金物（以下、杭頭金物）を部分溶込み溶接した後、杭頭金物のカブラー雌ねじ部に杭頭アンカーのねじ節鉄筋部を螺合することで、杭頭と基礎コンクリートを接合する工法である。
基礎コンクリートは杭頭上端より上部を「主基礎部」、杭のみ込み部周囲を「副基礎部」と呼称し、杭頭側面と副基礎部の応力伝達を考慮した設計の適用有無により、杭頭接合部の構造規定が異なる。（杭ごとに、概要図Aまたは概要図Bのいずれかが適用される。）

● 概要図 A（主基礎部の応力伝達のみ考慮した設計の場合）

主基礎部

副基礎部

杭頭アンカー

定着板ナット

定着板

基礎コンクリート

はかま筋

ベース筋

杭頭金物

割裂防止筋

レベルコン

中詰めコンクリート

杭鋼管

最低定着長(L1)

h1

h2

h1

H

杭頭アンカーの配置直径

(杭径+200mm)

部分溶込み溶接

● 概要図 B（杭頭側面と副基礎部の応力伝達を考慮した設計の場合）

主基礎部

副基礎部

杭頭アンカー

定着板ナット

定着板

基礎コンクリート

はかま筋

ベース筋

杭頭金物

割裂防止筋

レベルコン

中詰めコンクリート

杭鋼管

最低定着長(L1)

h1

H

杭頭アンカーの配置直径

(杭径+200mm)

部分溶込み溶接

● 杭の中心間隔（設計値）

埋込み杭は杭径の2.0倍、打込み杭は杭径の2.5倍を最小値とする。
ただし、杭頭金物の溶接施工に支障がないことを確認すること。
施工許容差を超えた杭の偏心等により、中心間隔の最小値が確保できない場合の対応については、別途設計者指示による。

注1) 中詰めコンクリート
中詰めコンクリートの強度と深さ（H）は設計者により決定される。
ただし、杭のみ込み高さ（h1）は確保すること。（図は参考図）

注2) かぶり厚さ
杭頭アンカー及び杭頭金物下端部のかぶり厚さ（h2）は設計かぶり厚さ70mm以上、最小かぶり厚さ60mmとする。

注3) 割裂防止筋の配筋
杭頭外周部の基礎コンクリートには終局時の割裂を防止するためにD13@300程度の割裂防止筋を配筋し、無筋部を少なくすることが望ましい。

● 杭と基礎コンクリートのへりあき（設計値）

杭心からの距離で杭径の1.25倍以上を原則とする。
ただし、杭径が600mm以上の場合は1.0倍以上としてもよい。
施工許容差を超えた杭の偏心等により、へりあきの最小値が確保できない場合の対応については、別途設計者指示による。

注4) 副基礎帯筋の配筋（コーン状破壊防止）※
設計者指示の配筋を施す。ただし、D13以上ピッチ150mm以下を配筋量の下限とする。

注5) 副基礎補強筋の配筋（コーン状破壊防止/主基礎部への曲げ伝達）※
設計者指示の配筋を施す。ただし、D13以上ピッチ300mm以下を配筋量の下限とする。主基礎部への定着長は配筋指針等に基づき、設計者により決定される。

※マットスラブ形状の基礎については、上記、副基礎帯筋・副基礎補強筋の鉄筋径とピッチの規定によらず設計者指示の配筋とする。

1. 2 適用範囲

本標準図はクラウンパイルアンカー工法を対象とする。本標準図の適用範囲以外の条件における設計施工は、BCJ評価-FD0511-04の評価書による。

● 杭と基礎コンクリートの適用範囲

杭の種類	外殻鋼管付きコンクリート杭（SC杭）
杭径	400mm以上 1200mm以下
杭鋼管 鋼種	SKK400、STK400、STKN400B SKK490、STK490、STKN490B
基礎コンクリート強度	21N/mm 以上 45N/mm 以下 ²

● 杭頭アンカー設置可能本数の上限

・杭鋼管 鋼種 400N/mm 級²

杭径 (mm)	鋼管厚/仕様	
	9mm	12以上mm
	D32 -M	D32 -M
400	7	8
450	8	9
500	8	9
600	9	10
700	10	12
800	11	13
900	11	14
1000	12	15
1100	13	17
1200	13	18

・杭鋼管 鋼種 490N/mm 級²

杭径 (mm)	鋼管厚/仕様											
	6mm		9mm				12以上mm				14mm	16以上mm
	D32 -M	D32 -M	D38 -M	D38 -L	D32 -M	D38 -M	D38 -L	H-L	D41 H-L	D41 H-L		
400	7	8	7	7	8	7	7	7	6	6		
450	8	9	8	8	9	8	8	8	8	8		
500	8	9	8	9	9	9	9	9	8	8		
600	9	10	9	10	10	10	10	10	10	10		
700	10	12	10	11	12	11	11	11	11	11		
800	11	13	11	12	13	12	12	12	12	12		
900	11	14	12	13	14	14	14	14	13	13		
1000	12	15	13	14	15	15	15	15	14	14		
1100	13	17	13	15	17	16	16	16	14	16		
1200	13	18	14	16	18	17	17	17	15	17		

※設置本数の下限は全仕様4本とする

● 杭のみ込み高さ

単位：mm

仕様	杭のみ込み高さ(h1)	
	概要図 A	概要図 B
D32、D38 -M	250以上(240)	杭径の0.48倍以上かつ250以上(240)
D38、D38H -L D41H -L	280以上(270)	杭径の0.48倍以上かつ280以上(270)

※（ ）内の数値は最小かぶり厚さによる
※杭の鉛直施工許容差を考慮した寸法とする

● 杭頭アンカーの最低定着長

単位：mm

仕様	最低定着長(L1)
D32 -M	614
D38 -M、L	728
D38H -L	915
D41H -L	987

※ 本標準図以外に定着長の指定がある場合は、設計者指示の寸法による

2. 構成部材

2. 1 杭頭アンカー

杭頭アンカーは片端部にMねじを設けた異形棒鋼を用いる。
設計者の指定により定着長(L1)がアンカー呼び径の【35倍以上(SD390)、45倍以上(SD490)】となる場合は、Mねじ部を設けない仕様も可とする。

L以上

ねじ節形状

B

M

仕様	L (mm)	B (mm)	M	鋼種
D32 -M	790	39	M27	SD390
D38 -M、L	930	46	M33	
D38H -L	1130		49	M36
D41H -L	1230			

2. 2 定着板および定着板用六角ナット

定着板
(SS400)

六角ナット
(強度区分5以上)

A

t

φd

M

B

C

(D)

仕様	A	t	φd	M	B	C	(D)
D32 -M	55	9	28	M27	22	41	47
D38 -M、L	65	12	34	M33	26	50	58
D38H -L			37	M36	29	55	64
D41H -L	80						

単位：mm

※ 杭頭アンカーにMねじ部を設けない場合は使用しない

2. 3 杭頭金物

杭頭金物にはM、Lタイプがあり、杭鋼管の鋼種と鋼管厚の適用範囲に応じて使い分ける。

T

C (六角カブラー長)

開先部

A

D

B

45°

六角カブラー (SCP490-6N)

※

Vプレート (SN490B)

単位：mm

仕様	A	B	C	D	E	T
D32 -M	180	50	90	2	130	12
D38 -M			110			
D38 -L	59	120				
D38H -L	210					
D41H -L		64	130	135	14	

※ 国土交通大臣認定材：MSTL-0422またはMSTL-0574

倉敷市建設局建築部公共建築課	担当	三宅
工事名	倉敷市立倉敷第一中学校校舎増築ほか 建築工事	
図名	クラウンパイルアンカー工法標準図(1)参考図	
総企画・倉敷構造設計共同体		
一級建築士 第243674号 構造設計一級建築士 第4087号 木村 誠司	設計担当 木村	令和7年9月作成 図番 S-009

3. 工事現場施工

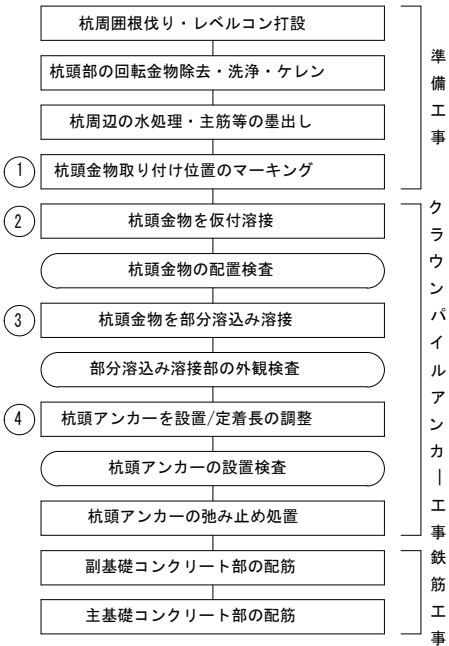
3. 1 施工および施工管理

本工法は岡部(株)・グループ会社により教育・技術指導を受けた者が施工及び施工管理を実施する。

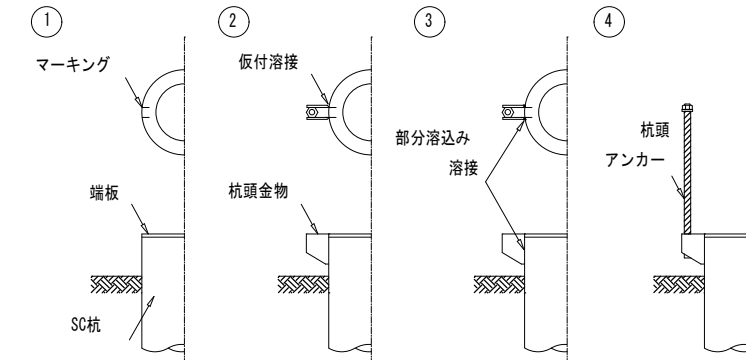
3. 2 施工手順

本工法の実施に必要なとなる準備工事の実施範囲や施工手順について十分に協議する。

● 標準施工手順

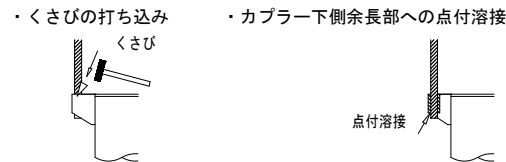


● 施工手順図



● 杭頭アンカー設置後の弛み止め処置

弛み止めは以下のいずれかの方法による。



3. 3 部分溶込み溶接規準

● 溶接方法と溶接材料

材料は下記の規格を満たし、かつ490N/mm²級高張力鋼に適用可能なものを使用する。

溶接方法	規格：種類
ガス シールド アーク溶接	・ JIS Z 3312：軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用のマグ溶接及びミグ溶接ソリッドワイヤ ・ JIS Z 3313：軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ

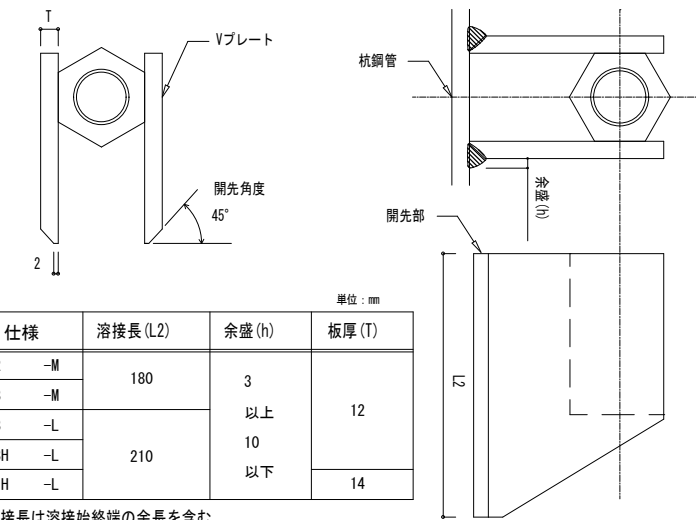
● 溶接資格

部分溶込み溶接は下記の規格を満たす立向姿勢の有資格者による施工を原則とする。

記号	規格：種類
SA-2V または SA-3V	・ JIS Z 3841：半自動溶接技術検定における 試験方法及び判定基準 ・ WES 8241：半自動溶接技能者の 資格認証基準

● 溶接寸法

Vプレートと杭鋼管の溶接は開先部全長（L2）にわたって行い、所定の余盛（h）を確保するように施工する。



※ 溶接長は溶接始終端の余長を含む

4. 仕様一覧

4. 1 杭頭接合部仕様の一覧

本工法を採用する杭頭接合部に関し、各杭符号ごとに仕様の一覧を記す。

● 概要図 A を適用する杭頭接合部仕様

[illegible]

※ 上記において、杭のみ込み高さおよび割裂防止筋の配筋量に関する計算上の規定はない

● 概要図Bを適用する杭頭接合部仕様

[illegible]

4. 2 特記事項、その他

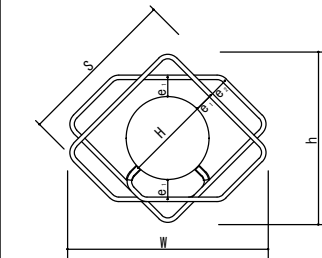
倉敷市建設局建築部公共建築課		担当	三宅
工事名	倉敷市立倉敷第一中学校校舎増築ほか 建築工事		
図名	クラウンパイルアンカー工法標準図(2) 参考図		
総合企画・倉敷構造設計共同体			
一級建築士 第243674号 構造設計一級建築士 第4087号 木村 誠司	設計担当 木村		令和7年9月作成 S-010

梁貫通孔補強筋 スーパーハリーZ Mタイプ標準図

一般財団法人日本建築センターによる一般評定
「BCJ評定-RC0224-07」 （令和5年4月19日付）

株式会社 栗本鐵工所
建材事業部 生産管理部
古河製造課
TEL: 0280 (97) 1305

1. スーパーハリーZ Mタイプ形状寸法及び重量



タイプ別 e 寸法一覧

TYPE	e ₁	e ₂
M A	43	43
M B	44	45
M C	46	48
M D	47	51
M E	49	55

使用材料
KSS785-K
(認定番号 MSRB-0004)

タイプ別キャップ色一覧

TYPE	キャップ色
M A	白色
M B	黄色
M C	青色
M D	緑色
M E	赤色

呼径	適用孔径 (スリーブ外径)	MA (S6)				MB (S8)				MC (S10)				MD (S13)				ME (S16)			
		h	W	S	重量	h	W	S	重量	h	W	S	重量	h	W	S	重量	h	W	S	重量
100	~114	273	334	286	1.0	272	336	292	1.6	274	342	302	2.3	272	344	310	4.1	272	350	322	6.5
125	~140	310	370	312	1.1	309	373	318	1.7	311	379	328	2.5	309	381	336	4.5	309	387	348	7.2
150	~165	345	406	337	1.2	345	408	343	1.9	346	414	353	2.8	344	416	361	4.9	345	422	373	7.9
175	~200	395	455	372	1.4	394	458	378	2.1	396	464	388	3.1	394	466	396	5.5	394	472	408	8.8
200	~225	430	491	397	1.5	429	493	403	2.3	431	499	413	3.3	429	501	421	6.0	429	507	433	9.4
225	~250	465	526	422	1.6	465	528	428	2.5	467	535	438	3.6	465	537	446	6.4	465	543	458	10.1
250	~275	501	561	447	1.7	500	564	453	2.6	502	570	463	3.8	500	572	471	6.8	500	578	483	10.8
275	~287	518	578	459	1.7	517	581	465	2.7	519	587	475	3.9	517	589	483	7.0	517	595	495	11.1
300	~325	571	632	497	1.9	571	634	503	2.9	573	641	513	4.3	571	643	521	7.6	571	649	533	12.1
325	~337	588	649	509	1.9	588	651	515	3.0	590	658	525	4.4	588	660	533	7.8	588	666	545	12.4
350	~375	—	—	—	—	642	705	553	3.3	643	711	563	4.8	641	713	571	8.5	642	719	583	13.4
400	~414	—	—	—	—	697	760	592	3.5	699	766	602	5.1	696	769	610	9.1	697	775	622	14.5
450	~465	—	—	—	—	769	832	643	3.9	771	839	653	5.6	769	841	661	10.0	769	847	673	15.8
500	~516	—	—	—	—	—	—	—	—	843	911	704	6.1	841	913	712	10.9	841	919	724	17.2
550	~550	—	—	—	—	—	—	—	—	891	959	738	6.4	889	961	746	11.4	889	967	758	18.1
600	~600	—	—	—	—	—	—	—	—	962	1030	788	6.9	960	1032	796	12.3	960	1038	808	19.4
650	~650	—	—	—	—	—	—	—	—	1032	1100	838	7.4	1030	1102	846	13.1	1030	1108	858	20.7
700	~700	—	—	—	—	—	—	—	—	1103	1171	888	7.8	1101	1173	896	14.0	1101	1179	908	22.0
750	~750	—	—	—	—	—	—	—	—	1174	1242	938	8.3	1172	1244	946	14.8	1172	1250	958	23.3

※外径 H、h、W、S、e の単位は mm 重量の単位は kg/組

2. 一般事項および適用範囲

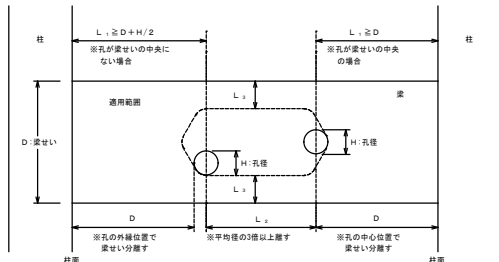
- 一般事項
- ・施工に先立ち、補強計算書にもつぎスーパーハリーZ Mタイプの種類、枚数の確認を行い、あばら筋、結束線の用意をする。
 - ・製品には鉄筋径別に色分けされたアンカーキャップや製品種類を記載したラベルが取り付けてあるので間違いが無いかわず確認する。
 - ・製品は錆の発生、コンクリートとの付着性能を損なう物質（油、泥等）の付着を避け保管する。

- 使用材料の適用範囲
- コンクリート : F c21~67

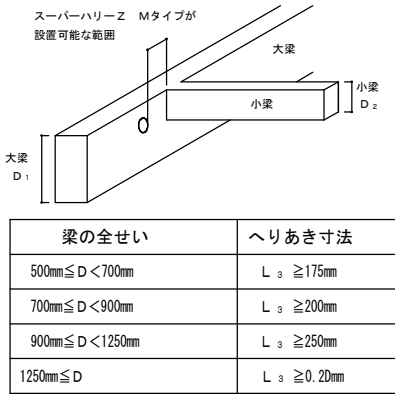
あばら筋 SD295A, SD345, SD390, SD490 (JIS G 3112)
590N/mm²級鋼, 685N/mm²級鋼, 785N/mm²級鋼, 1275N/mm²級鋼 (建築基準法第37条第二号適合品)
スーパーハリーZ Mタイプ KSS785-K (認定番号MSRB-0004)

■貫通孔適用範囲

- (1) 孔径 (H)
- 孔径は100~750mmとし、梁せい (D) の1/3以下とする。
- (2) 孔位置
- a) 柱際から水平方向の孔中心位置 (L1)
- 柱際から水平方向の孔中心位置 L1は、孔が梁せいの中央にある場合 L1≧Dとする。それ以外は L1≧D+H/2とする。
- b) 孔間中心距離 (L2)
- 孔が複数あるときの孔の中心水平間隔 L2は、孔平均径の3倍以上とする。
- c) ヘリあき最小寸法
- ヘリあき最小寸法 L3は表の値とする。
- 大梁と小梁が直交する箇所での孔位置は右図による。



D : 梁せい H : 孔径 (スリーブ外径)
L₁ : 柱際から孔の中心までの距離
L₂ : 孔と孔の中心水平距離
L₃ : 梁の上下面から孔面までの距離

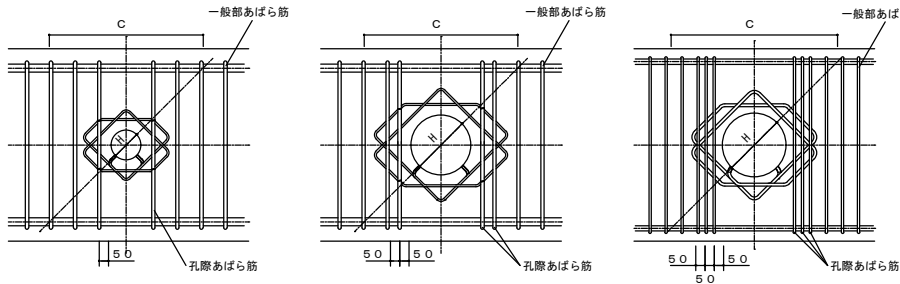


※スーパーハリーZ Mタイプ標準図の評定内容など、製品の性能に関わる内容の編集はご遠慮下さい。編集された内容については弊社では責任を負いかねます。

3. スーパーハリーZ Mタイプ標準配筋図

- 孔際あばら筋
- 通常配筋されるあばら筋を孔の両側に寄せて使用する。孔の両側には、必ず孔際あばら筋を1組以上配筋する。
- 標準配筋は下図の通りとする。施工の際には、必ず補強計算書を確認し、孔際あばら筋の配筋に注意する。

スリーブ外径 H	孔際あばら筋
100mm ≦ H ≦ 225mm	片側 1組
225mm < H ≦ 375mm	片側 2組
375mm < H ≦ 750mm	片側 3組

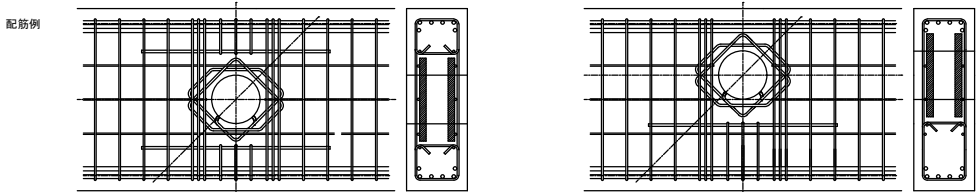


スーパーハリーZ Mタイプ 呼径 → 呼径 100~200φ
スリーブ外径 → 100mm ≦ H ≦ 225mm

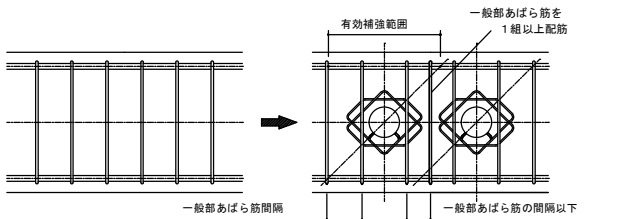
呼径 225~350φ
225mm < H ≦ 375mm

呼径 400~750φ
375mm < H ≦ 750mm

- 孔上下の補強方法
- 孔径が400mm以上となるときは、補強計算より求められた補強筋の他、孔上下位置に配筋を行う。

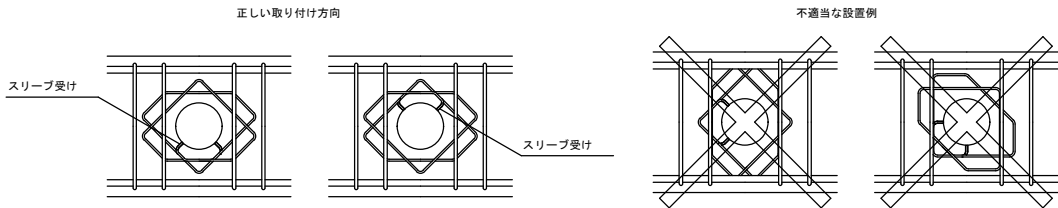


- 孔が近接して複数ある場合
- 孔が近接して複数ある場合、各々の孔際には、孔際あばら筋を1組以上配筋する。
- また、孔一孔間のあばら筋は一般部あばら筋の間隔以下になるようにし、一般部あばら筋を1組以上配筋する。
- ただし、鉄筋のあきが確保できない場合はこの限りではない。



4. スーパーハリーZ Mタイプ施工要領

- 施工上の留意点
- (1) 製品の方向
- スリーブ受けが孔の上または下になるように取り付ける。裏表の区別はない。



- (2) かぶり厚さの確認
- スーパーハリーZ Mタイプのかぶり厚さを確保する。
- (3) 製品の取り付け位置の保持方法
- スーパーハリーZ Mタイプは図に示すようにあばら筋の内側に取り付け、結束線で孔際あばら筋に4~6ヶ所程度結束する。
- 梁断面から見たスーパーハリーZ Mタイプどうしの間隔は、鉄筋のあきを確保する。
- (4) 製品の取り付け検査
- 製品の取り付け検査は、設計マニュアルのチェックシートを参考に実施する。

■標準的な施工順序

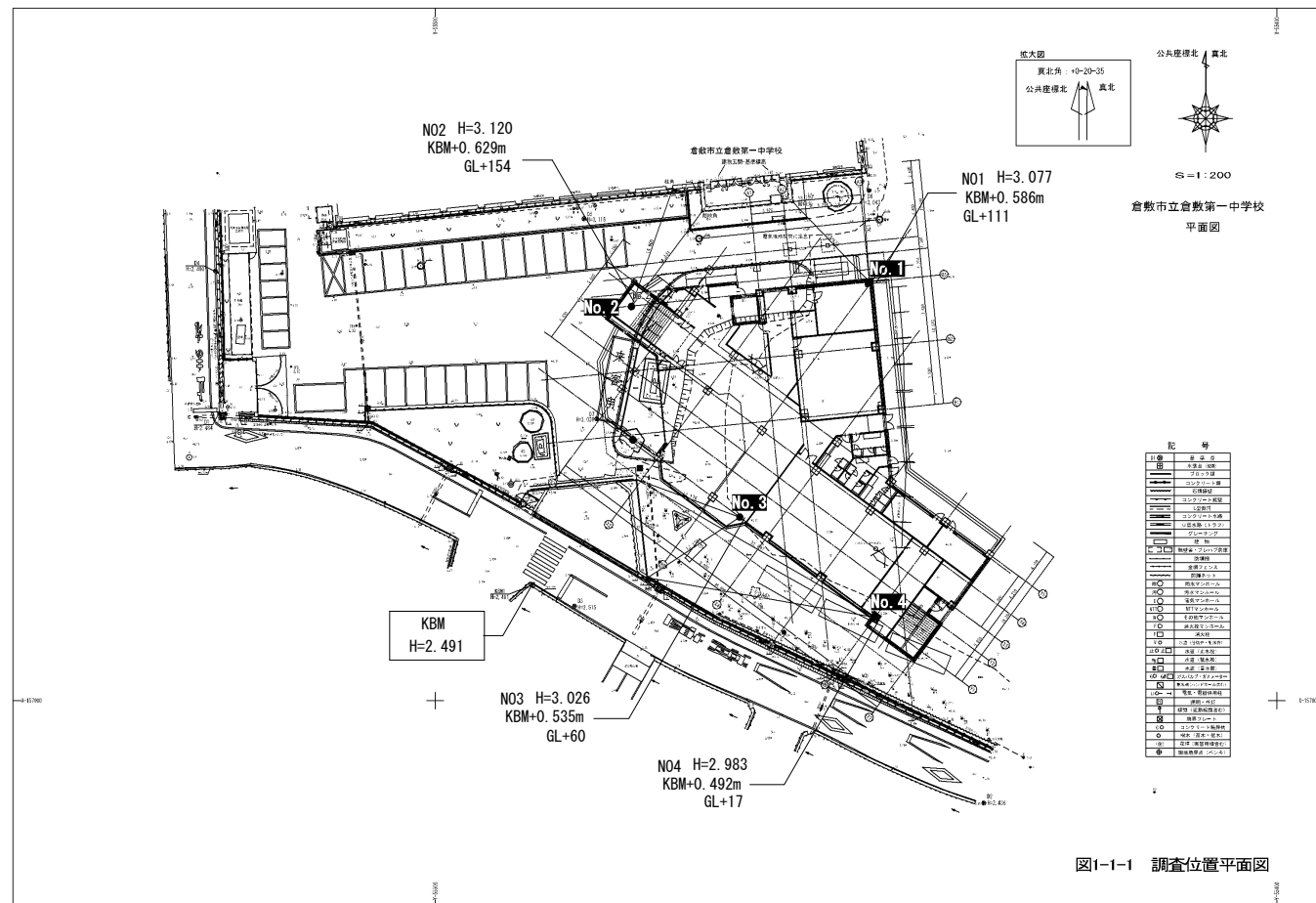
- (1) 孔際あばら筋本数及びスーパーハリーZ Mタイプのタイプを確認する。
- (2) 孔際あばら筋、一般部あばら筋を配筋する。
- (3) あばら筋内側にスーパーハリーZ Mタイプを設置し、結束線で4~6ヶ所程度結束する。
- (4) 有効補強範囲内の鉄筋間隔が適当であるか確認する。

倉敷市建設局建築部公共建築課	担当	三宅
工事名	倉敷市立倉敷第一中学校校舎増築ほか	建築工事
図名	スーパーハリーZ Mタイプ標準図 参考図	
総企画・倉敷構造設計共同体		
一級建築士 第243674号 構造設計一級建築士 第4087号 木村 誠司	設計担当 木村	令和7年9月作成 図番 S-011

構造スリットの分類とスリット幅		垂 直 ス リ ッ ト （ A シ リ ー ズ ・ G シ リ ー ズ ）				構造スリットの分類とスリット幅		水 平 ス リ ッ ト （ H W シ リ ー ズ ）				標 準 施 工 例			
完 全 ス リ ッ ト 型		A シ リ ー ズ				完 全 ス リ ッ ト 型		種 別	タイプ	形 状	スリット幅・厚 [mm]				
タイプ	垂 直 部	耐 火 タ イ プ				タイプ	水 平 部	耐火タイプ	2時間耐火	HM-RW				20-25-30-35-40-50	
Aタイプ		種別	タイプ	A2-P	AE2-P	Hタイプ									
		スリット幅 W		25・30・35・40・50	25・30・35										
Gタイプ	「一面せん断型スリット」 	形状	タイプ	A1-P	AE1-P	非耐火タイプ	HM-P		20-25-30-35-40-50						
			スリット幅 W		25・30・35					25・30・35					
Gタイプ	「二面せん断型スリット」 	形状	スリット材及び耐火材の仕様				スリット材及び耐火材の仕様								
			タイプ	スリット材		耐火材	タイプ	スリット材		耐火材					
スリットの幅は、層間変形角1/100変形時の壁・そで壁等の高さ（又は長さ）に対する変形幅を確保する。 （大地震による応答時にスリットが閉塞しないことが適切に確認された場合を除く） 「2020年版 建築物の構造関係技術基準解説書」		標準目地棒サイズ				標準目地棒サイズ									
		A2, A1タイプ				AE2, AE1タイプ									
		スリット幅	25	スリット幅	30	スリット幅	20								
		W=25用		W=30, 35, 40, 50用		W=25, 30, 35共通									
部 分 ス リ ッ ト 型		G シ リ ー ズ				部 分 ス リ ッ ト 型		スリット材及び耐火材の仕様				標準施工例			
タイプ	垂 直 部	タイプ	G-5	G-6	G-7	G-9	G-10	タイプ	水 平 部	タイプ	ス リ ッ ト 材			耐 火 材	
Gタイプ		スリット幅 W	25・30・35	25・30・35	25・30・35	25・30・35・40・50	25・30・35・40・50	Hタイプ		HM-RW	発泡ポリエチレン	ロックウール			
		形状								HM-P					
Gタイプ		形状	目地部残存コンクリート厚tsは、壁厚tw/2以下かつ7cm以下。 目地部残存コンクリート厚tsに対するスリット幅の比 (w/ts) は、0.5～1.0。 完全スリット型及び、部分スリット型のスリット幅は、 「2020年版 建築物の構造関係技術基準解説書」による。				タイプ	G-11 (S)	G-11 (L)	Hタイプのブチルゴム貼付等の端部仕様は、別紙カタログを参照。					
							スリット幅 W	25・30・35・40・50	25・30・35・40・50	H W 補 助 材					
Gタイプ		形状					部材	補強金具		コーナー補助材		鉄筋養生カバー		ジョイント金具	
								スプリングアングル	セバstopバー（セット）	バリアー20用	バリアー25用	バリアーX用	鉄筋養生カバー		
Gタイプ		形状													

<1020_2025>

倉敷市建設局建築部公共建築課		担当	三宅
工事名	倉敷市立倉敷第一中学校校舎増築ほか 建築工事		
図名	スリットン標準図		
総企画・倉敷構造設計共同体			
一級建築士 第243674号 構造設計一級建築士 第4087号 木村 誠司	設計担当	令和7年9月作成	
	木村	図番	S-012


$$GL = KBM + 475 \text{ (標高 } H = 2.966\text{m)}$$

ボーリング柱状図

調 査 名										倉敷市立倉敷第一中学校校舎増築ほか基本・実施設計業務委託										ボーリングNo																																		
事業・工事名																				シートNo																																		
ボーリング名					No. 1					調査位置					岡山県倉敷市西阿知1070番 地内										北 緯																													
発 注 機 関					倉 敷 市					調査期間					2025年 7月 9日 ~ 2025年 7月 15日										東 経																													
調 査 者 者 名					電 話					主任技師					現 代 理 人					コ 定 者					ボーリング責任者					小野 健一																								
孔 口 標 高					H= 3.077m					角					北 180° 上 90° 下 0°					方 北 0° 北東 45° 東 90° 南 180°					地盤勾配					使用機種					試 錐 機					東邦地下制 D1-C					ハンマー 落下用具					半自動モンケン				
総掘進長					20.00m					度					向					路面 0° 地 盤 90° 水 準 0°					エンジン					ヤンマー製 NFD-12型					ポン プ					東邦地下制 BG3														

標高	層厚	深状	柱状	土質	色相	対照	記	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験	原位置試験	試験名	試験結果	深状	採取	室内試験	掘進
(m)	(m)	(m)	(m)	図分	調度	密度	事	深 (m)	10mごとの打撃回数 / 貫入量 (cm)	N 値	度 (m)	度 (m)	度 (m)	度 (m)	度 (m)	度 (m)
1	1.88	1.59	1.59	上土・黄・粘土・混じり砂	黄褐色		黄・粘土混じり砂による落土。	2/10	1.15 1 1 1 3/50	▲GL	2.200					
2	0.28	1.39	2.39	シルト質粘土	暗灰色		粘性強く、軟質な粘性土。	2/10	2.11 1 1 1 3/50		4.96	孔内載荷試験 P=1187.1 (118.7kN/m²)				
3	-0.12	0.40	3.39	シルト質粘土	灰		細砂へ中砂を主体、シルトを不均質に混入。	2/10	3.05 3 5 8 15/50		5.000					
4	-1.65	1.59	1.59	砂礫	灰褐色	中ぐらいい	礫は、φ5～50mm程度の亜角礫を主体、砂は、中砂～粗砂を主体、砂礫土及び潜水性が著しい。	2/10	4.11 8 5 3 15/50		17.000					
5	-3.03	1.48	6.18	細砂混じり砂	灰褐色	中ぐらいい	中砂～粗砂を主体、φ5～20mm程度の亜角礫を不均質に混入。	2/10	4.11 4 4 4 15/50							
6	-4.77	0.78	6.96	細砂混じり砂	灰褐色	中ぐらいい	中砂～粗砂を主体、φ5～20mm程度の亜角礫及びシルトを不均質に混入。	2/10	5.05 5 7 6 15/50							
7	-6.77	3.69	9.85	砂礫	灰褐色	中ぐらいい・非常に密な	礫は、φ5～10mm程度の亜角礫～亜円礫を主体、砂は、中砂～粗砂を主体、砂礫土及び潜水性が著しい。	2/10	7.41 11 7 6 23/50							
8	-10.63	3.99	13.73	土なれこり砂礫	灰褐色	中ぐらいい・非常に密な	礫は、φ5～50mm程度の亜角礫～亜円礫を主体、砂は、中砂～粗砂を主体、φ80mm程度の粘質な土を不均質に混入、砂礫土及び潜水性が著しい。	2/10	9.41 6 11 8 38/50							
9	-16.92	6.38	20.00	粘土混じり砂礫	青灰色・黄褐色	非常に密な	礫は、φ5～10mm程度の亜角礫～亜円礫を主体、砂は、中砂～粗砂を主体、粘土を不均質に混入。	2/10	12.01 20 17 13 63/50							

ボーリング柱状図

調 査 名 倉敷市立倉敷第一中学校倉増築ほか基本・実施設計業務委託

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No. 2	調査位置	岡山県倉敷市西阿知1070番 地内	北 緯	
発注機関	倉敷市			調査期間	2025年 7月 2日 ~ 2025年 7月 7日
調査業者名	電話	主任技師	現 場 代 理 人	コ ア 監 定 者	小 野
孔口標高	H= 3.120m	角 上 180° 下 0° 左 0° 右 90°	方 向 270° 西 180° 南 90° 東	地盤勾配 北 0° 南 90°	使用機種
総掘進長	20.00m	度	向	記	試 験 機 東邦地下制 D1-C
					ハンマー 落下用具
					ポンプ 東邦地下制 B

標 尺	層 高 度	深 度	柱 状	土 質 区 分	色 調	相 対 密 度	相 対 密 度	記 事	孔内水位 (m) / 測定月 日	標準貫入試験										原位置試験		試験結果			
										深 度 (m)	10mごとの 打撃回数 / 貫入量 (cm)	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	深 度 (m)	試験名 および結果	深 度 (m)	試験番号
(m)	(m)	(m)	(m)	図	分	調	度	事																	
1	1.72	1.39	1.39	粘土・礫混じり砂	暗褐色	軟弱	20%	70~74.5cm、75~710cm 以灰、礫混じり砂による粘土。		1.12	2 2 1	5	30									2.200			
2	0.62	1.82	2.50	シルト質粘土	暗褐色	軟弱	20%	粘性強く、やや硬質な粘性土。		1.13	1 1 1	3	30												
3	-0.48	1.87	3.60	礫混じり砂	灰色	中硬	40%	細砂～中砂を主体、φ5～20mm程度の並角礫を混入。		1.15	7 7 7	21	30												
4										1.17	5 6 6	15	30												
5										1.18	6 6 6	15	30												
6										1.19	8 7 8	23	30												
7										1.20	9 9 7	24	30												
8										1.21	11 9 12	31	30												
9										1.22	10 11 7	28	30												
10										1.23	4 6 6	15	30												
11										1.24	7 4 4	15	30												
12										1.25	8 7 7	23	30												
13	-0.38	9.90	13.30							1.26	11 12 15	38	30												
14										1.27	13 18 19	52	30												
15										1.28	9 10 9	29	30												
16										1.29	10 12 14	36	30												
17										1.30	16 23 11	50	27												
18										1.31	16 23 11	50	27												
19										1.32	27 15 5	50	27												
20	-16.88	6.50	20.00							1.33	17 29 15	50	27												

ボーリング柱状図

[illegible]

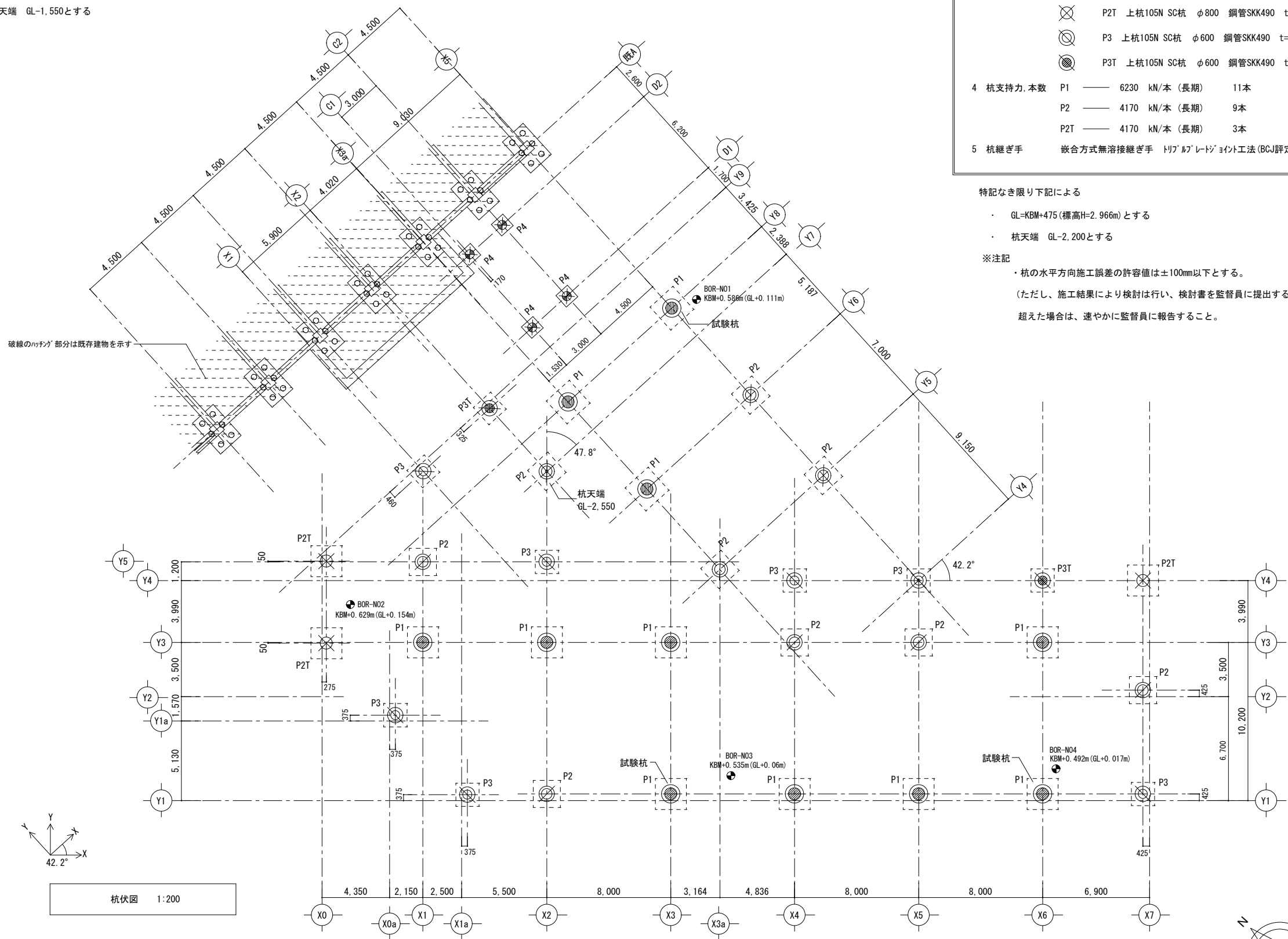
ボーリング柱状図

[illegible]

倉敷市建設局建築部公共建築課		担当	三宅	
工事名	倉敷市立倉敷第一中学校校舎増築ほか 建築工事			
図名	ボーリング柱状図（２）			
綜企画・倉敷構造設計共同体				
一級建築士 第243674号 構造設計一級建築士 第4087号 木村 誠司		設 計 担 当 木村		令和7年9月作成 S-014

渡り廊下 2 杭工事概要	
1 工法	ハバーストレート工法(認定番号 TACP-0404、TACP-0405) 同等
2 杭径、杭長、杭種	P4 L=17m 上杭105N PRC杭 φ350 8m II種(厚100mm)+下杭105N PHC杭 φ350 9m A種(厚100mm)
3 杭概要	P4 上杭105N PRC杭 φ350(PRC部 8.0m)
4 杭支持力、本数	P4 830 kN/本 (長期) 4本
5 杭継ぎ手	嵌合方式無溶接継ぎ手 トリブ・ブルードジョイント工法(BCJ評定-FD0183-08) 同等

- ・ GL=KBM+475 (標高H=2.966m) とする
- ・ 杭天端 GL-1,550とする

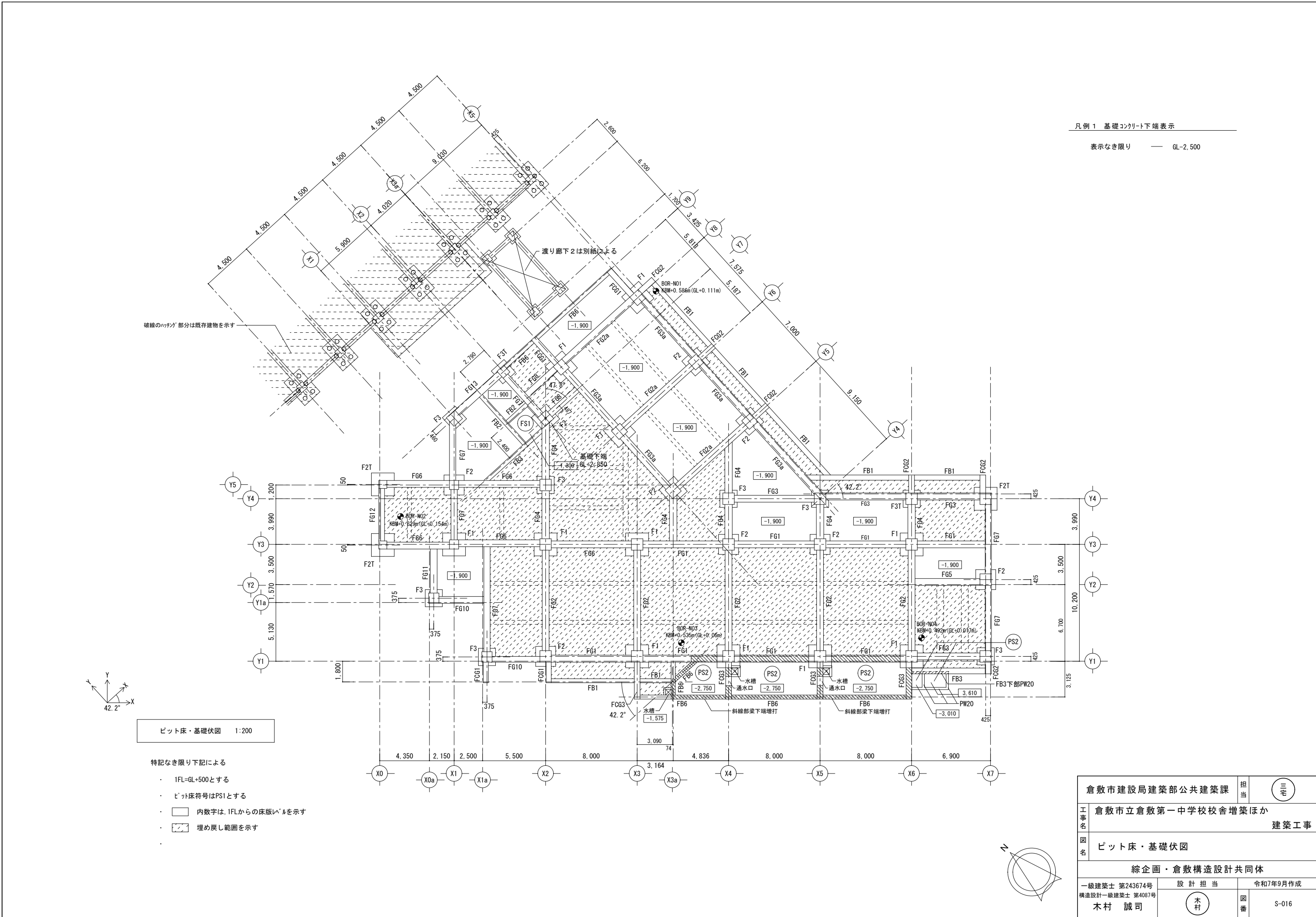


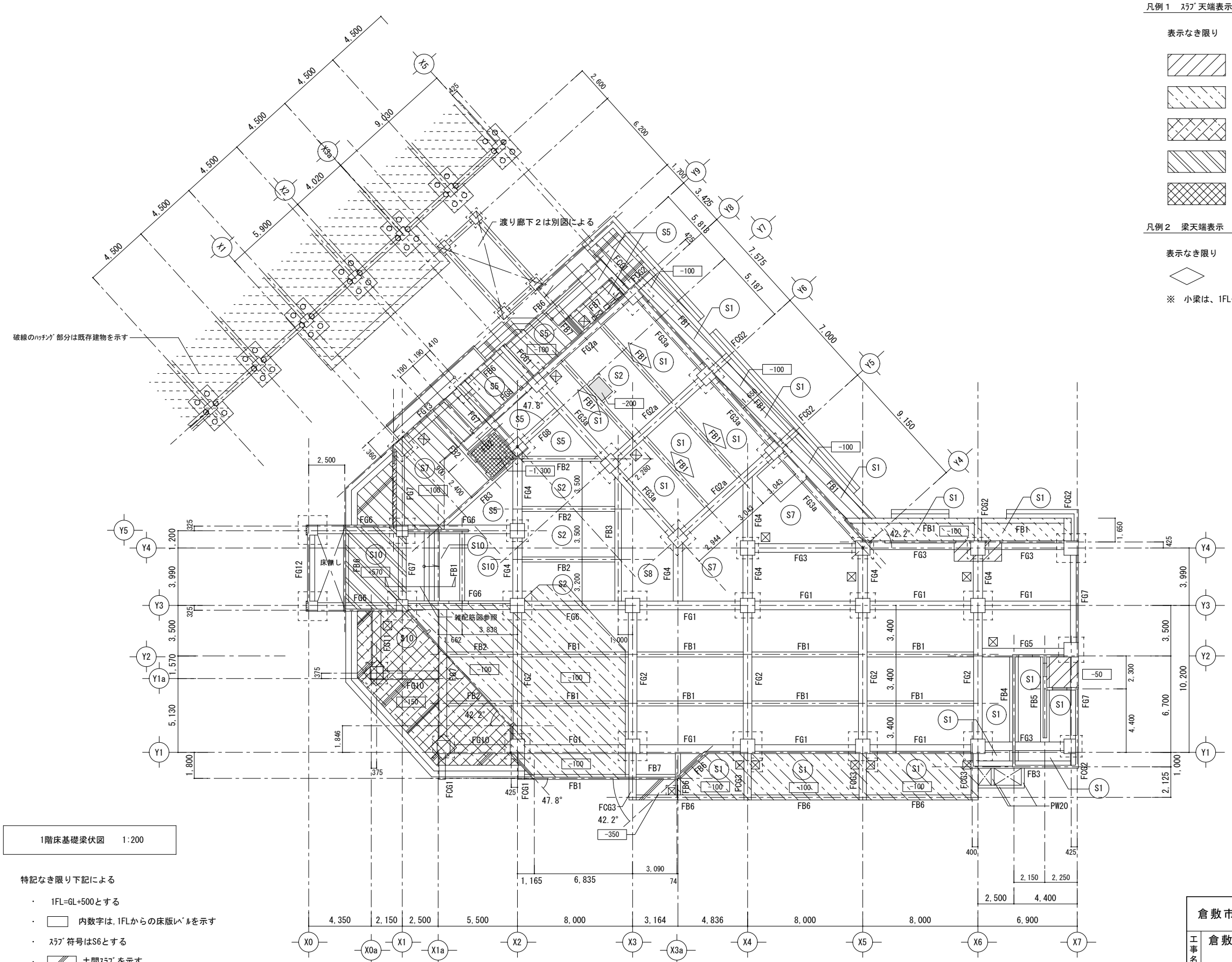
管理棟 杭工事概要													
1	工法	ハバーストレート工法(認定番号 TACP-0675、TACP-0676) 同等											
2	杭径、杭長、杭種	P1	L=17m	上杭105N	SC杭φ800	5m	I種+中杭105N	PHC杭φ800	5m	A種+下杭105N	ST杭φ800~1000	7m	A種
		P2	L=17m	上杭105N	SC杭φ700	5m	I種+中杭105N	PHC杭φ700	5m	A種+下杭105N	ST杭φ700~800	7m	A種
		P2T	L=17m	上杭105N	SC杭φ800	5m	I種+中杭105N	PHC杭φ800	5m	B種(厚100mm)+下杭105N	PHC杭φ800	7m	B種(厚100mm)
		P3	L=17m	上杭105N	SC杭φ600	5m	I種+中杭105N	PHC杭φ600	5m	B種+下杭105N	ST杭φ600~700	7m	A種
		P3T	L=17m	上杭105N	SC杭φ600	5m	I種+中杭105N	PHC杭φ600	5m	B種(厚100mm)+下杭105N	ST杭φ600~700	7m	B種(厚100mm)
3	SC杭概要		P1	上杭105N	SC杭	φ800	鋼管SKK490	t=6.0mm					
			P2	上杭105N	SC杭	φ700	鋼管SKK490	t=6.0mm					
			P2T	上杭105N	SC杭	φ800	鋼管SKK490	t=12.0mm					
			P3	上杭105N	SC杭	φ600	鋼管SKK490	t=9.0mm					
			P3T	上杭105N	SC杭	φ600	鋼管SKK490	t=12.0mm					
4	杭支持力、本数	P1	——	6230	kN/本(長期)	11本	P3	——	3260	kN/本(長期)	7本		
		P2	——	4170	kN/本(長期)	9本	P3T	——	3260	kN/本(長期)	2本		
		P2T	——	4170	kN/本(長期)	3本							
5	杭継ぎ手	嵌合方式無溶接継ぎ手 トリプルレゾーシメント工法(BCJ評定-FD0183-08) 同等											

- ・ GL=KBM+475 (標高H=2.966m) とする
- ・ 杭天端 GL-2,200とする

超えた場合は、速やかに監督員に報告すること。

倉敷市建設局建築部公共建築課		担当	三宅
工事名	倉敷市立倉敷第一中学校校舎増築ほか 建築工事		
図名	杭伏図		
綜企画・倉敷構造設計共同体			
一級建築士 第243674号 構造設計一級建築士 第4087号 木村 誠司	設計担当	令和7年9月作成	
	木村	図番	S-015



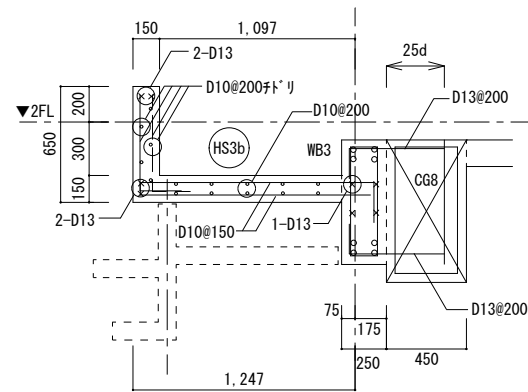


- 凡例 1 スラブ天端表示
- | | |
|--------|-----------|
| 表示なき限り | 1FL-30 |
| | 1FL-50 |
| | 1FL-100 |
| | 1FL-150 |
| | 1FL+570 |
| | 1FL-1,300 |
- 凡例 2 梁天端表示
- | | |
|--------|------------------|
| 表示なき限り | 1FL-600 (GL-100) |
| | 1FL-180 (GL+320) |
- ※ 小梁は、1FL-600を基準とする

1階基礎梁伏図 1:200

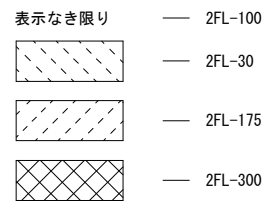
- 特記なき限り下記による
- 1FL=GL+500とする
 - 内数字は、1FLからの床版レベルを示す
 - スラブ符号はS6とする
 - 土間スラブを示す
 - 梁側面増し打ち部分を示す
 - 床点検口位置を示す

倉敷市建設局建築部公共建築課		担当	三宅
工事名	倉敷市立倉敷第一中学校校舎増築ほか 建築工事		
図名	1 階床基礎梁伏図		
綜企画・倉敷構造設計共同体			
一級建築士 第243674号 構造設計一級建築士 第4087号 木村 誠司	設 計 担 当	令和7年9月作成	
	木村	図番	S-017

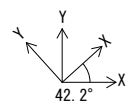
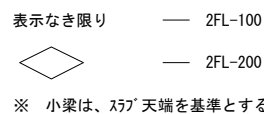


※部断面配筋図 1:30

凡例1 スラブ天端表示



凡例2 梁天端表示

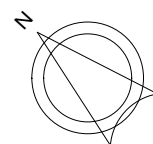


1階柱壁2階床梁伏図 1:200
(階高 H=4,500)

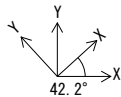
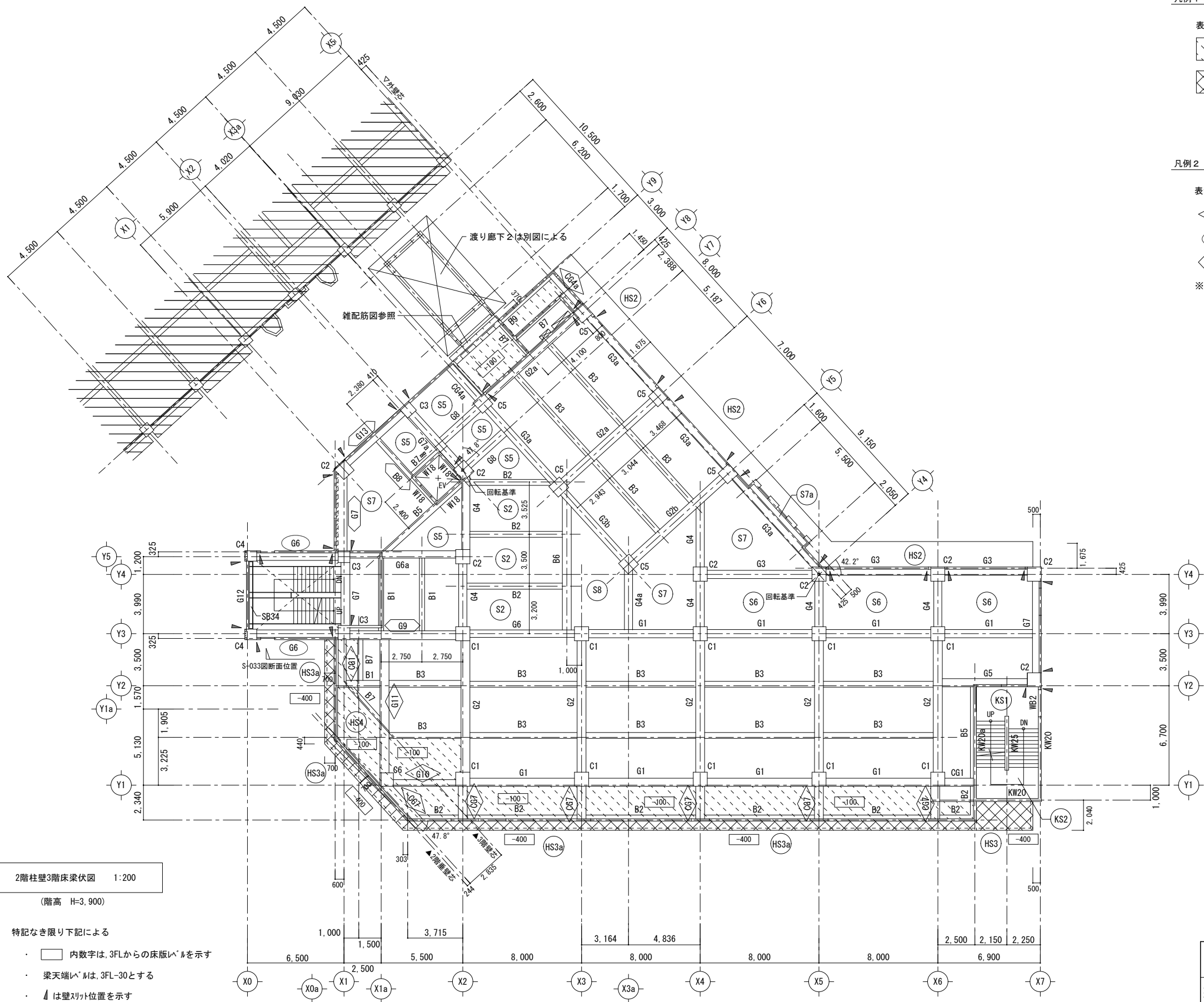
特記なき限り下記による

- 内数字は、2FLからの床版レベルを示す
- 梁天端レベルは、2FL-100とする
- ▲は壁スリット位置を示す
- 特記無き壁はW15とする
- スラブ符号はS1とする
- 柱、梁側面増し打ち部分を示す

※ 底の寸法は先端増打を含む寸法を記載



倉敷市建設局建築部公共建築課		担当	三宅
工事名	倉敷市立倉敷第一中学校校舎増築ほか 建築工事		
図名	1 階柱壁 2 階床梁伏図		
総企画・倉敷構造設計共同体			
一級建築士 第243674号 構造設計一級建築士 第4087号 木村 誠司	設 計 担 当	令和7年9月作成	
	木村	図番	S-018



2階柱壁3階床梁伏図 1:200
(階高 H=3,900)

- 特記なき限り下記による
- 内数字は、3FLからの床版レベルを示す
 - 梁天端レベルは、3FL-30とする
 - は壁スリット位置を示す
 - 特記無き壁はW15とする
 - スラブ符号はS1とする
 - 柱、梁側面増し打ち部分を示す

※ 底の寸法は先端増打を含む寸法を記載

凡例1 スラブ天端表示

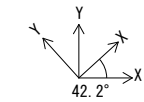
- 表示なき限り
- 3FL-30
 - 3FL-100
 - 3FL-400

凡例2 梁天端表示

- 表示なき限り
- 3FL-30
 - 3FL-100
 - 3FL-850
 - 3FL-150

※ 小梁は、スラブ天端を基準とする

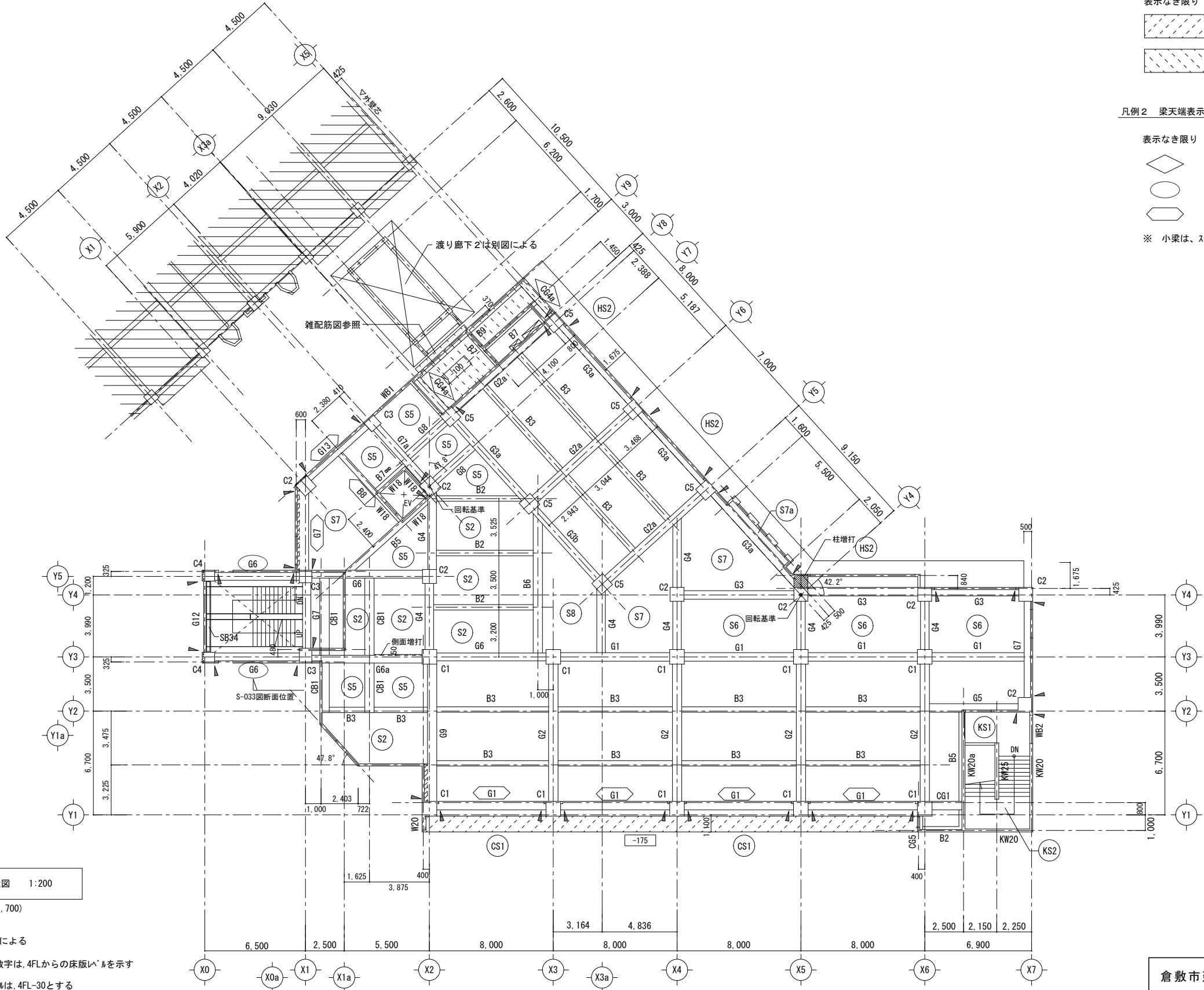
倉敷市建設局建築部公共建築課		担当	三宅
工事名	倉敷市立倉敷第一中学校校舎増築ほか 建築工事		
図名	2 階柱壁 3 階床梁伏図		
綜企画・倉敷構造設計共同体			
一級建築士 第243674号 構造設計一級建築士 第4087号 木村 誠司	設計 担 当 木村	図番	令和7年9月作成 S-019



3階柱壁4階床梁伏図 1:200
(階高 H=3,700)

- 特記なき限り下記による
- 内数字は、4FLからの床版い'ℓを示す
 - 梁天端い'ℓは、4FL-30とする
 - は壁スリット位置を示す
 - 特記無き壁はW15とする
 - ｽﾌﾟ符号はS1とする
 - 柱、梁側面増し打ち部分を示す

※ 庇の出寸法は先端増打を含む寸法を記載



凡例1 ｽﾌﾟ天端表示

- 表示なき限り
- 4FL-30
 - 4FL-175
 - 4FL-100

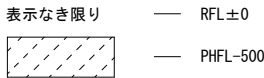
凡例2 梁天端表示

- 表示なき限り
- 4FL-30
 - 4FL-100
 - 4FL-850
 - 4FL-150

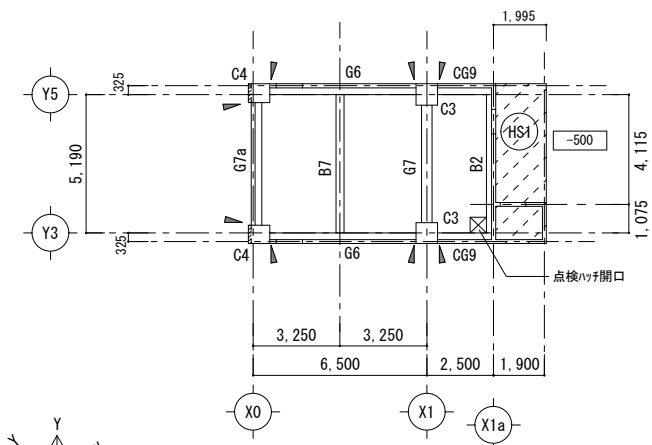
※ 小梁は、ｽﾌﾟ天端を基準とする

倉敷市建設局建築部公共建築課		担当	三宅
工事名	倉敷市立倉敷第一中学校校舎増築ほか 建築工事		
図名	3 階柱壁 4 階床梁伏図		
綜企画・倉敷構造設計共同体			
一級建築士 第243674号	設 計 担 当	令和7年9月作成	
構造設計一級建築士 第4087号	木村	図番	S-020
木村 誠司			

凡例 1 ｽｽﾞﾌﾞ 天端表示



凡例 2 梁天端表示



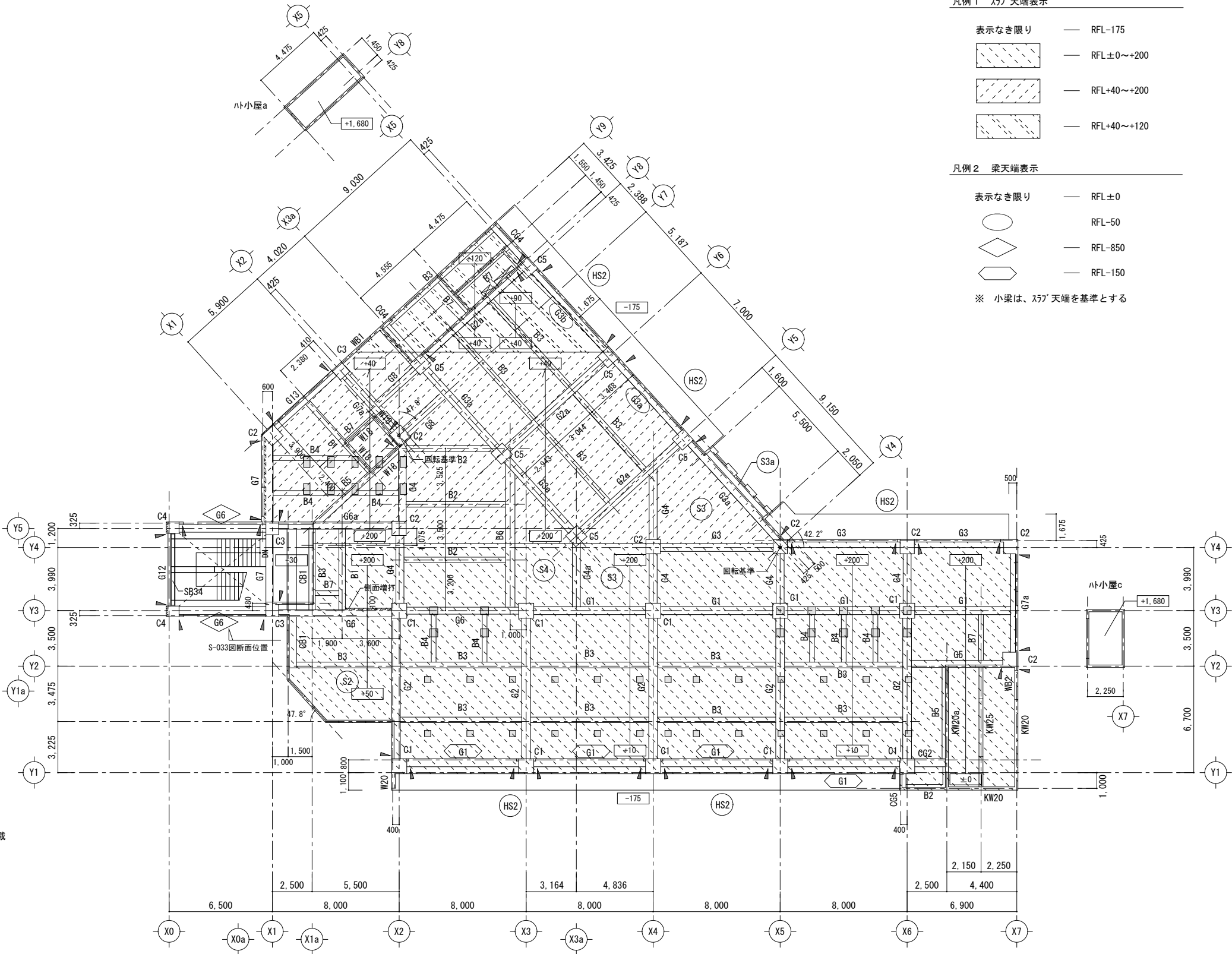
R階柱壁PH階床梁伏図 1:200

(階高 H=3,300)

※ 底の出寸法は先端増打を含む寸法を記載

特記なき限り下記による

- 内数字は、PHFLからの床版いゝを示す
- 梁天端いゝは、PHFL±0とする
- ▲は壁ｽﾘｯﾄ位置を示す
- 特記無き壁はW15とする
- ｽｽﾞﾌﾞ 符号はS1とする
- 柱、梁側面増し打ち部分を示す



4階柱壁R階床梁伏図 1:200

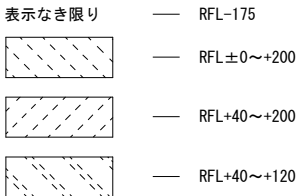
(階高 H=3,700)

※ 底の出寸法は先端増打を含む寸法を記載

特記なき限り下記による

- 内数字は、RFLからの床版いゝを示す
- 梁天端いゝは、RFL±0とする
- ▲は壁ｽﾘｯﾄ位置を示す
- 特記無き壁はW15とする
- ｽｽﾞﾌﾞ 符号はS1とする
- 柱、梁側面増し打ち部分を示す

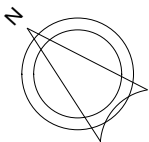
凡例 1 ｽｽﾞﾌﾞ 天端表示



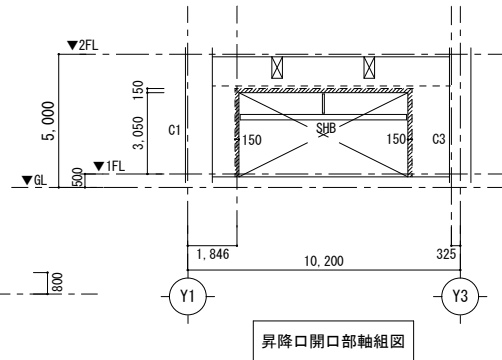
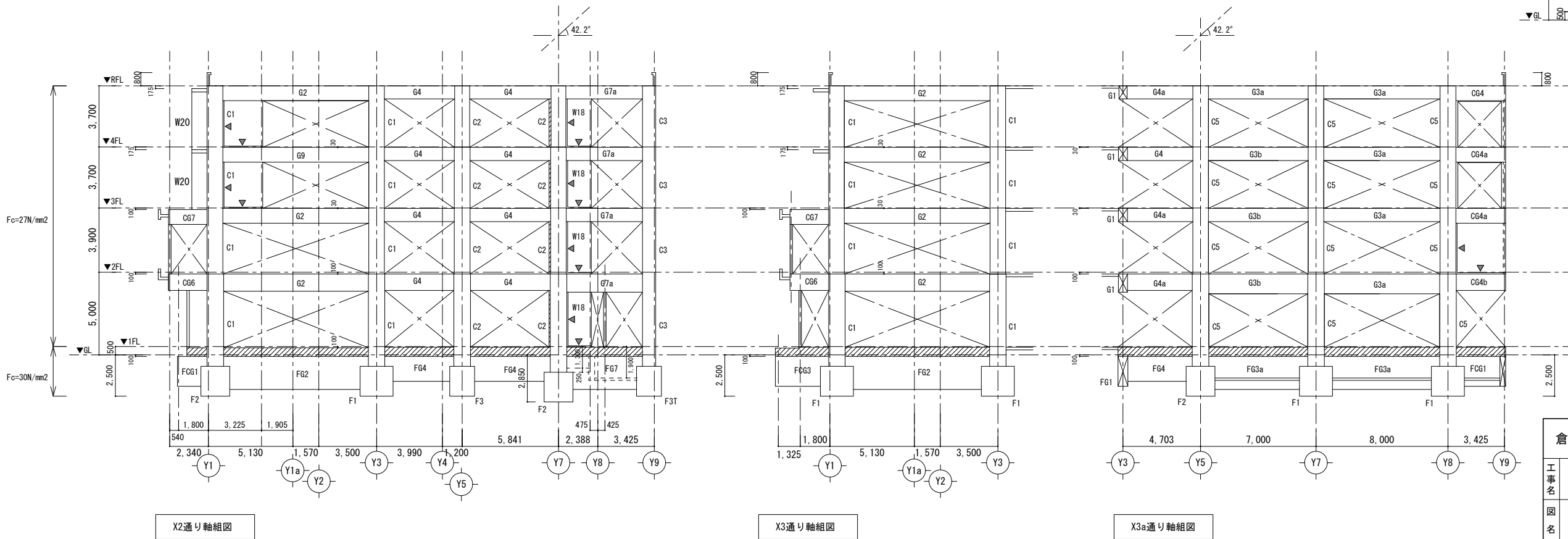
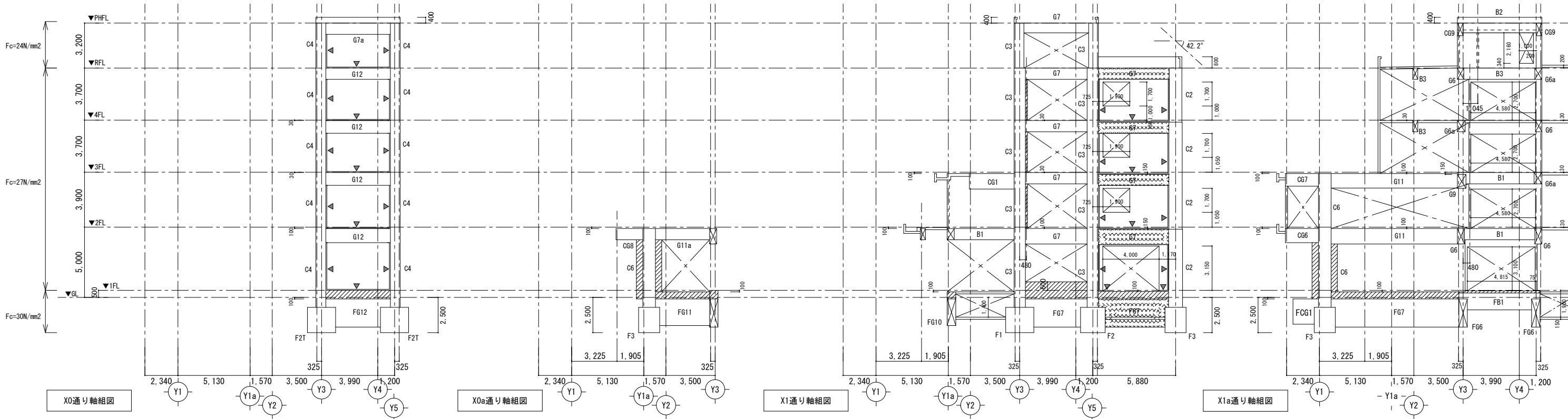
凡例 2 梁天端表示



※ 小梁は、ｽｽﾞﾌﾞ 天端を基準とする

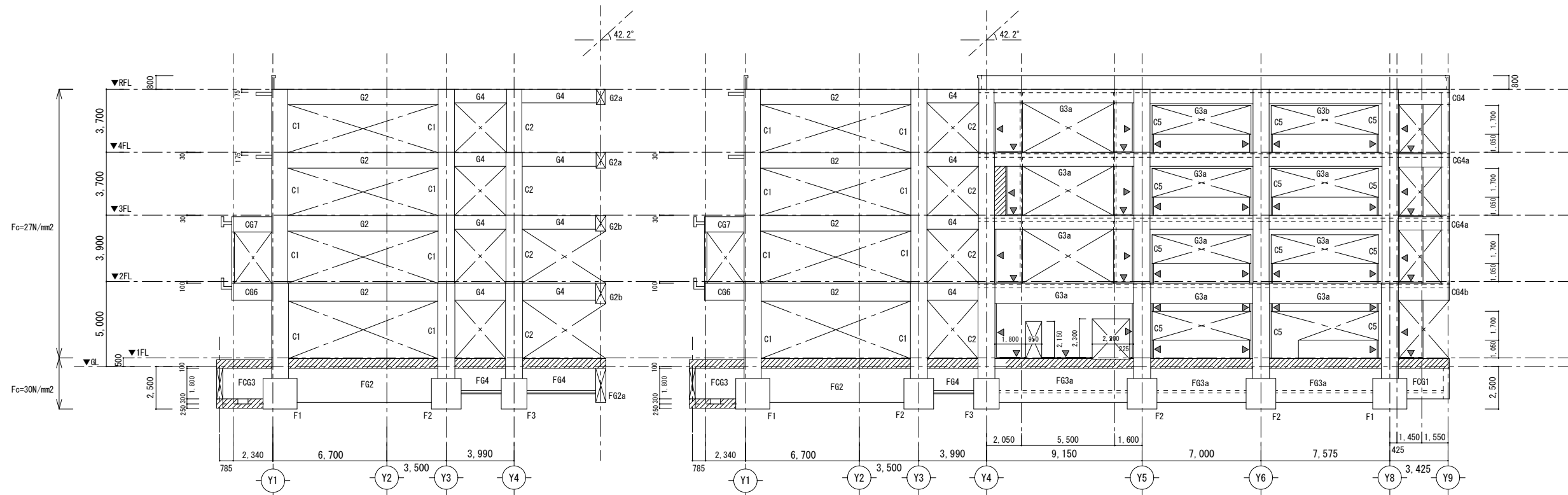


倉敷市建設局建築部公共建築課	担当	三宅
工事名	倉敷市立倉敷第一中学校校舎増築ほか	建築工事
図名	4 階柱壁 R 階・R 階柱壁 P H 階床梁伏図	
綜企画・倉敷構造設計共同体		
一級建築士 第243674号 構造設計一級建築士 第4087号 木村 誠司	設計担当 木村	令和7年9月作成 図番 S-021



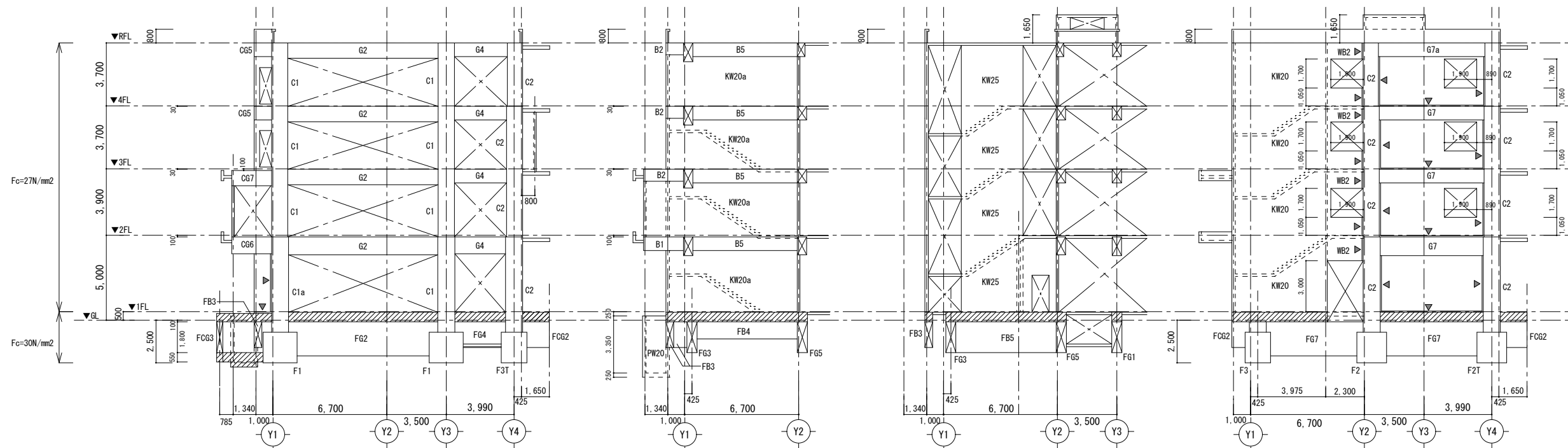
- 特記なき限り下記による
- 基礎べ-下端はGL-2,500とする
 - 基礎梁天端はGL-100 (1FL-600)とする
 - 壁は、表示なき限りW15とする
 - スリット位置を示す
スリット幅は、垂直部35mm, 水平部30mmとする
 - 増し打ち部分を示す
 - 梁側面の増し打ち部分を示す

倉敷市建設局建築部公共建築課		担当	三宅
工事名	倉敷市立倉敷第一中学校校舎増築ほか 建築工事		
図名	軸組図（１）		
綜企画・倉敷構造設計共同体			
一級建築士 第243674号 構造設計一級建築士 第4087号 木村 誠司	設計担当 木村	図番	令和7年9月作成 S-022



X4通り軸組図

X5通り軸組図



X6通り軸組図

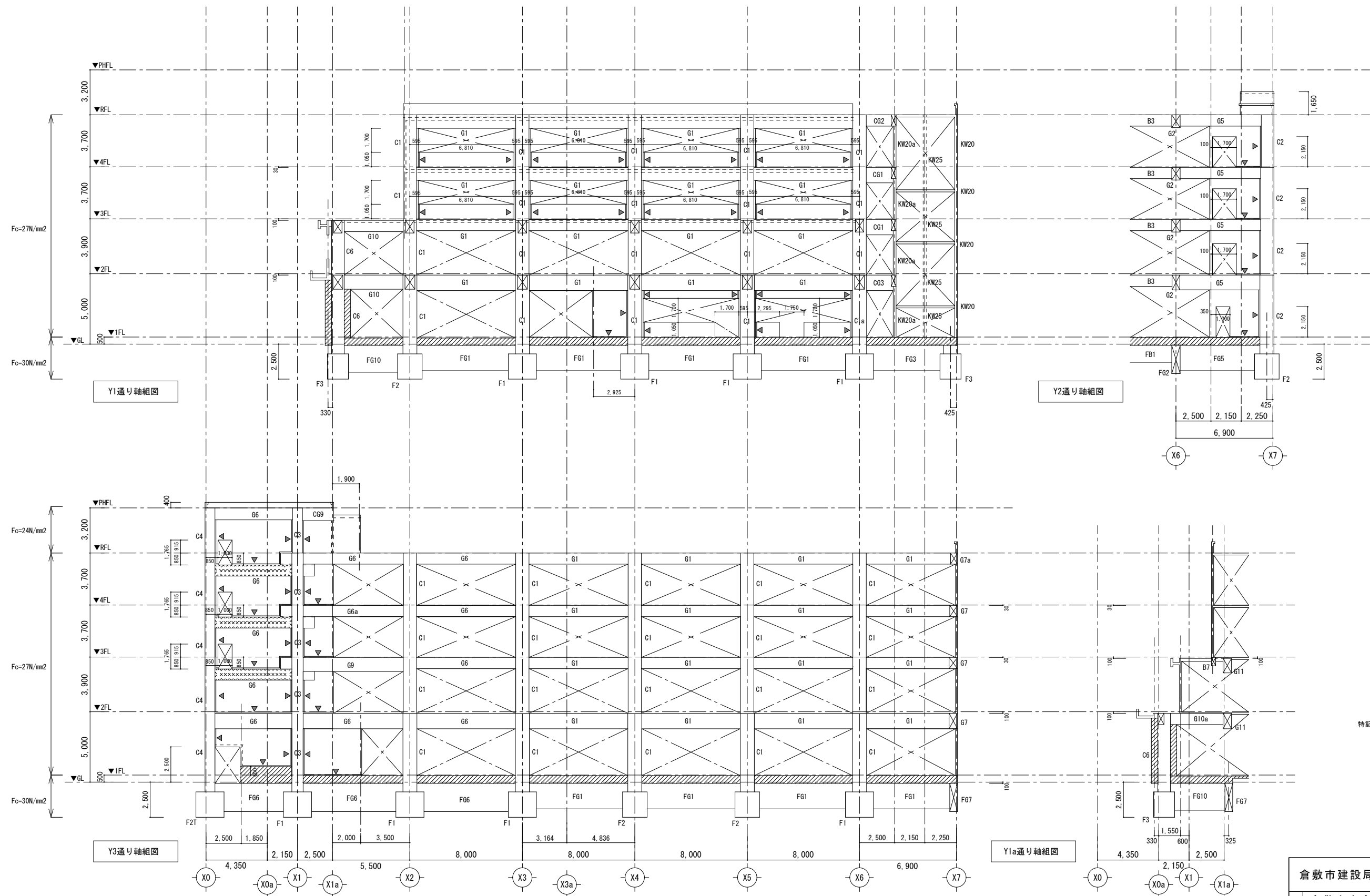
X6-X7通り間軸組図

X6-X7通り間軸組図

X7通り軸組図

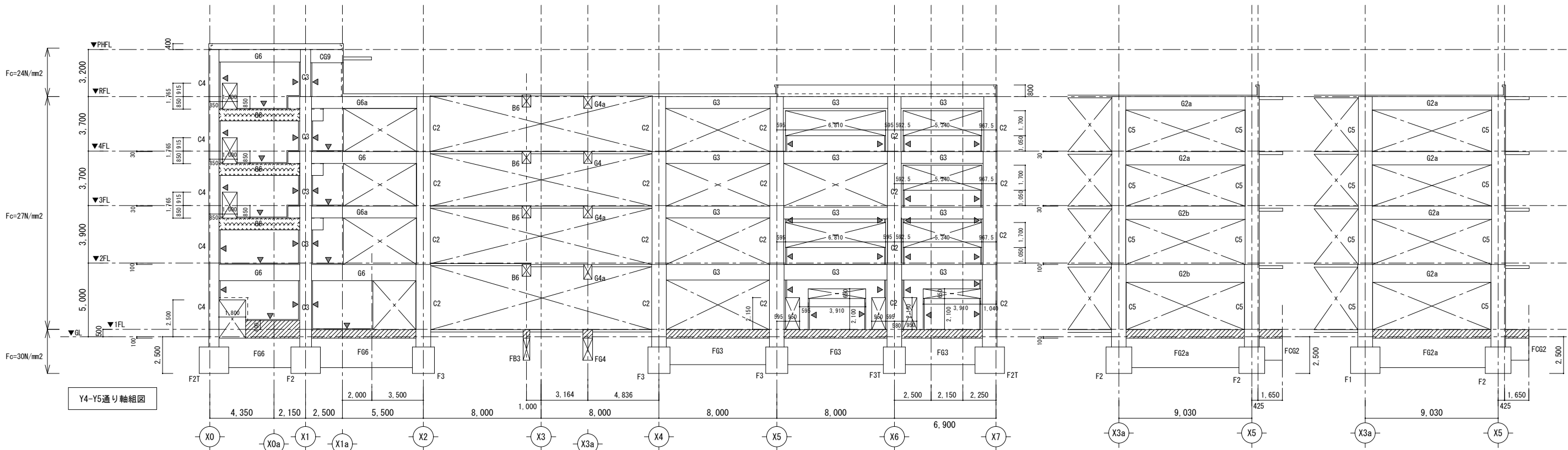
- 特記なき限り下記による
- 基礎ベ-ス下端はGL-2,500とする
 - 基礎梁天端はGL-100 (IFL-600)とする
 - 壁は、表示なき限りW15とする
 - スリット位置を示す
スリット幅は、垂直部35mm、水平部30mmとする
 - 増し打ち部分を示す

倉敷市建設局建築部公共建築課		担当	三宅
工事名	倉敷市立倉敷第一中学校校舎増築ほか 建築工事		
図名	軸組図（２）		
総企画・倉敷構造設計共同体			
一級建築士 第243674号 構造設計一級建築士 第4087号 木村 誠司	設 計 担 当 木村	図番	令和7年9月作成 S-023



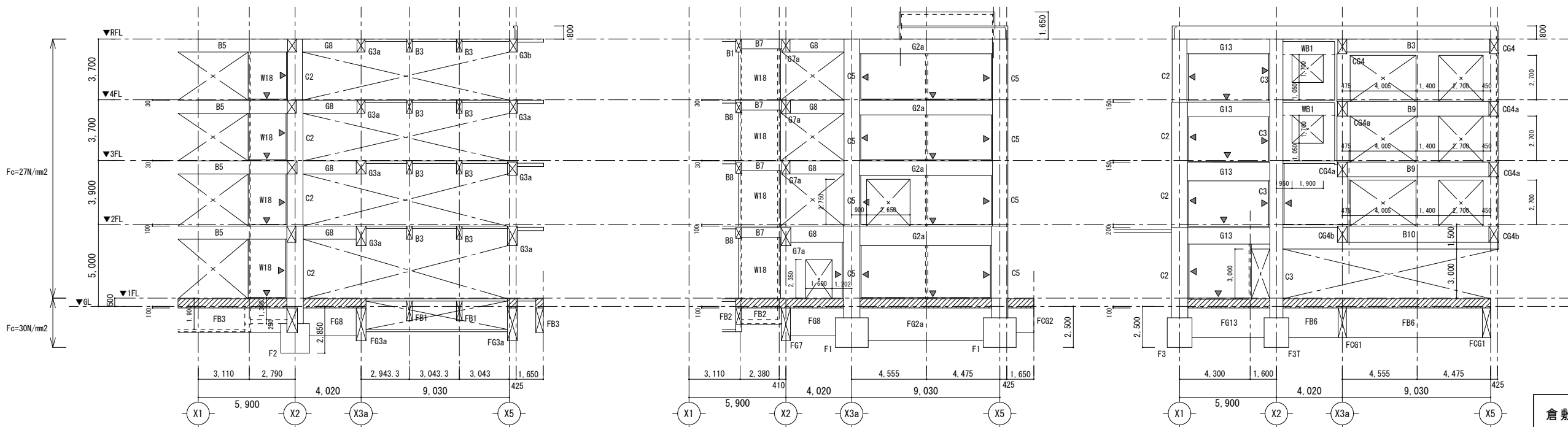
- 特記なき限り下記による
- 基礎ベ-ス下端はGL-2,500とする
 - 基礎梁天端はGL-100 (1FL-600)とする
 - 壁は、表示なき限りW15とする
 - スリット位置を示す
スリット幅は、垂直部35mm、水平部30mmとする
 - 増し打ち部分を示す
 - 梁側面の増し打ち部分を示す

倉敷市建設局建築部公共建築課		担当	三宅
工事名	倉敷市立倉敷第一中学校校舎増築ほか 建築工事		
図名	軸組図（３）		
綜企画・倉敷構造設計共同体			
一級建築士 第243674号 構造設計一級建築士 第4087号 木村 誠司	設計担当	図番	令和7年9月作成 S-024



Y5通り軸組図

Y6通り軸組図



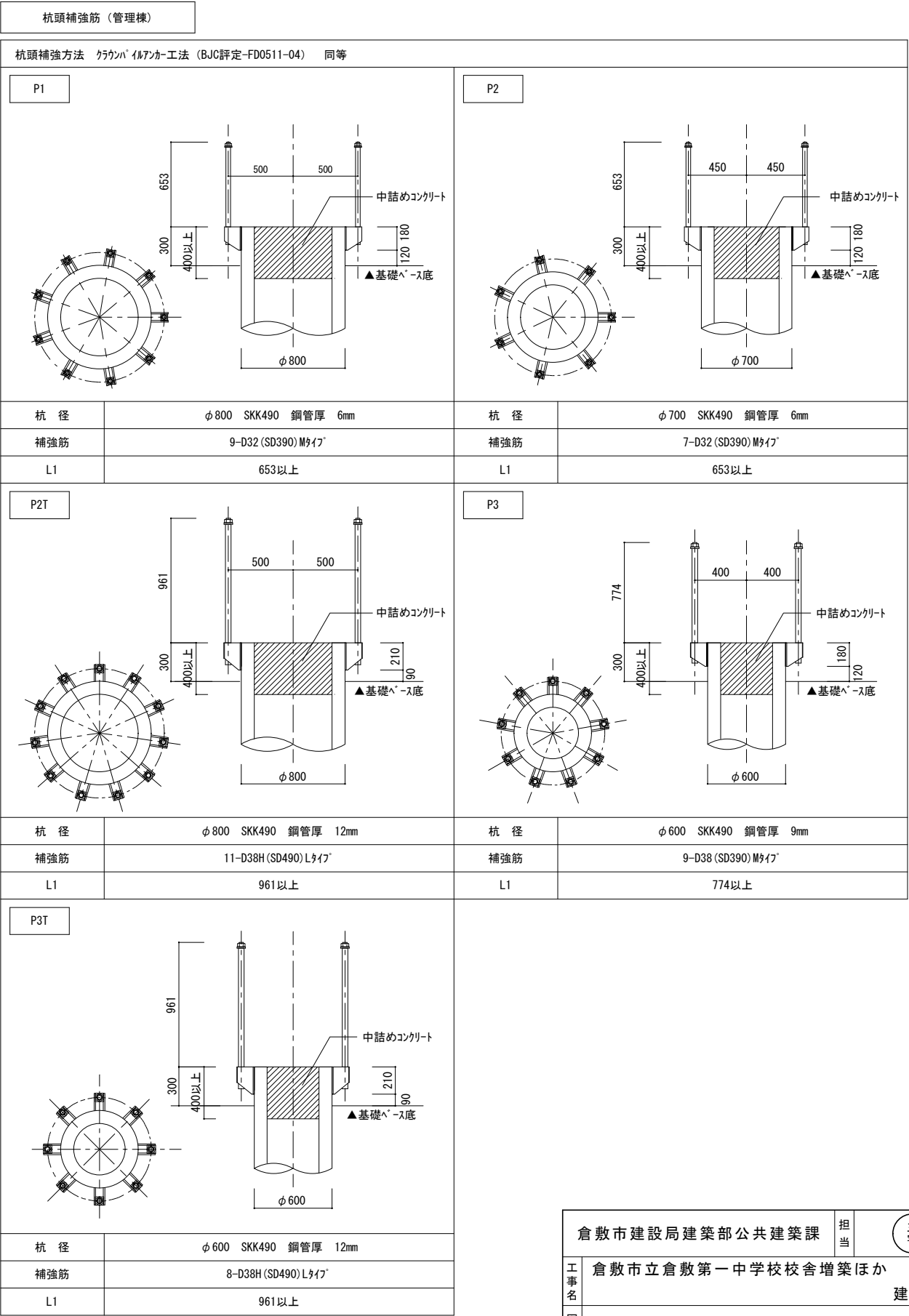
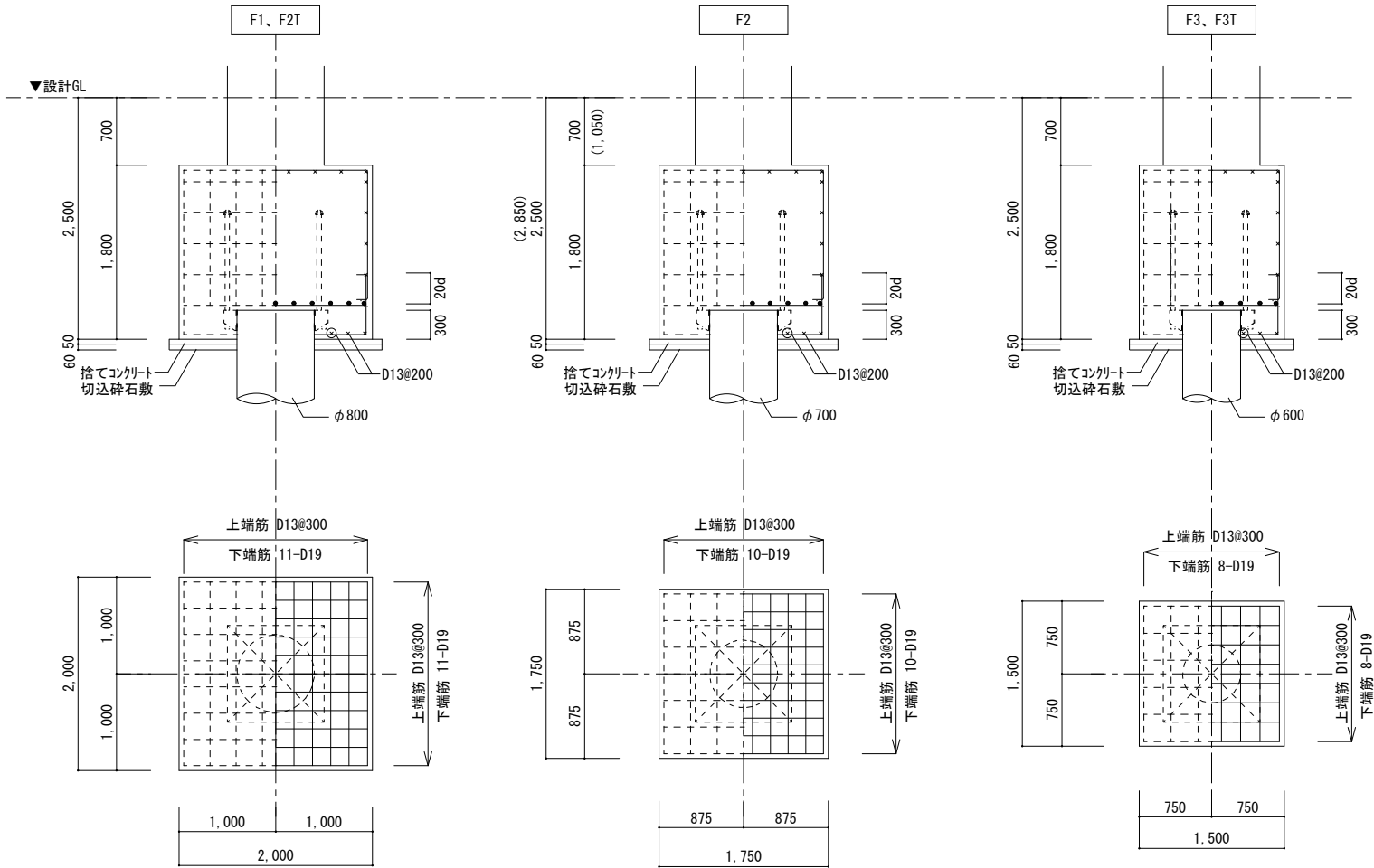
Y7通り軸組図

Y8通り軸組図

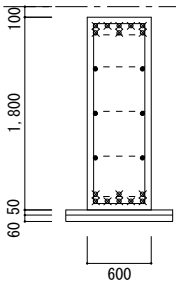
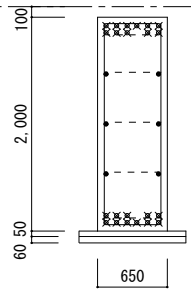
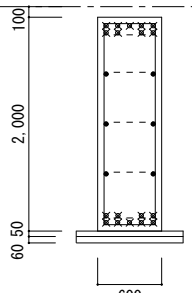
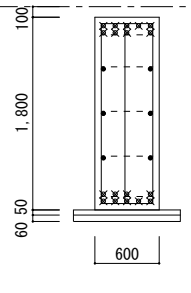
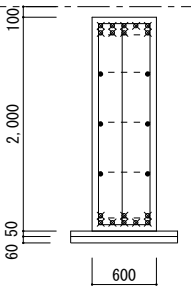
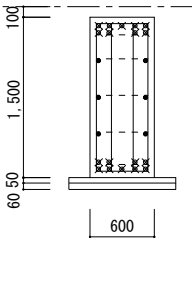
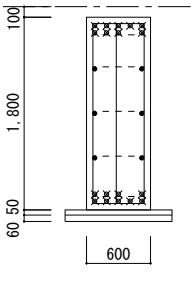
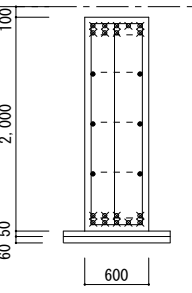
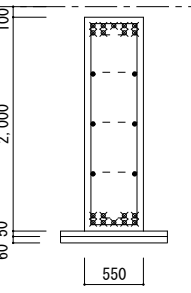
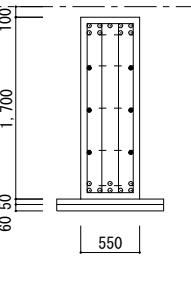
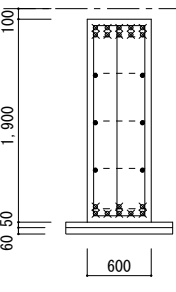
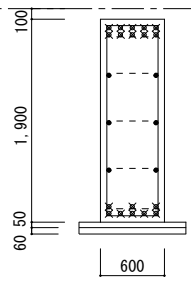
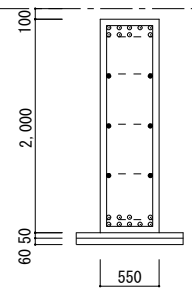
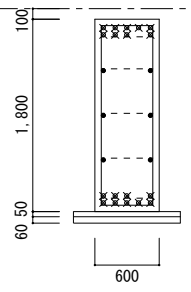
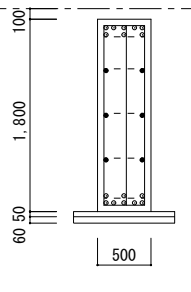
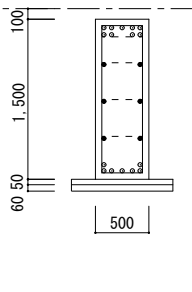
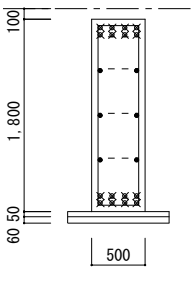
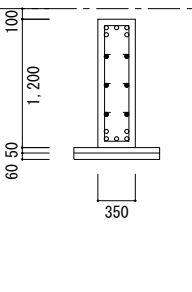
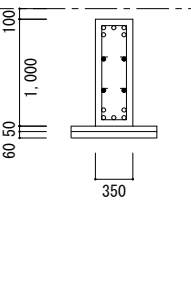
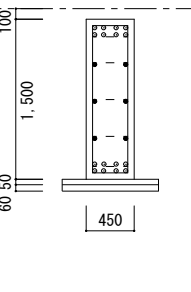
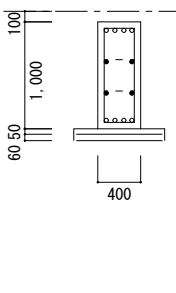
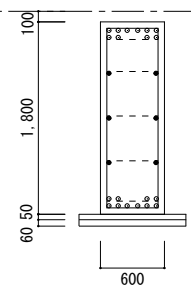
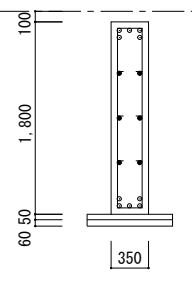
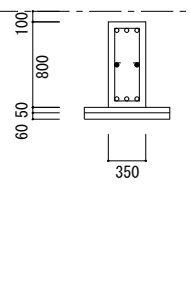
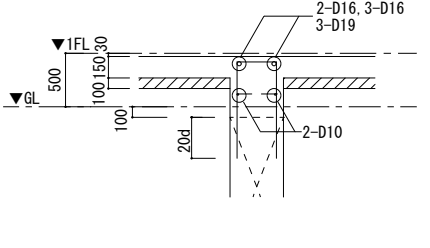
Y9通り軸組図

- 特記なき限り下記による
- ・ 基礎ベース下端はGL-2,500とする
 - ・ 基礎梁天端はGL+100 (1FL-600)とする
 - ・ 壁は、表示なき限りW15とする
 - ・ スリット位置を示す
スリット幅は、垂直部35mm、水平部30mmとする
 - ・ 増し打ち部分を示す
 - ・ 梁側面の増し打ち部分を示す

倉敷市建設局建築部公共建築課		担当	三宅
工事名	倉敷市立倉敷第一中学校校舎増築ほか 建築工事		
図名	軸組図（４）		
総企画・倉敷構造設計共同体			
一級建築士 第243674号 構造設計一級建築士 第4087号 木村 誠司	設 計 担 当	令和7年9月作成	
	木村	図番	S-025



倉敷市建設局建築部公共建築課		担当	三宅
工事名	倉敷市立倉敷第一中学校校舎増築ほか 建築工事		
図名	基礎リスト 杭頭補強筋リスト		
綜企画・倉敷構造設計共同体			
一級建築士 第243674号 構造設計一級建築士 第4087号 木村 誠司	設計担当 木村	図番	令和7年9月作成 S-026

地中梁 (Fc=30)	符 号	FG1	FG2	FG2a	FG3	FG3a	FG4	FG5	FG6	FG7	FG8
	位 置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
	断 面										
	B X D	600x1800	650x2000	600x2000	600x1800	600x2000	600x1500	600x1800	600x2000	550x2000	550x1700
	上 端 筋	8-D29	11-D29	9-D29	9-D29	9-D29	9-D29	9-D29	9-D29	9-D29	9-D25
	下 端 筋	8-D29	11-D29	9-D29	9-D29	8-D29	9-D29	9-D29	9-D29	9-D29	8-D25
	スターラップ	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@100	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@100
	腹 筋	6-D10	6-D10	6-D10	6-D10	6-D10	6-D10	6-D10	6-D10	6-D10	6-D10
地中梁 (Fc=30)	符 号	FG10	FG11	FG12	FG13	FCG1	FCG2	FCG3	FB1	FB2	FB3
	位 置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
	断 面										
	B X D	600x1900	600x1900	550x2000	600x1800	500x1800	500x1500	500x1800	350x1200	350x1000	450x1500
	上 端 筋	10-D29	10-D29	9-D25	9-D29	8-D25	9-D25	8-D29	5-D22	5-D22	8-D25
	下 端 筋	8-D29	8-D29	9-D25	9-D29	8-D25	7-D25	8-D29	5-D22	5-D22	8-D25
	スターラップ	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@150	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200
	腹 筋	6-D10	6-D10	6-D10	6-D10	6-D10	6-D10	6-D10	6-D10	4-D10	6-D10
地中梁 (Fc=30)	符 号	FB4	FB5	FB6	FB7	コンクリート増打要領					
	位 置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面					
	断 面										
	B X D	400x1000	600x1800	350x1800	350x800	補強筋 2-D16 (B≦350) 3-D16 (350<B<500) 3-D19 (500≦B)					
	上 端 筋	4-D22	10-D25	5-D25	3-D22						
	下 端 筋	4-D22	10-D25	5-D25	3-D22						
	スターラップ	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D10@200	スターラップと同径、同ピッチ					
	腹 筋	4-D10	6-D10	6-D10	2-D10	FG, FCG, FBの増打部分共通					

特記事項

Y方向上端主筋

X方向上梁主筋

Y方向下端主筋

X方向下梁主筋

大梁の柱内定着は柱せいDの0.8D以上とする

0.8D

G

C

主筋方向優先順位

X, Y方向で主筋交差が生じる場合は、下記による。

上端筋は、X方向を上方、Y方向を下方とする。

下端筋は、X方向を上方、Y方向を下方とする。

▼GL

100

D

60 50

巾止筋

巾止筋

巾止筋

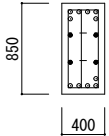
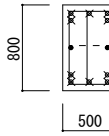
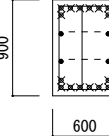
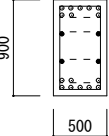
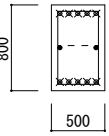
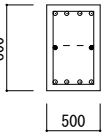
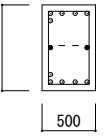
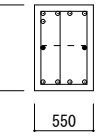
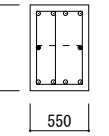
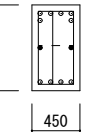
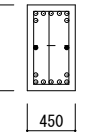
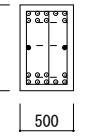
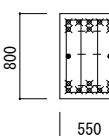
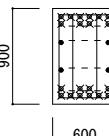
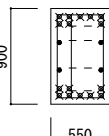
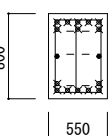
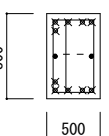
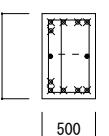
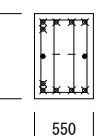
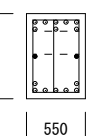
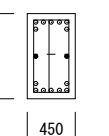
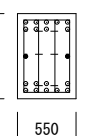
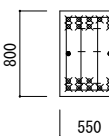
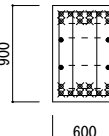
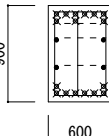
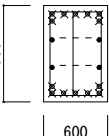
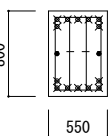
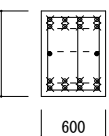
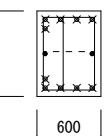
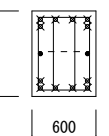
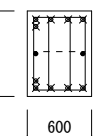
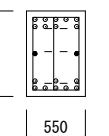
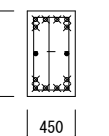
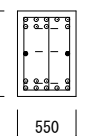
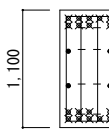
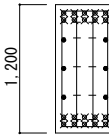
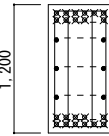
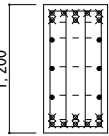
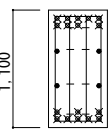
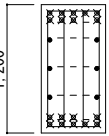
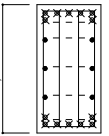
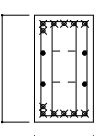
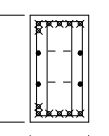
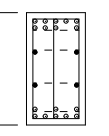
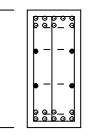
B

捨てコンクリート

切込砕石敷

凡例

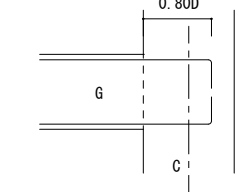
倉敷市建設局建築部公共建築課		担当	三宅
工事名	倉敷市立倉敷第一中学校校舎増築ほか 建築工事		
図名	地中梁リスト		
綜企画・倉敷構造設計共同体			
一級建築士 第243674号 構造設計一級建築士 第4087号 木村 誠司	設計担当	令和7年9月作成	
	木村	図番	S-027

階	符号	G1	G2	G2a	G2b	G3	G3a	G3b	G4	G4a	G5	G6	G6a
	断面名	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
PH階 (Fc=24)	断面												
	B × D											400x850	
	上端筋											6-D25	
	下端筋											5-D25	
	スターラップ											□-D13@150	
	腹筋											4-D10	
RFL (Fc=27)	断面												
	B × D	500x800	600x900	500x900		500x800	500x800	500x800	550x800	550x800	450x800	450x800	500x800
	上端筋	5-D29	8-D29	8-D25		5-D29	4-D25	5-D25	5-D25	4-D25	6-D25	7-D25	9-D25
	下端筋	5-D29	8-D29	8-D25		5-D29	4-D25	5-D25	4-D25	4-D25	4-D25	7-D25	9-D25
	スターラップ	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150		□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@100	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150
	腹筋	2-D10	4-D10	4-D10		2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10
4FL (Fc=27)	断面												
	B × D	550x800	600x900	550x900		550x800	500x800	500x800	550x800		550x800	450x800	550x800
	上端筋	8-D29	10-D29	8-D29		8-D29	5-D29	5-D29	5-D29		8-D25	7-D25	9-D25
	下端筋	8-D29	10-D29	8-D29		7-D29	5-D29	5-D29	5-D29		7-D25	7-D25	9-D25
	スターラップ	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150		□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@100		□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150
	腹筋	2-D10	4-D10	4-D10		2-D10	2-D10	2-D10	2-D10		2-D10	2-D10	2-D10
3FL (Fc=27)	断面												
	B × D	550x800	600x900	600x900	600x900	550x800	600x800	600x800	600x800	600x800	550x800	450x800	550x800
	上端筋	9-D29	10-D29	9-D29	7-D29	7-D29	8-D29	5-D29	6-D29	5-D29	9-D25	6-D29	9-D25
	下端筋	9-D29	10-D29	8-D29	7-D29	7-D29	8-D29	5-D29	6-D29	5-D29	8-D25	6-D29	9-D25
	スターラップ	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150
	腹筋	2-D10	4-D10	4-D10	4-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10
2FL (Fc=27)	断面												
	B × D	550x1100	550x1200	600x1200	600x1200	550x1100	600x1200	600x1200	550x1000	550x1000	550x1050	500x1100	
	上端筋	9-D29	10-D29	11-D29	8-D29	9-D29	9-D29	7-D29	6-D29	6-D29	9-D25	9-D25	
	下端筋	9-D29	10-D29	11-D29	8-D29	8-D29	9-D29	7-D29	6-D29	6-D29	8-D25	9-D25	
	スターラップ	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@150	□-D13@150	
	腹筋	4-D10	6-D10	6-D10	6-D10	4-D10	6-D10	6-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	

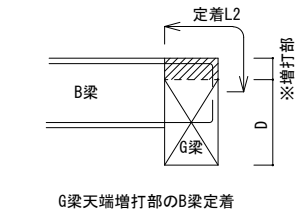
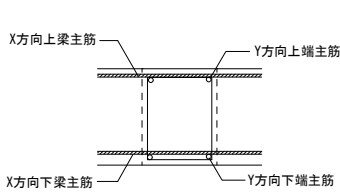
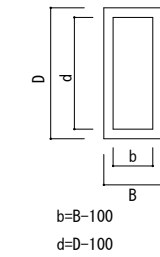
階	符号	G7	G7a	G8	G9	G10	G10a	G11	G11a	G12	G13
	断面名	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
PH階 (Fc=24)	断面										
	B × D	450x700	400x800								
	上端筋	6-D25	4-D25								
	下端筋	6-D25	4-D25								
	スターラップ	□-D13@200	□-D13@200								
	腹筋	2-D10	2-D10								
RFL (Fc=27)	断面										
	B × D	500x800	500x800	450x800						450x800	500x900
	上端筋	7-D25	5-D25	6-D25						6-D25	5-D25
	下端筋	6-D25	5-D25	6-D25						6-D25	5-D25
	スターラップ	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150						□-D13@150	□-D13@150
	腹筋	2-D10	2-D10	2-D10						2-D10	4-D10
4FL (Fc=27)	断面										
	B × D	550x800	500x800	500x800	600x900					450x900	600x900
	上端筋	9-D25	4-D29	9-D25	10-D29					7-D25	7-D29
	下端筋	7-D25	4-D29	9-D25	10-D29					7-D25	7-D29
	スターラップ	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150					□-D13@150	□-D13@150
	腹筋	2-D10	2-D10	2-D10	4-D10					4-D10	4-D10
3FL (Fc=27)	断面										
	B × D	600x850	500x800	550x800	600x1000	450x800		600x1025		450x900	600x1100
	上端筋	8-D29	5-D29	8-D25	8-D29	6-D25		11-D29		8-D25	7-D29
	下端筋	8-D29	5-D29	8-D25	8-D29	6-D25		10-D29		8-D25	7-D29
	スターラップ	□-D13@100	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150		□-D13@150		□-D13@150	□-D13@150
	腹筋	2-D10	2-D10	2-D10	4-D10	2-D10		4-D10		4-D10	4-D10
2FL (Fc=27)	断面										
	B × D	600x1100	600x1100	550x1000		550x1000	500x800	600x1100	500x800	450x1000	600x1100
	上端筋	9-D29	5-D29	9-D25		9-D25	7-D25	10-D29	6-D25	8-D25	6-D29
	下端筋	9-D29	5-D29	8-D25		9-D25	7-D25	10-D29	6-D25	8-D25	6-D29
	スターラップ	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150		□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150
	腹筋	4-D10	4-D10	4-D10		4-D10	2-D10	4-D10	2-D10	4-D10	4-D10

特記事項

大梁の柱内定着は柱せいDの0.80D以上とする

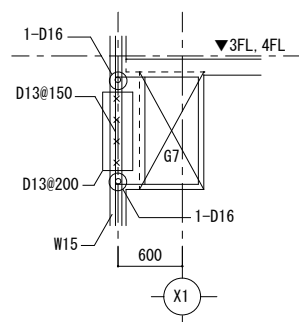
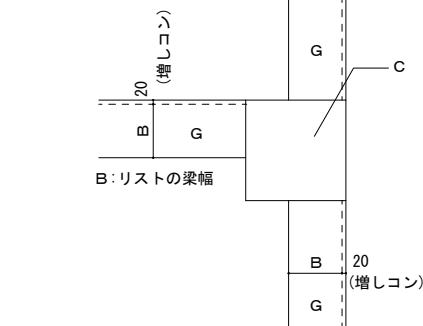


- 腹筋の定着長さはL2、継手長さはL1とする
- スターラップの加工寸法は、下記による



主筋方向優先順位
X, Y方向で主筋交差が生じる場合は、下記による。
上端筋は、X方向を上方、Y方向を下方とする。
下端筋は、X方向を上方、Y方向を下方とする。

柱面と梁面が同面の場合の処置



X1通りY5～Y9間梁側面増打ち

倉敷市建設局建築部公共建築課		担当	三宅
工事名	倉敷市立倉敷第一中学校校舎増築ほか 建築工事		
図名	大梁リスト（２）		
綜企画・倉敷構造設計共同体			
一級建築士 第243674号 構造設計一級建築士 第4087号 木村 誠司	設計担当	令和7年9月作成	
	木村	図番	S-031

片持梁リスト 1:50

特記なき限り下記による

巾止筋 D10@1000

符 号	CG1	CG2	CG3	CG4	CG4a	CG4b	CG5	CG6	CG7	CG8	CG9	CB1
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断 面												
B × D	550x1100	500x800	550x1100	550x900	600x900	600x1000	400x800	700x1000	600x900	450x800	400x900	600x700
上端筋	8-D29	6-D29	9-D29	10-D25	11-D29	10-D29	4-D25	13-D29	10-D29	4-D25	7-D25	11-D25
下端筋	8-D29	6-D29	5-D29	10-D25	10-D29	10-D29	4-D25	13-D29	10-D29	4-D25	7-D25	6-D25
スターラップ	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@200	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@150
腹 筋	4-D10	2-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	2-D10	4-D10	4-D10	2-D10	4-D10	2-D10

小梁リスト 1:50

特記なき限り下記による

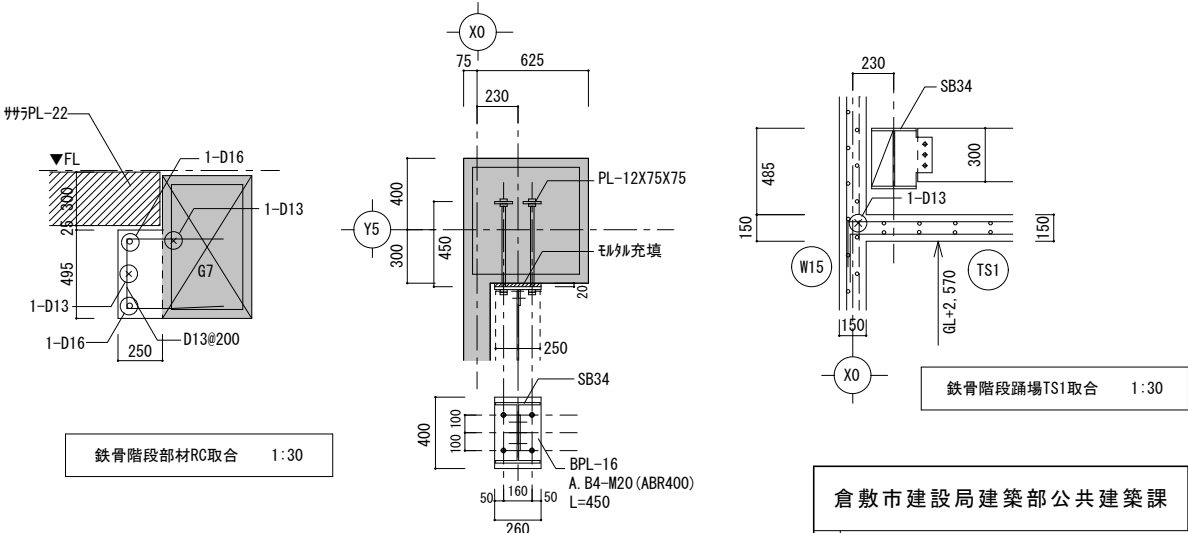
巾止筋 D10@1000

符 号	B1	B2	B3	B4	B5	B6	B7	B8	B9	B10	WB1	WB2	WB3
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断 面													
B × D	350x800	350x700	350x800	300x600	400x800	600x800	300x600	350x650	350x900	350x1000	150x900	200x900~1450	250x700
上 端 筋	4-D22	4-D22	5-D22	3-D22	4-D25	8-D25	3-D22	4-D22	3-D25	3-D25	2-D16	4-D16	4-D16
下 端 筋	4-D22	6-D22	5-D22	3-D22	7-D25	10-D25	3-D22	6-D22	5-D25	5-D25	2-D16	4-D16	4-D16
スターラップ	□-D10@200	□-D10@150	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@150	□-D13@150	□-D10@200	□-D10@150	□-D10@200	□-D10@200	D10@200	□-D10@200	□-D10@200
腹 筋	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	4-D10	4-D10	2-D10	4-D10	2-D13

鉄骨階段部材リスト 1:30

特記なき限り鋼材はSS400、高力ボルトはS10Tとする

符 号	内部鉄骨階段				SB34
断 面					
部 材	サワPL-22X300	サワPL-22X300	サワPL-22X300	サワPL-22X300	H-340X250X9X14
継 手	蹴込板、踏板 PL-4.5	GPL-12 HTB, 3-M20	BPL-16 A. B3-M20 (ABR400) L=300	BPL-16 A. BOLT2-M20 (SS400)	GPL-9 HTB, 3-M20
			先端PL-12X75X75	埋込長 L=300 DN	



倉敷市建設局建築部公共建築課		担当	三宅
工事名	倉敷市立倉敷第一中学校校舎増築ほか 建築工事		
図名	片持梁・小梁・鉄骨部材リスト		
綜企画・倉敷構造設計共同体			
一級建築士 第243674号 構造設計一級建築士 第4087号 木村 誠司		設計担当 木村	令和7年9月作成 図番 S-032

スラブリスト

記 号	スラブ 厚	位 置	短辺方向主筋		長辺方向主筋		備考
			端 部	中 央	端 部	中 央	
S1	150	上端筋	D10 @200		D10 @250		
		下端筋	D10 @200		D10 @250		
S2	150	上端筋	D10 @150		D10 @200		
		下端筋	D10 @150		D10 @200		
S3	150	上端筋	D10, D13 @200		D10, D13 @200		
		下端筋	D10 @200		D10 @200		
S3a	150	上端筋	D10, D13 @100		D10, D13 @200		R階X5通り Y4～Y5通り間
		下端筋	D10 @200		D10 @200		
S4	150	上端筋	D10, D13 @150		D10, D13 @150		
		下端筋	D10 @200		D10 @200		
S5	150	上端筋	D10 @200		D10 @200		
		下端筋	D10 @200		D10 @200		
S6	150	上端筋	D10, D13 @200		D10 @200		
		下端筋	D10, D13 @200		D10 @200		
S7	175	上端筋	D13 @200		D13 @200		
		下端筋	D10 @200		D10 @200		
S7a	200	上端筋	D13 @100		D13 @200		3, 4階X5通り Y4～Y5通り間
		下端筋	D10 @200		D10 @200		
S8	175	上端筋	D13 @150		D13 @150		
		下端筋	D10 @150		D10 @150		
S9	150	上端筋	D10, D13 @150		D10, D13 @150		
		下端筋	D10 @150		D10 @150		
S10	150	上端筋	D10, D13 @200		D10, D13 @200		
		下端筋	D10 @200		D10 @200		
TS1	150	上端筋	D10 @200		D10 @200		屋内階段 天井
		下端筋	D10 @200		D10 @200		
FS1	250	上端筋	D16 @200		D16 @200		EVレフト
		下端筋	D16 @200		D16 @200		

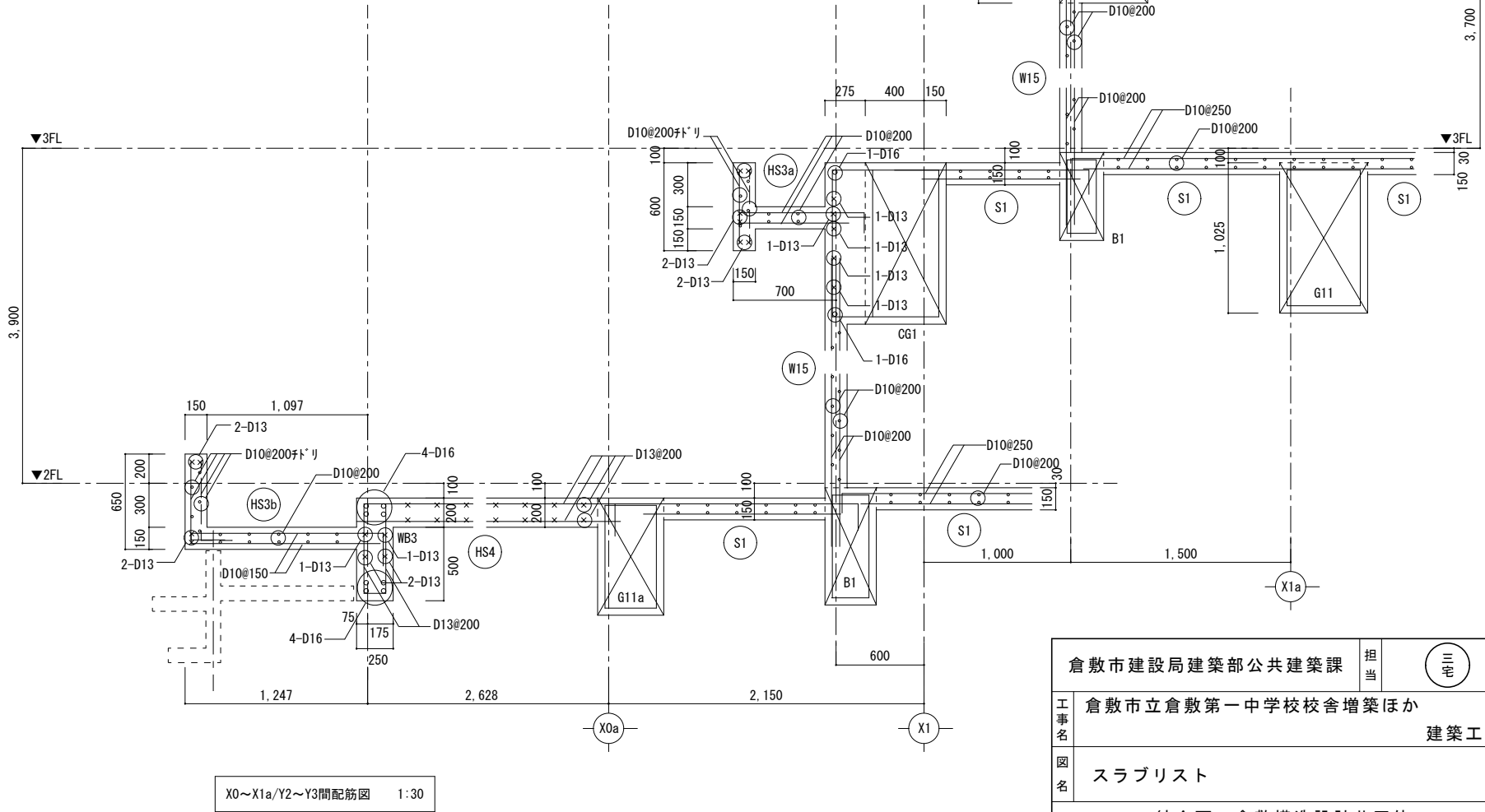
記 号	スラブ厚	位 置	短辺方向主筋		長辺方向主筋		備考
			端 部	中 央	端 部	中 央	
KS1	150	上端筋	D10 @150		D10 @150		階段踊場
		下端筋	D10 @150		D10 @150		
KS2	150	上端筋	D10 @200		D10 @200		階段踊場
		下端筋	D10 @200		D10 @200		

土間コンクリートリスト

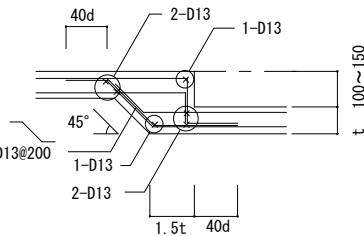
記 号	スラブ 厚	位 置	短辺方向主筋		長辺方向主筋		備考
			端 部	中 央	端 部	中 央	
地下ビ`ット床 PS1	150	上端筋	D10 @200		D10 @200		
		下端筋	D10 @200		D10 @200		
地下ビ`ット床 PS2	250	上端筋	D13 @200		D13 @200		雨水貯留槽
		下端筋	D13 @200		D13 @200		
土間コンクリート	150	上端筋	D10 @200		D10 @200		
		下端筋	D10 @200		D10 @200		

片持スラブリスト

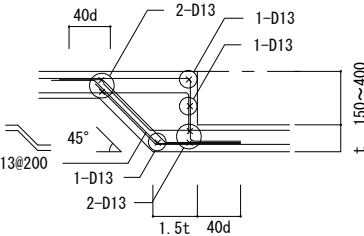
記 号	スラブ厚 基端～先端	位 置	主筋方向配筋		配力筋方向配筋		備考
			端 部	中 央	端 部	中 央	
HS1	200～150	上端筋	D10 @150		D10 @200		PH階底
		下端筋	D10 @150		D10 @200		
HS2	200	上端筋	D13 @200		D10 @200		2階～R階東側底
		下端筋	D13 @200		D10 @200		R階西側底
HS2a	200	上端筋	D13 @100		D10 @200		2階東側底
		下端筋	D13 @100		D10 @200		
HS3	200～150	上端筋	D10 @200		D10 @200		2階～3階西側底
		下端筋	D10 @200		D10 @200		
HS3a	150	上端筋	D10 @200		D10 @200		2階～3階西側底
		下端筋	D10 @200		D10 @200		
HS3b	150	上端筋	D10 @150		D10 @200		2階西側底
		下端筋	D10 @150		D10 @200		
HS4	200	上端筋	D13 @200		D13 @200		
		下端筋	D13 @200		D13 @200		
CS1	200	上端筋	D13 @200		D10 @200		4階
		下端筋	D13 @200		D10 @200		メンテナンスバルコニー
CS2	175	上端筋	D10 @200		D10 @200		2階
		下端筋	D10 @200		D10 @200		渡り廊下



スラブ 段差1



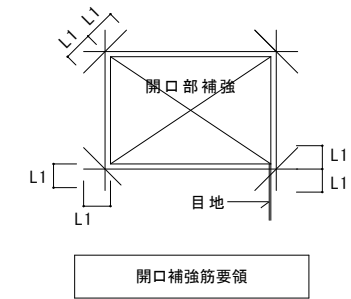
スラブ 段差2



倉敷市建設局建築部公共建築課		担当	三宅
工事名	倉敷市立倉敷第一中学校校舎増築ほか 建築工事		
図名	スラブリスト		
綜企画・倉敷構造設計共同体			
一級建築士 第243674号 構造設計一級建築士 第4087号 木村 誠司		設計担当	令和7年9月作成
		木村	図番 S-033

壁リスト 1:30		巾止筋 D10@1000 内外		
記 号	W18	W15	W20, KW20, KW20a	KW25
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面
断 面				
壁 厚	180	150	200	250
縦 筋	D13@200 (ﾀﾞﾌﾞﾙ)	D10@200 (ﾀﾞﾌﾞﾙﾎﾄﾞﾘ)	D13@200 (ﾀﾞﾌﾞﾙ)	D16@200 (ﾀﾞﾌﾞﾙ)
横 筋	D13@200 (ﾀﾞﾌﾞﾙ)	D10@200 (ﾀﾞﾌﾞﾙﾎﾄﾞﾘ)	D13@200 (ﾀﾞﾌﾞﾙ)	D16@200 (ﾀﾞﾌﾞﾙ)
開口部 補強筋	縦, 横筋	4-D13	2-D13	
	斜ﾒ筋	2-D13	1-D13	

開口補強筋について軸組図に記入なき限り下記による



(注)特記なき限り下記による

- ﾀﾞﾌﾞﾙ配筋の巾止め筋は、縦横共1-D10@1000以内とする
- 耐震壁の鉄筋の継手及び定着長さはL1とし、一般壁はL2とする
- 開口部が柱、梁に接する部分、及び最大開口径が300以下で鉄筋をゆるやかに曲げる事により、開口部をさけて配筋できる場合は補強を要しない
- 目地がある時、上図のように補強する

壁スリット部分

※部詳細

各階 35

セパレーター

スリット固定材

スリット材 (不燃材)

スリット材 (不燃材)

各階 30

※部

柱

垂直スリット

水平部詳細

耐震スリットは、「スリットン」、「パイロン」、「エキスパンウォール」などの既製品のいずれかを使用する

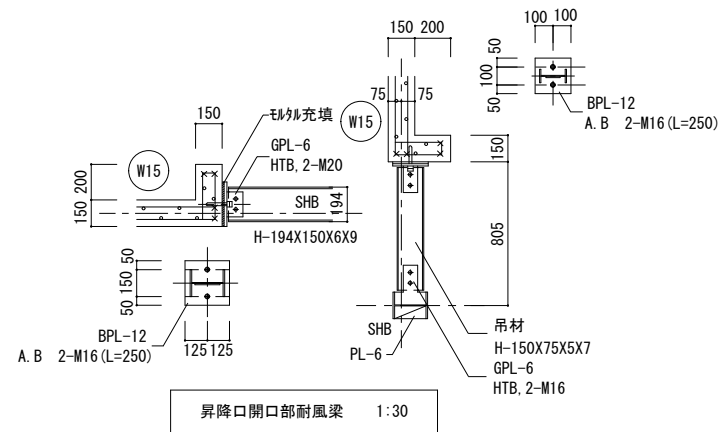
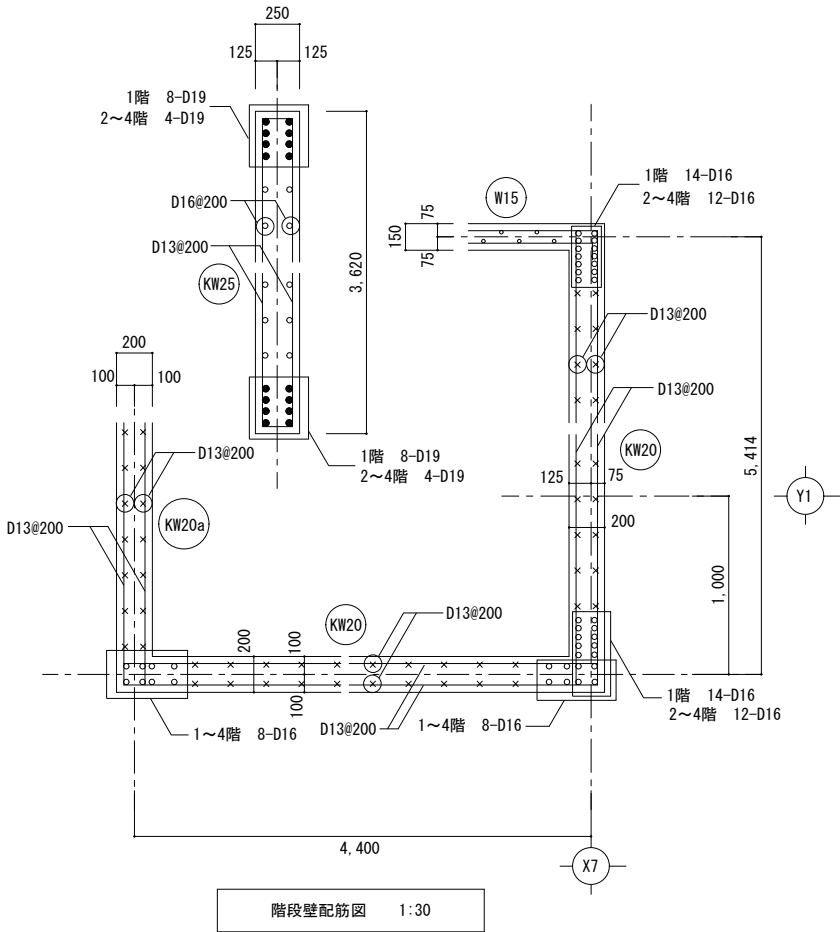
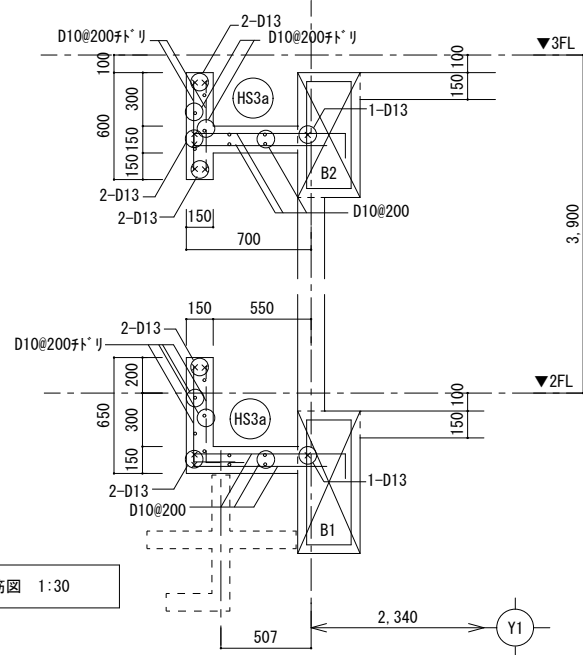
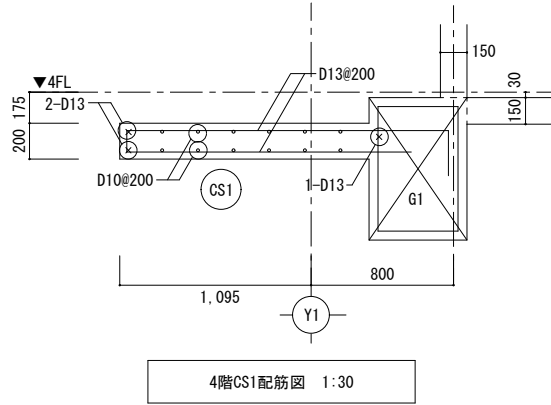
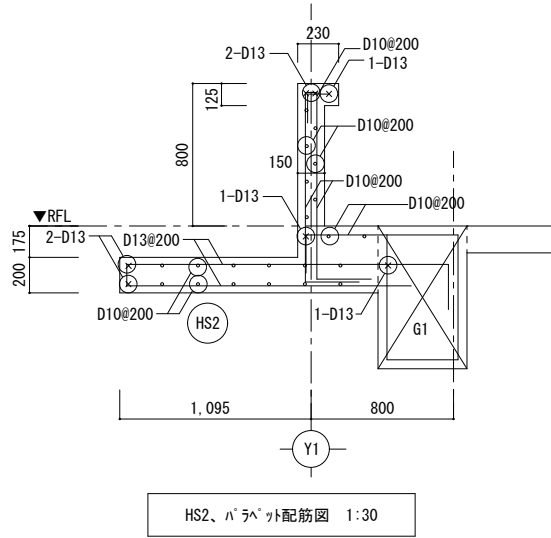
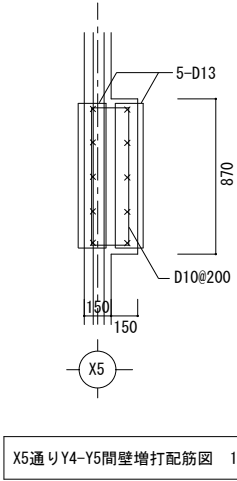
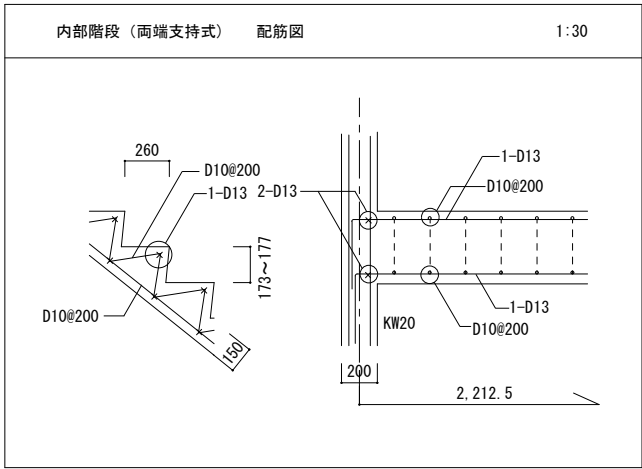
耐火タイプを使用する。

非耐力壁とｽﾗﾌﾞとの取合配筋要領

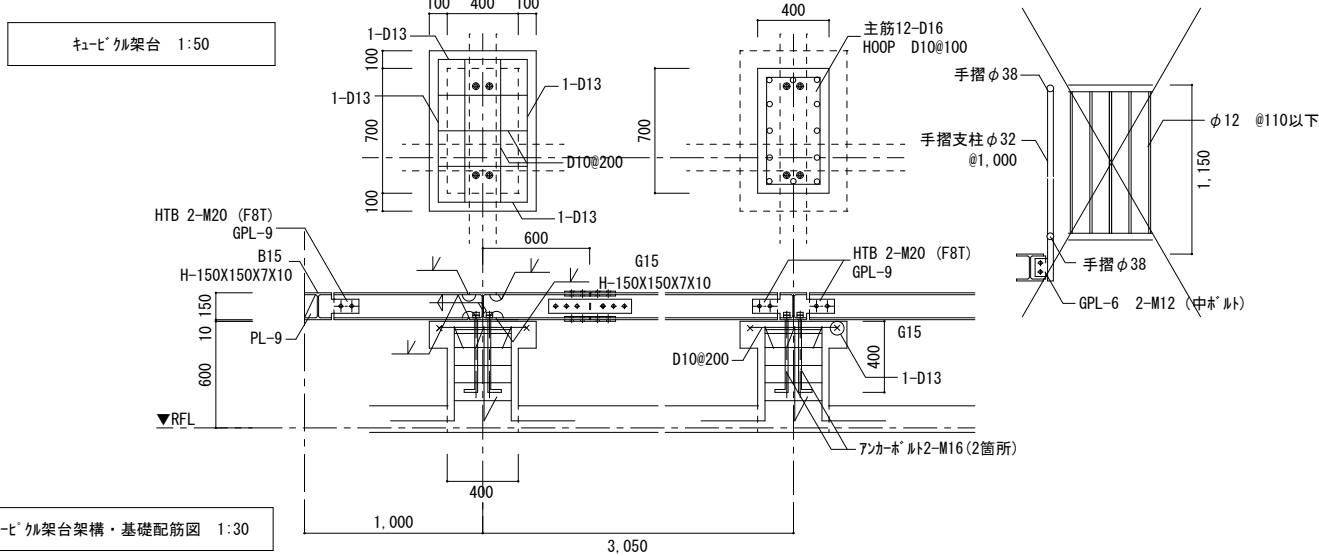
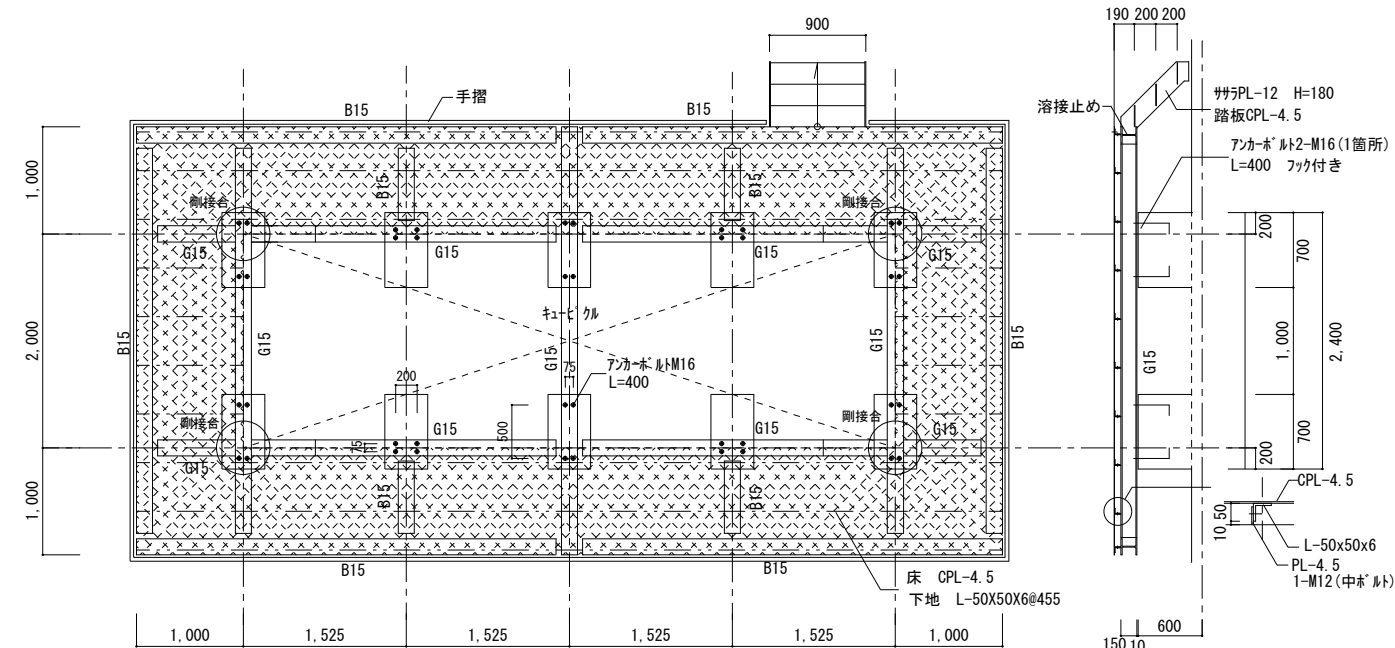
(1) 上階に壁のない場合

(2) 壁が上下で連続している場合

(3) 下階に壁がない場合

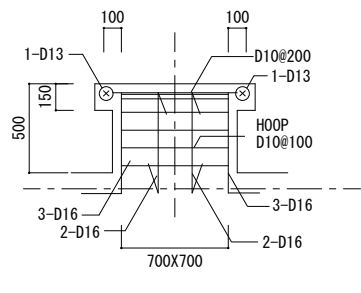


倉敷市建設局建築部公共建築課		担当	三宅
工事名	倉敷市立倉敷第一中学校校舎増築ほか 建築工事		
図名	壁リスト		
綜企画・倉敷構造設計共同体			
一級建築士 第243674号	設計担当	令和7年9月作成	
構造設計一級建築士 第4087号	木村	図番	S-034
木村 誠司			

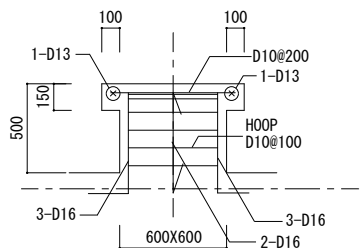


設備基礎等配筋図 1:30

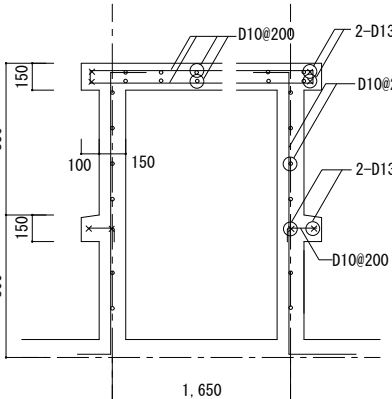
室外機設備基礎 1:30



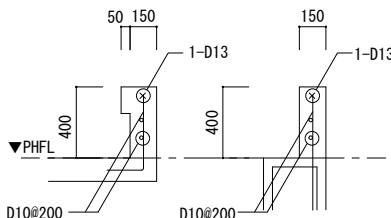
太陽光設備基礎 1:30



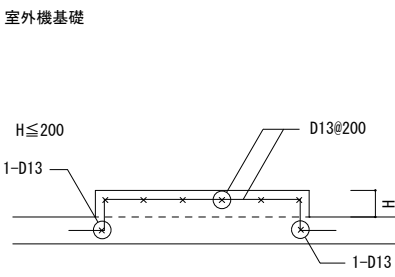
ハト小屋配筋図 1:30



PH階バレーット・点検口配筋図 1:30



設備基礎断面 1:30



鉄骨大梁継手リスト 1:30

符 号		G15
部 材		H-150X150X7X10
継 手		
フランジ	S P L	2PL-9X150X290 4PL-9X60X290
	H T B	16-M16
ウェブ	S P L	2PL-9X80X470
	H T B	6-M16
備 考		溶融亜鉛メッキ処理

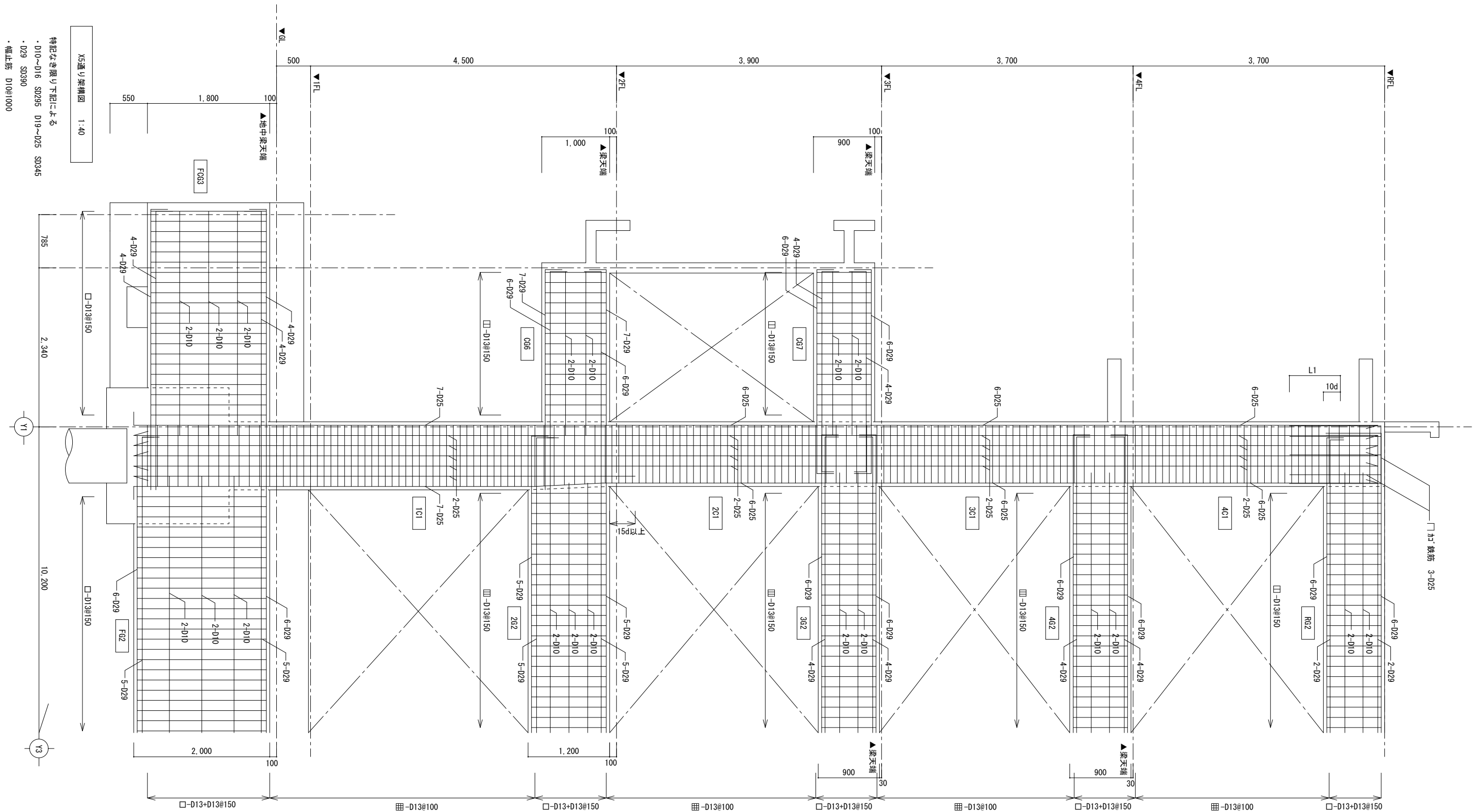
鉄骨小梁リスト 1:30

符 号		B15
断 面		
部 材	H-150X150X7X10	
継 手	GPL-9 HTB, 2-M20	
備 考	溶融亜鉛メッキ処理	

・ 特記なき限り鋼材はSS400、高力棒はF8Tとする

・ 特記なき限り鋼材はSS400、高力棒はF8Tとする

倉敷市建設局建築部公共建築課		担当	三宅
倉敷市立倉敷第一中学校校舎増築ほか		建築工事	
設備架台・屋上設備基礎図			
綜企画・倉敷構造設計共同体			
一級建築士 第243674号 造設計一級建築士 第4087号 木村 誠司	設 計 担 当 木村	図番	令和7年9月作成 S-035



倉敷市建設局建築部公共建築課		担当	三宅
工事名	倉敷市立倉敷第一中学校校舎増築ほか 建築工事		
図名	架構配筋図		
綜企画・倉敷構造設計共同体			
一級建築士 第243674号 構造設計一級建築士 第4087号 木村 誠司		設計担当 木村	令和7年9月作成 S-037

渡り廊下2

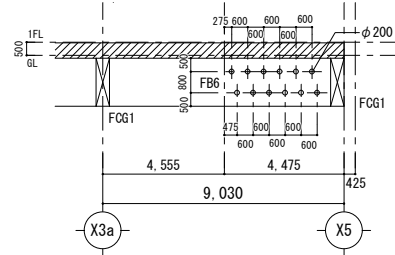
梁符号別補強筋タイプ表（補強筋のタイプはスリーバー標準図による）

梁符号	100φ	125φ	150φ
FG1	MA	MA	MA

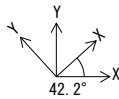
梁符号別補強筋タイプ表（補強筋のタイプはスリーバー標準図による）

梁符号	100φ	125φ	150φ	175φ	200φ	250φ
FG3、FG3a	MA	MA	MA	MA	MA	MA
FG4	MD	ME	ME	ME 3	ME 3	ME 3
FG11	MA	MB	MC	MD	MD	MD
FG13	MA	MA	MA	MA	MB	MC
FB1	MA	MA	MA	MA	MA	MA
FB6	MA	MA	MA	MA	MA	MA
FG2a	MA	MA	MA	MA	MA	MA
FG7	MA	MA	MA	MA	MA	MA
FB3	MA	MA	MA	MA	MA	MA

※特記なき場合はスリーブ位置：上水はGL-800、消火はGL-900



Y9通りX3a-X5間貫通位置

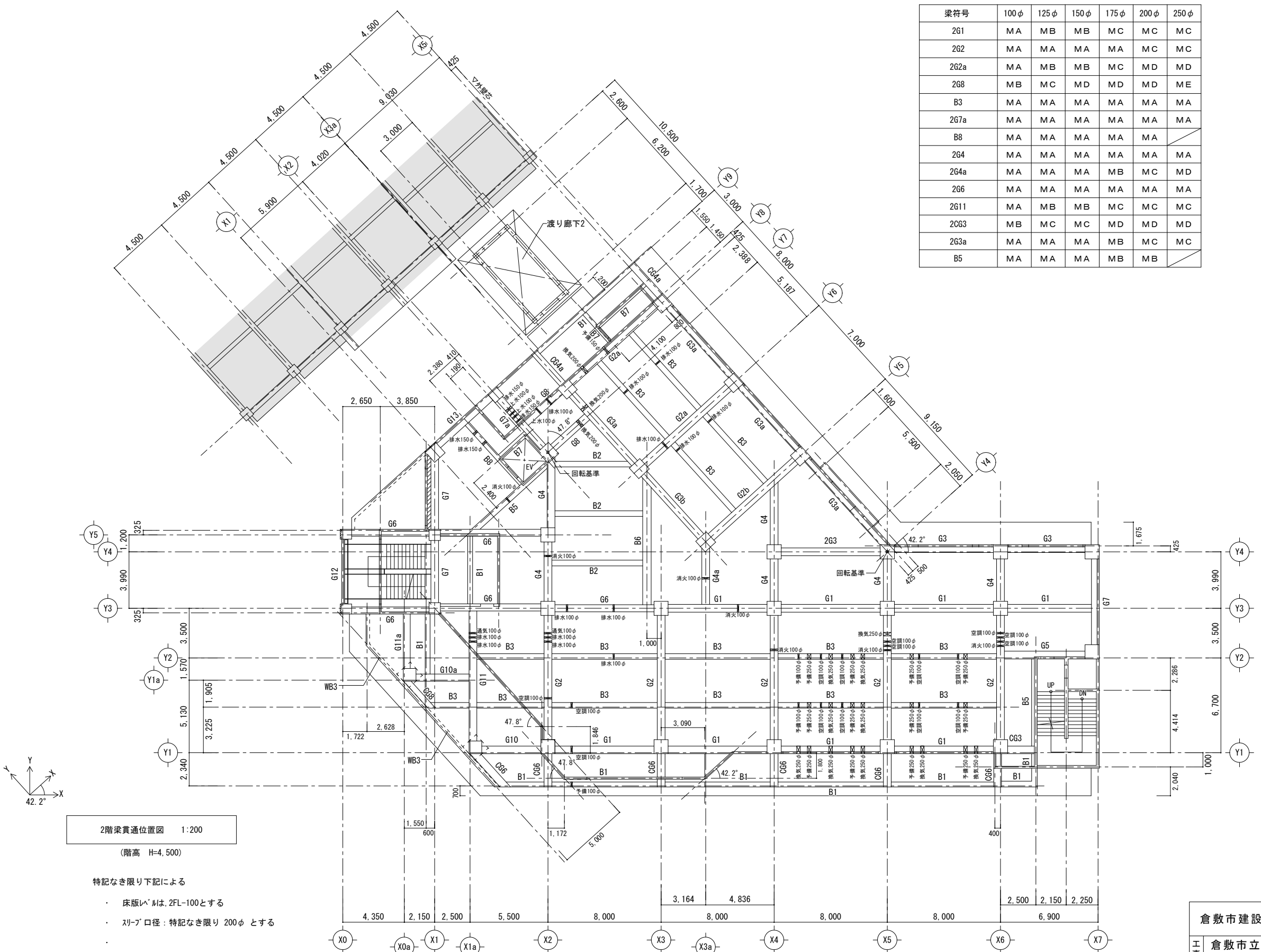


基礎梁貫通位置図 1:200

特記なき限り下記による

- ・ 1FL=GL+500とする
- ・ 床版いゝは、1FL-30とする
- ・ スリーブ口径：特記なき限り 200φ とする
- ・
- ・

倉敷市建設局建築部公共建築課		担当	三宅
工事名	倉敷市立倉敷第一中学校校舎増築ほか 建築工事		
図名	1階基礎梁貫通位置図		
総企画・倉敷構造設計共同体			
一級建築士 第243674号 構造設計一級建築士 第4087号 木村 誠司		設計担当 木村	令和7年9月作成 図番 S-038



梁符号別補強筋タイプ表（補強筋のタイプはスパンバー標準図による）

梁符号	100φ	125φ	150φ	175φ	200φ	250φ
2G1	MA	MB	MB	MC	MC	MC
2G2	MA	MA	MA	MA	MC	MC
2G2a	MA	MB	MB	MC	MD	MD
2G8	MB	MC	MD	MD	MD	ME
B3	MA	MA	MA	MA	MA	MA
2G7a	MA	MA	MA	MA	MA	MA
B8	MA	MA	MA	MA	MA	
2G4	MA	MA	MA	MA	MA	MA
2G4a	MA	MA	MA	MB	MC	MD
2G6	MA	MA	MA	MA	MA	MA
2G11	MA	MB	MB	MC	MC	MC
2CG3	MB	MC	MC	MD	MD	MD
2G3a	MA	MA	MA	MB	MC	MC
B5	MA	MA	MA	MB	MB	

2階梁貫通位置図 1:200

(階高 H=4,500)

特記なき限り下記による

- 床版いゝMは、2FL-100とする
- スリット口径：特記なき限り 200φ とする
-

倉敷市建設局建築部公共建築課

担当

三宅

倉敷市立倉敷第一中学校校舎増築ほか

建築工事

2階梁貫通位置図

綜企画・倉敷構造設計共同体

一級建築士 第243674号

構造設計一級建築士 第4087号

木村 誠司

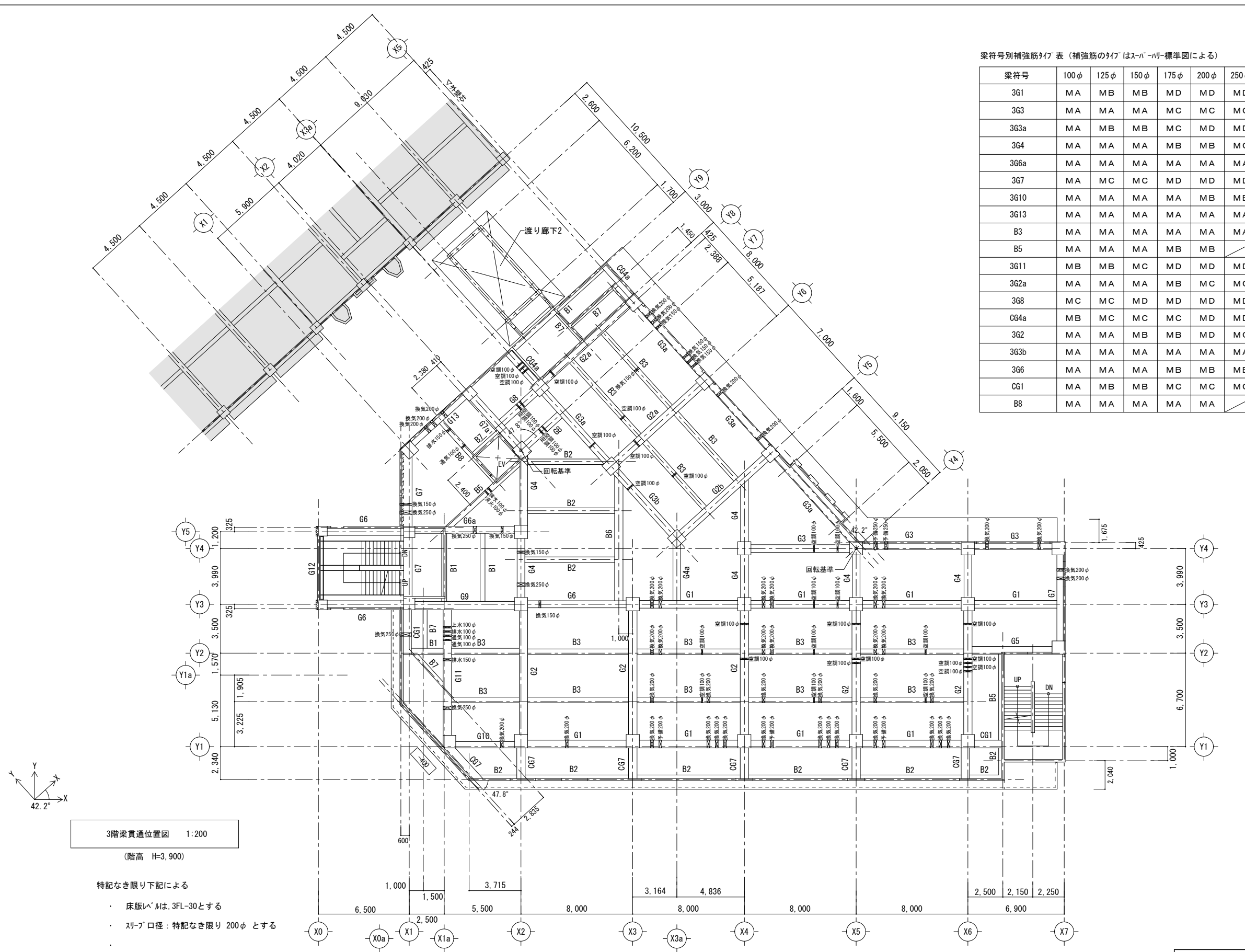
設計担当

木村

令和7年9月作成

図番

S-039



梁符号別補強筋タイプ表（補強筋のタイプはスパンバー標準図による）

梁符号	100φ	125φ	150φ	175φ	200φ	250φ
3G1	MA	MB	MB	MD	MD	MD
3G3	MA	MA	MA	MC	MC	MC
3G3a	MA	MB	MB	MC	MD	MD
3G4	MA	MA	MA	MB	MB	MC
3G6a	MA	MA	MA	MA	MA	MA
3G7	MA	MC	MC	MD	MD	MD
3G10	MA	MA	MA	MA	MB	MB
3G13	MA	MA	MA	MA	MA	MA
B3	MA	MA	MA	MA	MA	MA
B5	MA	MA	MA	MB	MB	
3G11	MB	MB	MC	MD	MD	MD
3G2a	MA	MA	MA	MB	MC	MC
3G8	MC	MC	MD	MD	MD	MD
CG4a	MB	MC	MC	MC	MD	MD
3G2	MA	MA	MB	MB	MD	MC
3G3b	MA	MA	MA	MA	MA	MA
3G6	MA	MA	MA	MB	MB	MB
CG1	MA	MB	MB	MC	MC	MC
B8	MA	MA	MA	MA	MA	

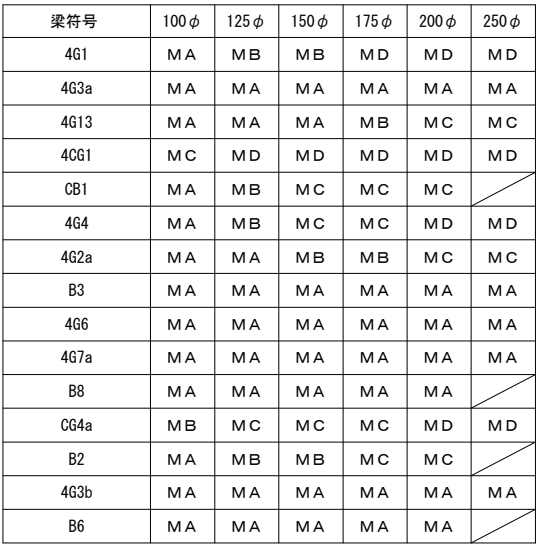
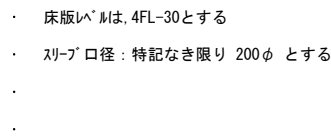
3階梁貫通位置図 1:200

(階高 H=3,900)

特記なき限り下記による

- 床版いゝは、3FL-30とする
- スラブ口径：特記なき限り 200φ とする

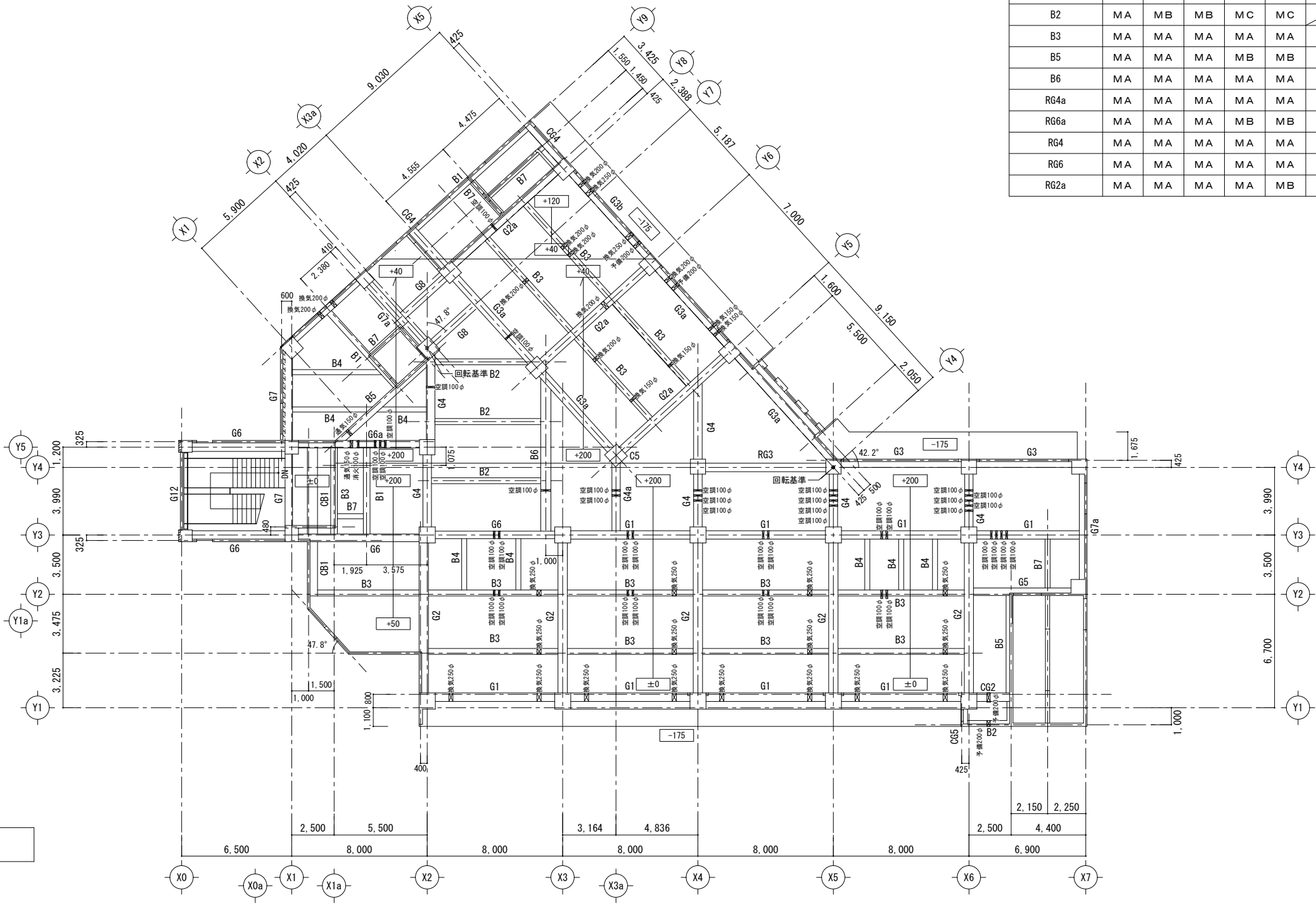
倉敷市建設局建築部公共建築課		担当	三宅
工事名	倉敷市立倉敷第一中学校校舎増築ほか 建築工事		
図名	3階梁貫通位置図		
綜企画・倉敷構造設計共同体			
一級建築士 第243674号 構造設計一級建築士 第4087号 木村 誠司	設計担当 木村	令和7年9月作成 図番	S-040



倉敷市建設局建築部公共建築課		担当	三宅
工事名	倉敷市立倉敷第一中学校校舎増築ほか 建築工事		
図名	4階梁貫通位置図		
綜企画・倉敷構造設計共同体			
一級建築士 第243674号 構造設計一級建築士 第4087号 木村 誠司		設計担当 木村	令和7年9月作成 S-041

梁符号別補強筋タイプ表（補強筋のタイプはス-パ-バー標準図による）

梁符号	100φ	125φ	150φ	175φ	200φ	250φ
RG1	MA	MA	MA	MA	MA	MA
RG3a	MA	MA	MA	MA	MA	MA
RG3b	MA	MA	MA	MA	MA	MA
RG13	MA	MA	MA	MA	MA	MA
RCG2	MA	MB	MB	MC	MC	MD
B2	MA	MB	MB	MC	MC	
B3	MA	MA	MA	MA	MA	MA
B5	MA	MA	MA	MB	MB	MB
B6	MA	MA	MA	MA	MA	MA
RG4a	MA	MA	MA	MA	MA	MA
RG6a	MA	MA	MA	MB	MB	MB
RG4	MA	MA	MA	MA	MA	MA
RG6	MA	MA	MA	MA	MA	MA
RG2a	MA	MA	MA	MA	MB	MB



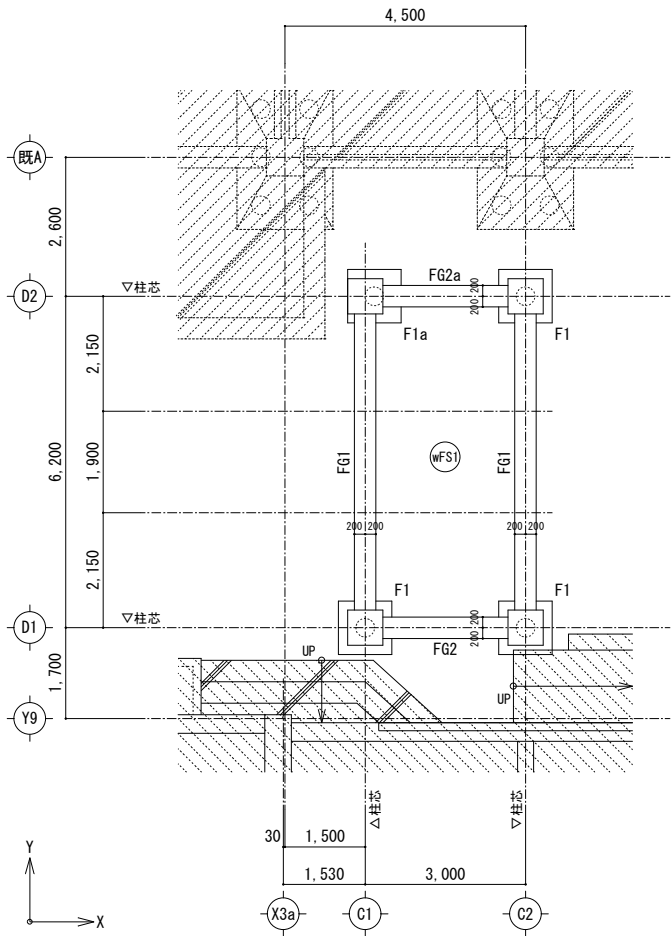
R階梁貫通位置図 1:200

(階高 H=3,700)

特記なき限り下記による

- ・スリ-フ 口径：特記なき限り 200φ とする
- ・

倉敷市建設局建築部公共建築課		担当	三宅
工事名	倉敷市立倉敷第一中学校校舎増築ほか 建築工事		
図名	R階梁貫通位置図		
綜企画・倉敷構造設計共同体			
一級建築士 第243674号 構造設計一級建築士 第4087号 木村 誠司	設計担当 木村	図番	令和7年9月作成 S-042



基礎伏図 S=1:100

特記なき限り下記による
・ GL=KBM+475とする
・ IFL=GL+500とする

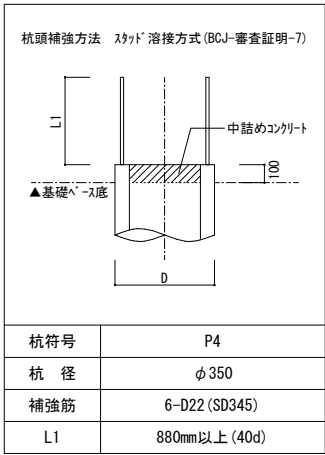
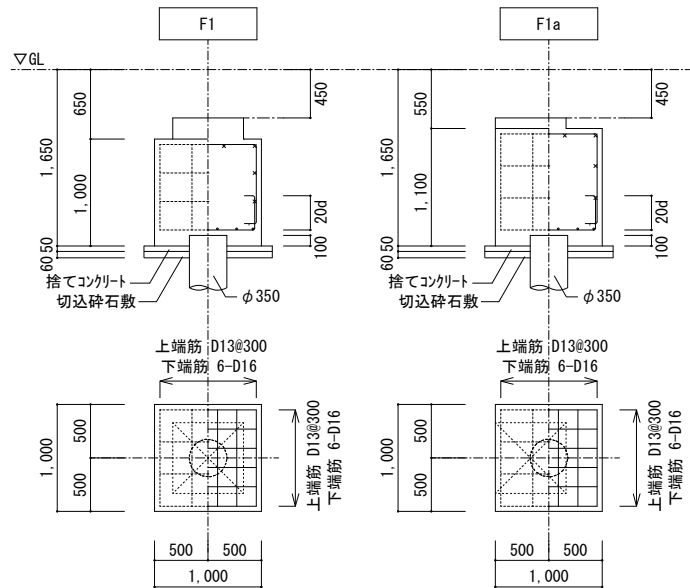
- 凡例 1 スラブ天端表示
表示なき限り 1FL-474 (GL+26)
- 凡例 2 梁天端表示
表示なき限り 1FL-950 (GL-450)
- 凡例 3 基礎コンクリート下端表示
表示なき限り GL-1, 650

スラブリスト

記 号	ｽﾗﾌﾞ 厚	位 置	短辺方向主筋		長辺方向主筋		備 考
			端 部	中 央	端 部	中 央	
wS1	175	上端筋	D10 @200		D10 @200		
		下端筋	D10 @200		D10 @200		
wS2	150	上端筋	D10 @200		D10 @200		
		下端筋	D10 @200		D10 @200		
wFS1	200	上端筋	D13 @200		D13 @200		
		下端筋	D13 @200		D13 @200		

記 号	スラブ厚 基端～先端	位 置	主筋方向配筋		配力筋方向配筋		備 考
			端 部	中 央	端 部	中 央	
wCS1	175	上端筋	D10 @150		D10 @200		
		下端筋	D10 @150		D10 @200		
wCS2	150	上端筋	D10 @150		D10 @200		
		下端筋	D10 @150		D10 @200		

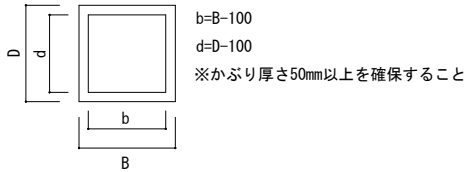
基礎リスト 1:50



礎柱リスト 1:50

符 号	C1
断 面	
B X D	660x660
主 筋	20-D19
HOOP	D13@100
備 考	ハイベックスNE0 : EB300-4-36

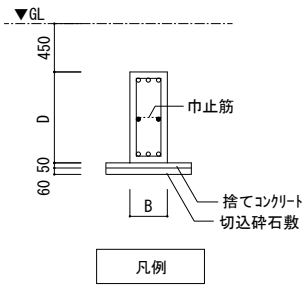
- 特記事項
- 柱頭主筋は、四隅フック付きとする
 - HOOPの加工寸法は、下記による



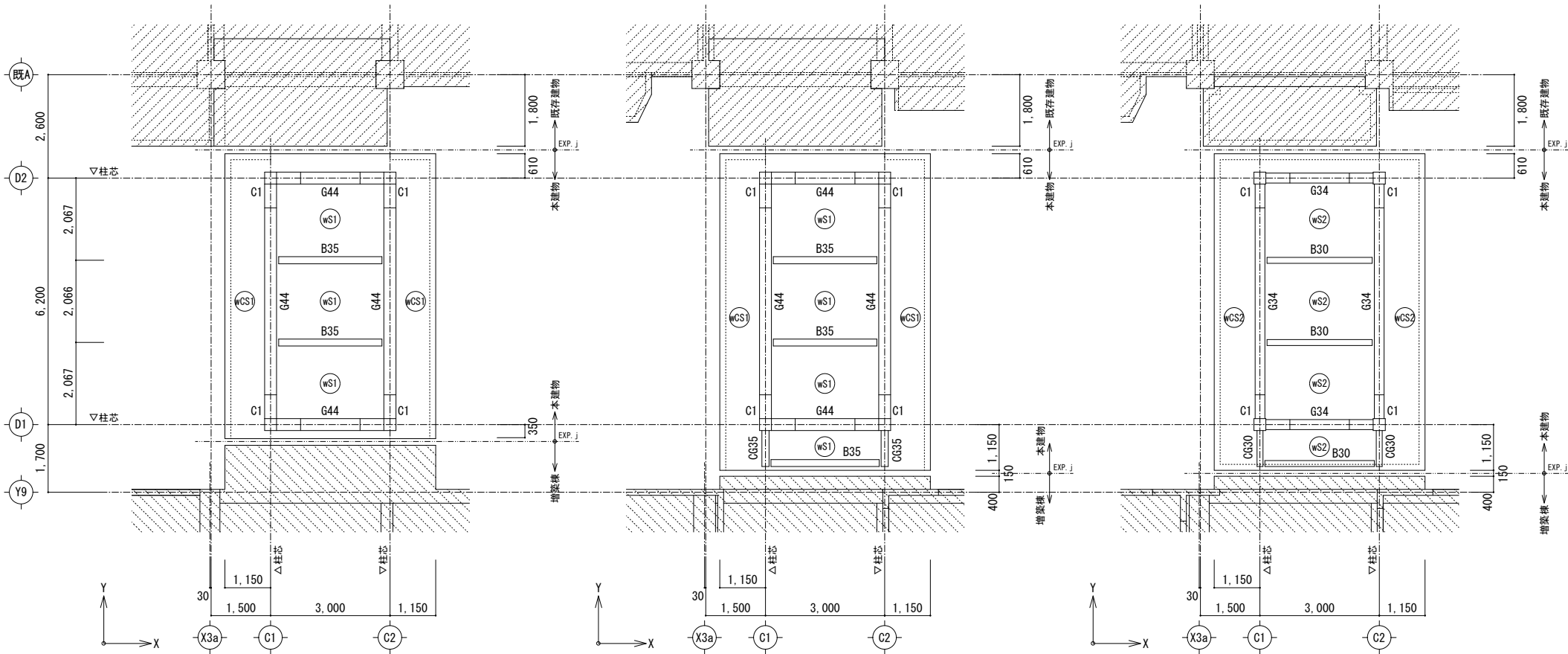
地中梁リスト 1:50

特記なき限り下記による
・ 巾止筋 D10@1000

符 号	FG1		FG2	FG2a	コンクリート増打要領
	端 部	中央部	全断面	全断面	全断面
地中梁 (Fc=24)	断 面				
	B X D	400x800	400x600	400x800	400x800
	上 端 筋	5-D22	5-D22	4-D22	5-D22
	下 端 筋	5-D22	5-D22	4-D22	5-D22
	スターラップ	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@150	□-D13@150
	腹 筋	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10
					補強筋 3-D16 (350<B<500)
					スターラップと同径、同ピッチ



倉敷市建設局建築部公共建築課		担当	三宅
工事名	倉敷市立倉敷第一中学校校舎増築ほか 建築工事		
図名	渡り廊下2 構造図（1）		
綜企画・倉敷構造設計共同体			
一級建築士 第243674号 構造設計一級建築士 第4087号 木村 誠司	設計担当 木村	令和7年9月作成 図番	S-043



2FL梁伏図 S=1:100 (階高 H=4,400)

特記なき限り下記による
・ 梁レールは、2FL-295とする
・ 床レールは、2FL-100とする
・ 梁継手位置は、軸組図参照

3FL梁伏図 S=1:100 (階高 H=3,900)

特記なき限り下記による
・ 梁レールは、3FL-295とする
・ 床レールは、3FL-100とする
・ 梁継手位置は、軸組図参照

4FL梁伏図 S=1:100 (階高 H=3,700)

特記なき限り下記による
・ 梁レールは、4FL-170とする
・ 床レールは、4FL±0とする
・ 梁継手位置は、軸組図参照

柱リスト 1:30 ・ 特記なき限り鋼材はBGR295とする

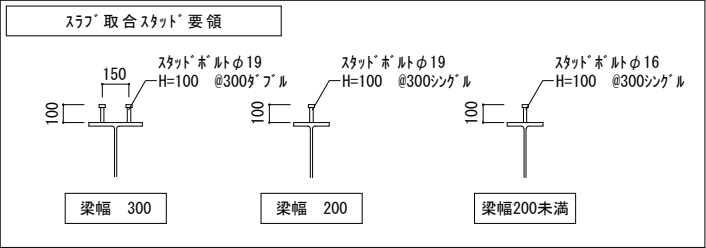
階	符 号	C1
3	部 材	□-300X300X12 (溶融亜鉛メッキ処理)
2	部 材	□-300X300X12 (溶融亜鉛メッキ処理)
1	部 材	□-300X300X12 (溶融亜鉛メッキ処理)
柱脚	断 面	
	BASE. PL	460X460X40
	A. BOLT	4-M36
	備 考	ハイパーステッド EB300-4-36

大梁リスト 1:30 ・ 特記なき限り鋼材はSS400, 高力ボルトはF8Tとする

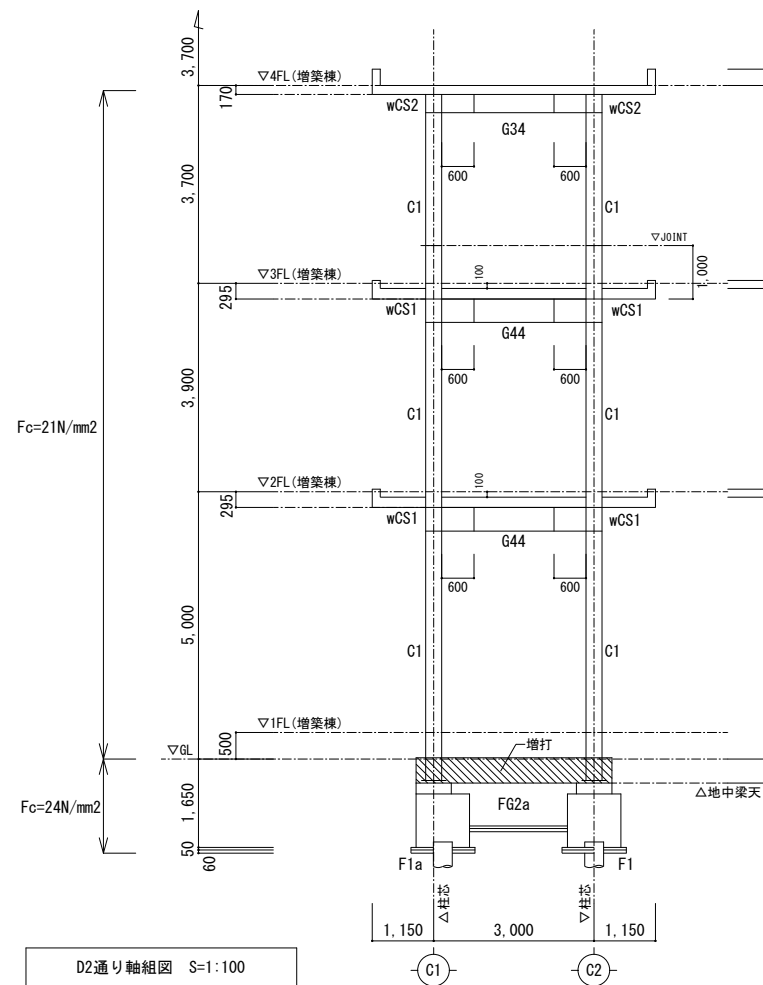
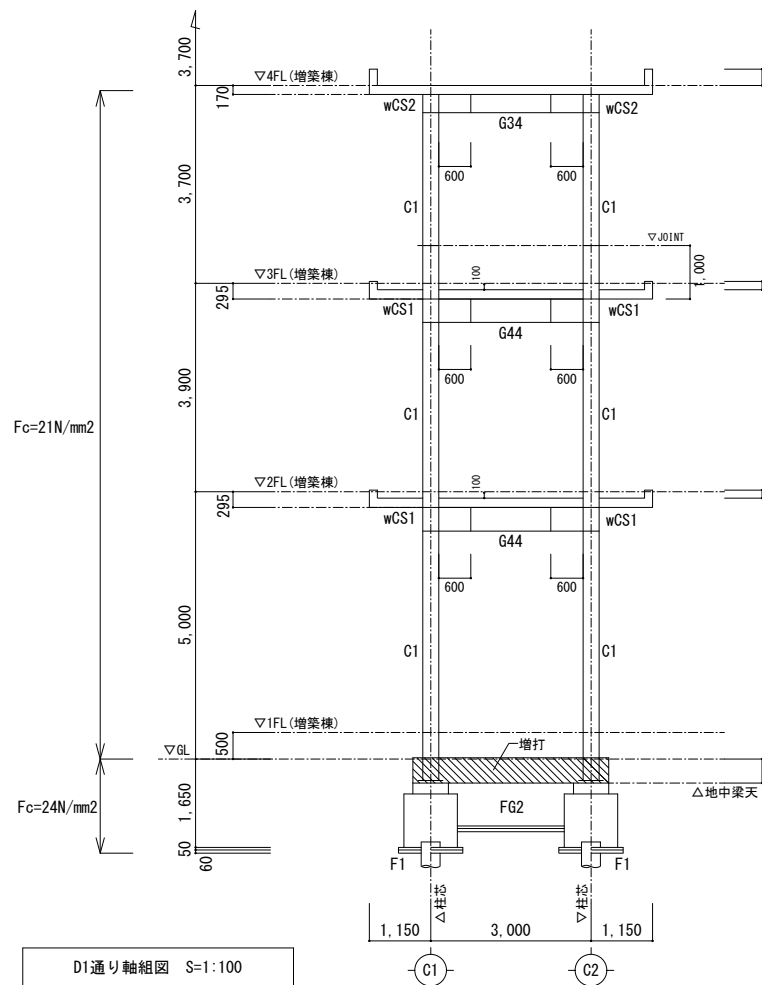
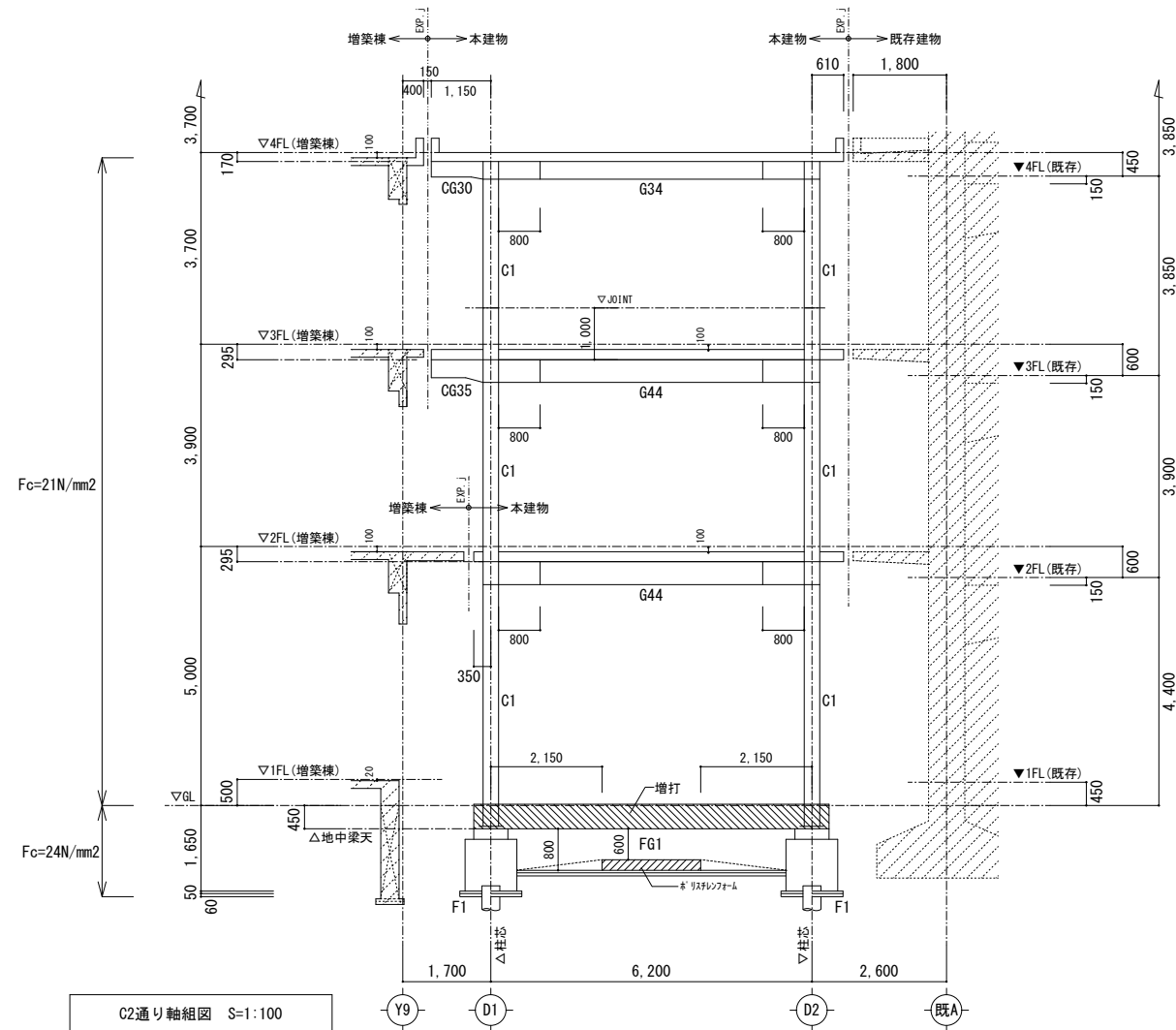
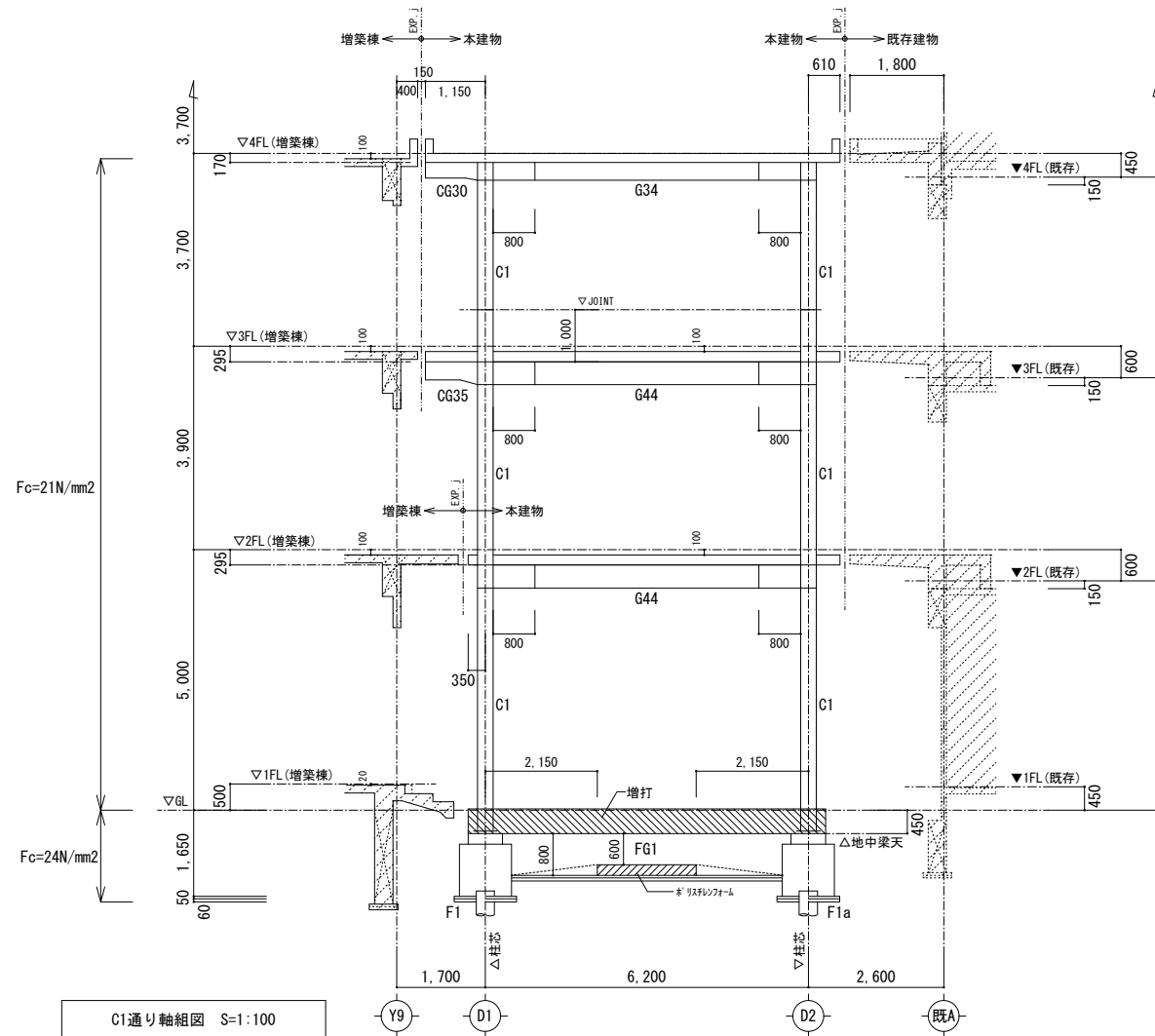
符 号		G44	G34	CG35	CG30
部 材		H-440X300X11X18	H-340X250X9X14	H-350X175X7X11	H-300X150X6.5 X9
継 手					
		※溶融亜鉛メッキ処理	※溶融亜鉛メッキ処理	※溶融亜鉛メッキ処理	※溶融亜鉛メッキ処理
フランジ	S P L	2PL-12X300X440 4PL-12X110X440	2PL-12X250X410 4PL-12X100X410	2PL-9X175X290 4PL-9X70X290	2PL-9X150X290 4PL-9X60X290
	H T B	32-M22	24-M22	16-M20	16-M16
ウェブ	S P L	2PL-9X320X170	2PL-9X200X170	2PL-6X260X170	2PL-6X200X170
	H T B	10-M22	6-M22	6-M20	6-M16

小梁リスト 1:30 ・ 特記なき限り鋼材はSS400, 高力ボルトはF8Tとする

符 号	B35	B30
断 面		
	※溶融亜鉛メッキ処理	※溶融亜鉛メッキ処理
部 材	H-350X175X7X11	H-300X150X6.5X9
仕 口	GPL-9 HTB, 4-M20	GPL-9 HTB, 3-M20
備 考		

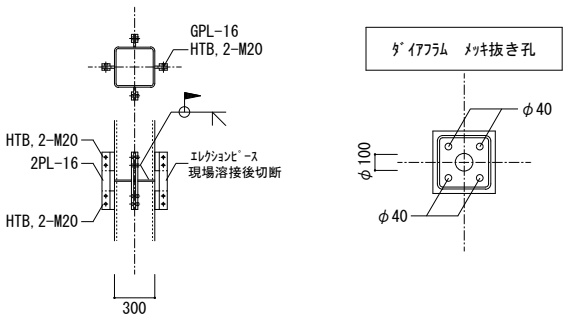
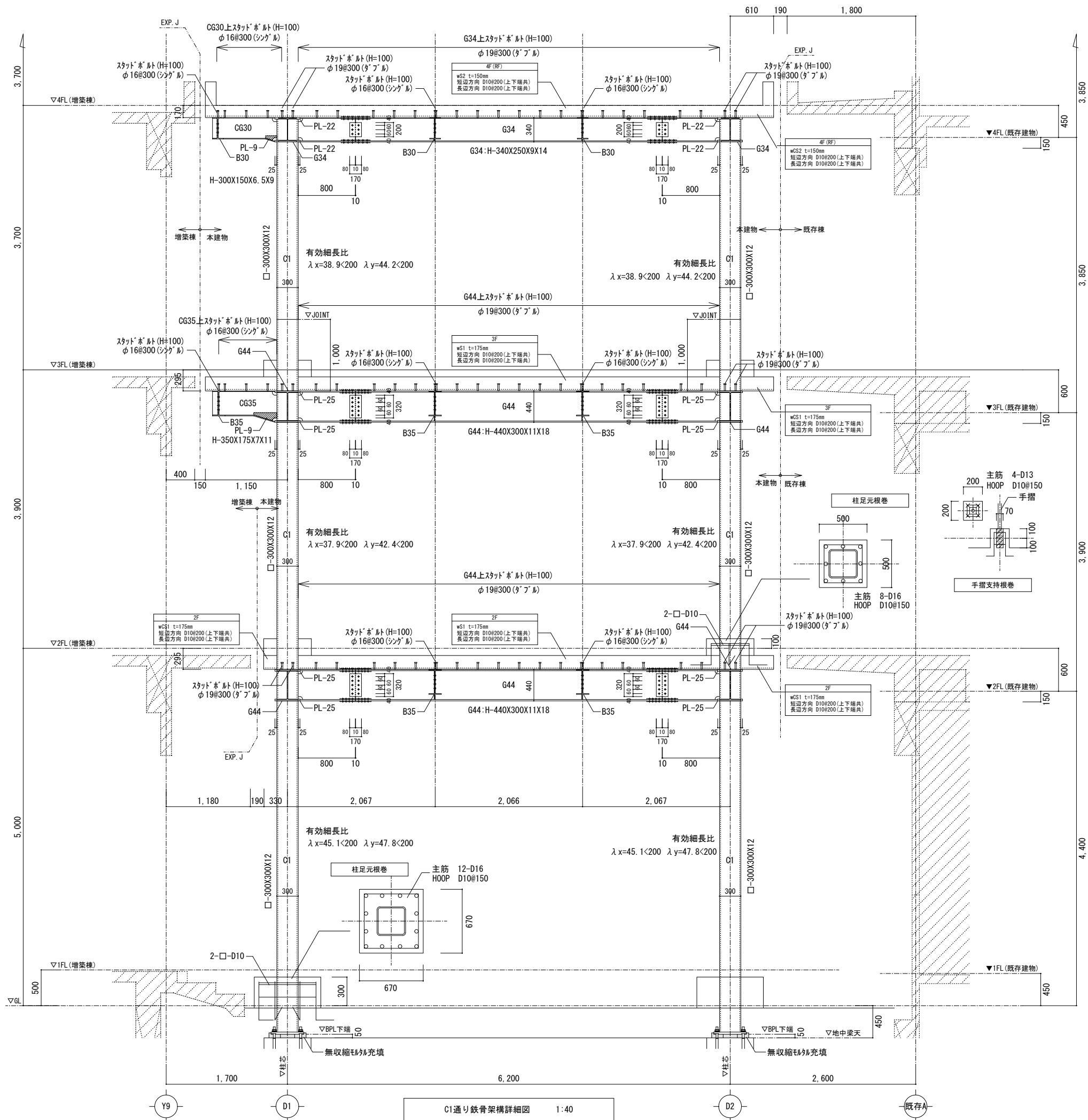


倉敷市建設局建築部公共建築課	担当	三宅
倉敷市立倉敷第一中学校校舎増築ほか	建築工事	
渡り廊下2 構造図(2)		
綜企画・倉敷構造設計共同体		
一級建築士 第243674号 構造設計一級建築士 第4087号 木村 誠司	設計担当 木村	令和7年9月作成 図番 S-044

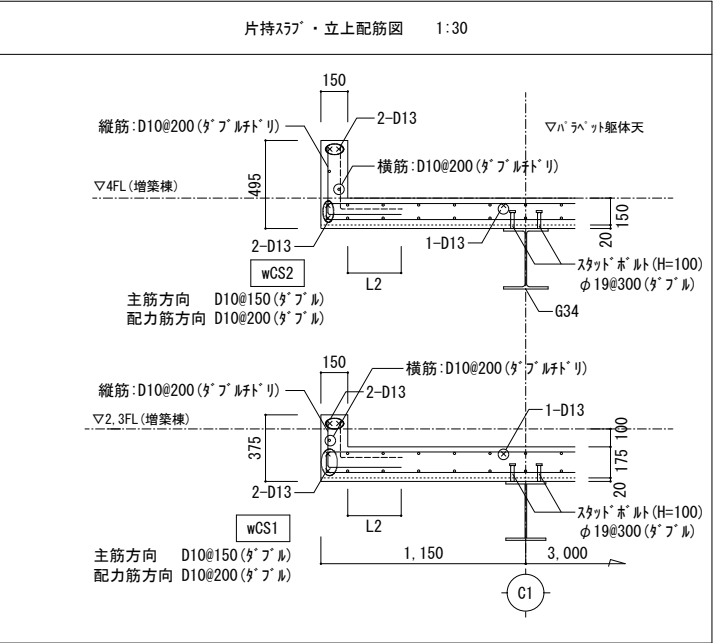
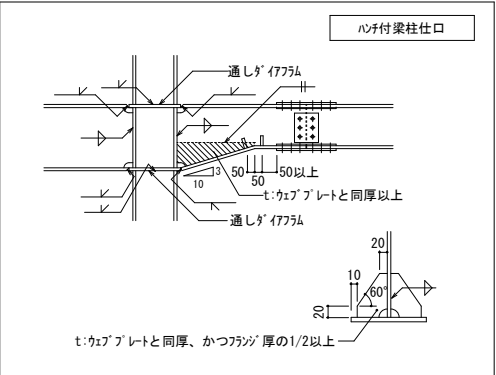


特記なき限り下記による
・基礎 π -x下端はGL-1,650とする
・基礎梁天端はGL-450(1FL-950)とする
・BPL下端はGL-400(1FL-900)とする

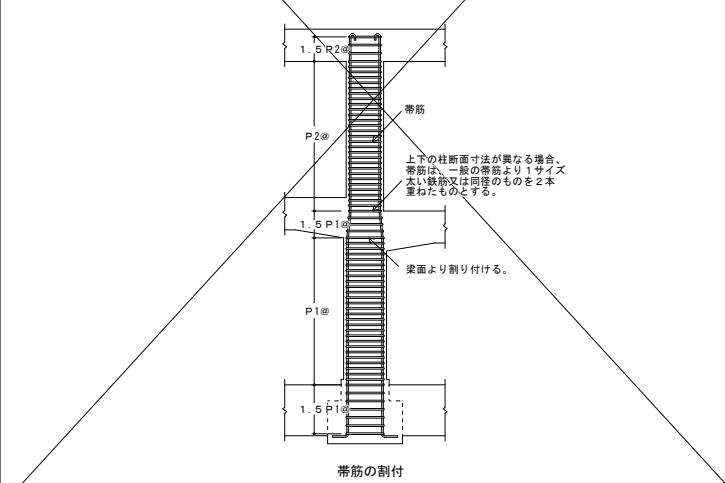
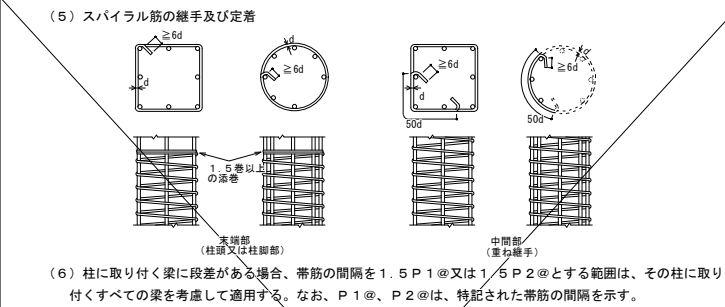
倉敷市建設局建築部公共建築課		担当	三宅
工事名	倉敷市立倉敷第一中学校校舎増築ほか 建築工事		
図名	渡り廊下2 構造図（3）		
総企画・倉敷構造設計共同体			
一級建築士 第243674号 構造設計一級建築士 第4087号 木村 誠司	設計担当		令和7年9月作成
	木村	図番	S-045



・特記無き限り下記による
材質：大梁 SS400、角形鋼管 BCR295、その他SS400とする
通しダイヤラムは、SN490Cとする
通しダイヤラム厚は、梁フランジ PLの2サイズ UPとする

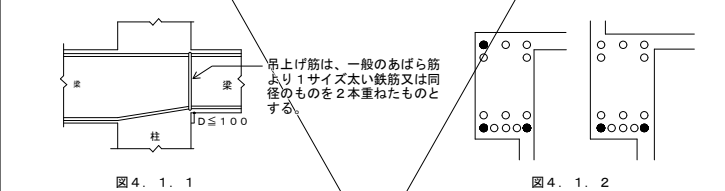


倉敷市建設局建築部公共建築課	担当	三宅
工事名	倉敷市立倉敷第一中学校校舎増築ほか	建築工事
図名	渡り廊下2 構造図(4)	
綜企画・倉敷構造設計共同体		
一級建築士 第243674号 構造設計一級建築士 第4087号 木村 誠司	設計担当 木村	令和7年9月作成 S-046

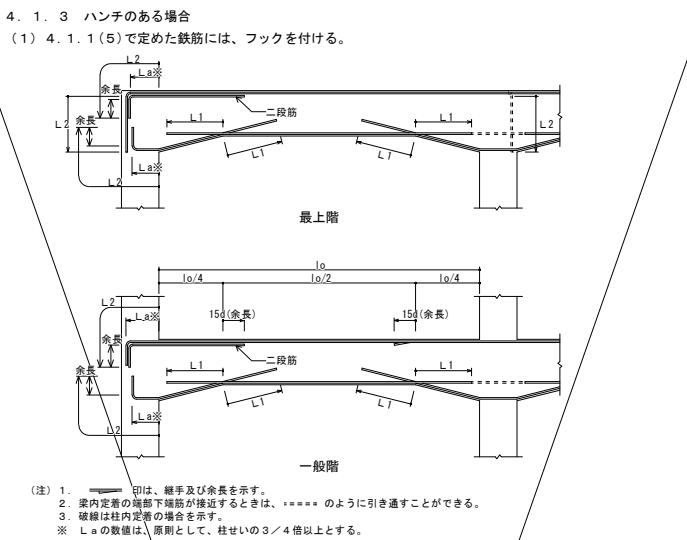
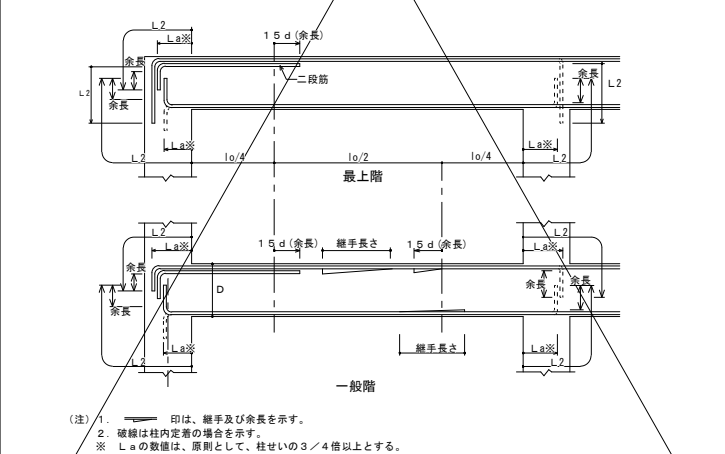


§ 4 梁

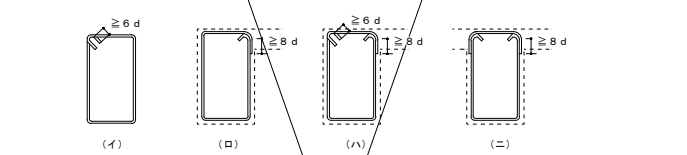
4. 1 大ばり筋の継手、定着及び余長
4. 1. 1 一般事項
- (1) 継手中心位置は、下記による。
- 上端筋 — 中央 $l_0/2$ 以内
- 下端筋 — 柱面より梁せい(D)以上離し、 $l_0/4$ を加えた範囲以内
- (2) 梁主筋は原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことのできない場合は、(3)により柱内に定着することができる。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は右図による。
- (3) 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は、次による。
- なお、定着の方法は、1. 4. 2による。
- 上端筋：曲げ降ろす。
- 下端筋：原則として曲げ上げる。
- (4) 段違いばりは、図4. 1. 1によることができる。
- (5) 梁主筋の重ね継手は、梁の出隅及び下端の両端(図4. 1. 2の●印)にある場合はフックを付ける。
- ただし、基礎梁を除く。



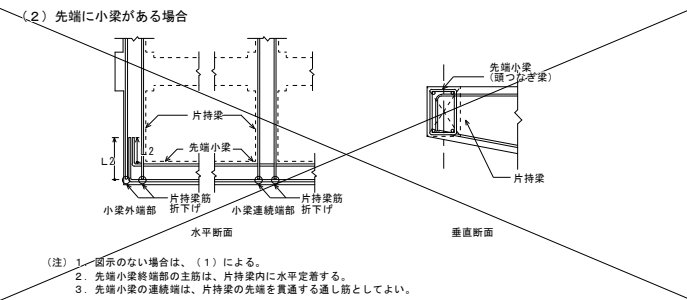
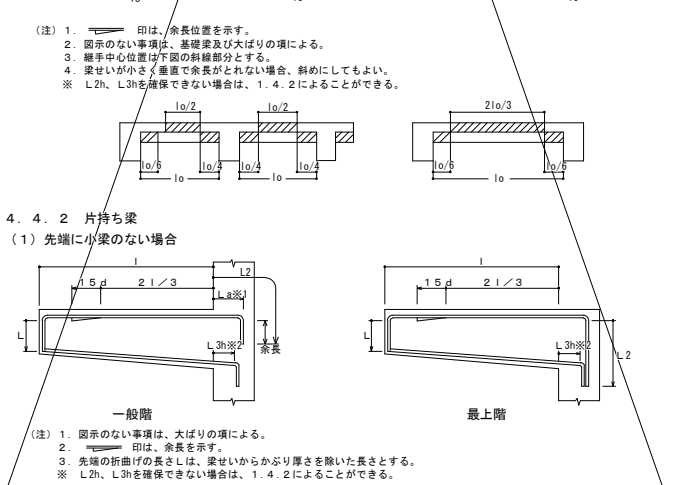
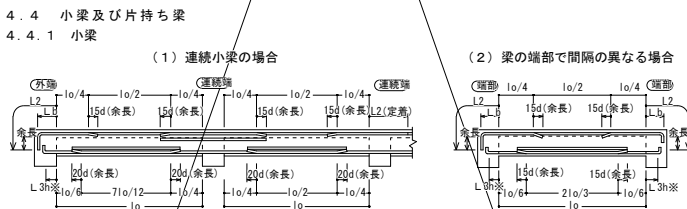
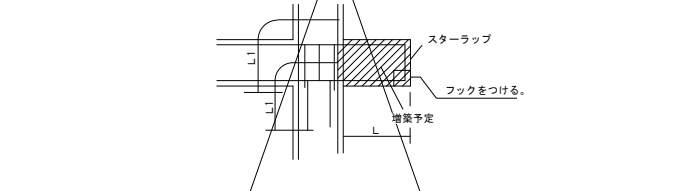
4. 1. 2 ハンチのない場合
- (1) 継手中心位置は、下記による。
- 上端筋 — 中央 $l_0/2$ 以内
- 下端筋 — 柱面より梁せい(D)以上離し、 $l_0/4$ を加えた範囲以内
- (2) 4. 1. 1(5)で定めた鉄筋には、フックを付ける。



4. 2 あばら筋、腹筋及び幅止め筋
4. 2. 1 一般事項
- (1) あばら筋の種類、径及び間隔は、特記による。
- (2) 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10~1000@程度とする。
- (3) 腹筋に継手をつける場合の継手長さは、150mm程度とする。
- (4) 壁梁の場合、腹筋の定着長さ及び継手長さは、特記による。特記がなければ、L2とする。
4. 2. 2 あばら筋組立の形及びフックの位置
- (1) 形は、下図(イ)とする。ただし、L形梁の場合は、(ロ)又は(ハ)、T形梁の場合は、(ロ)~(ニ)とすることができる。
- (2) フックの位置は、(イ)の場合は交互とし、(ロ)の場合は、L形ではスラブの付く側、T形では交互とする。なお、(ハ)の場合は、スラブの付く側を90°折曲げとする。

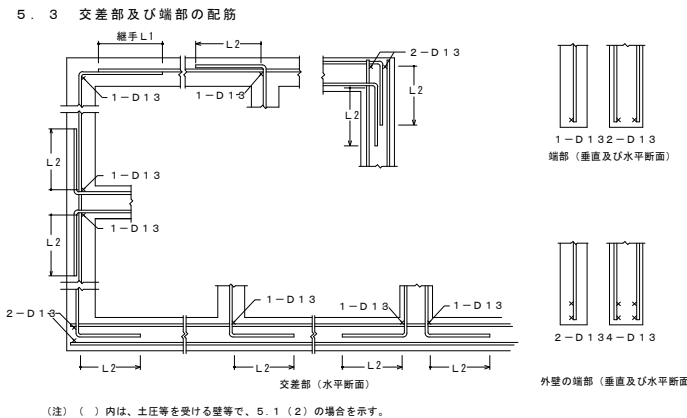
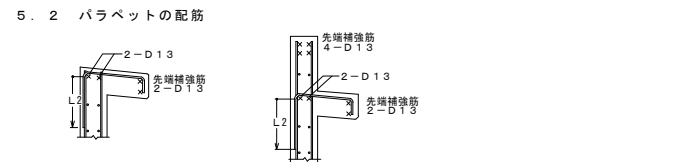
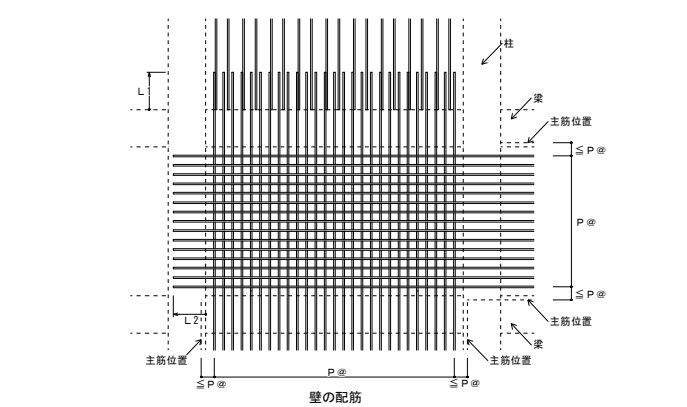


4. 3 増築予定がある場合
- (1) 圧接の場合 $L=1,000$ 、重ね継手の場合 $L=L1+0.5L1$
- (2) 増築取寄せ部分の梁主筋は増築用梁まで延長することなく柱にアンカーする。
- (3) 下図ハッチ部分はスタイロフォームを入れてコンクリートを打設又はラスモタルとし現場の状況に応じて指示する。



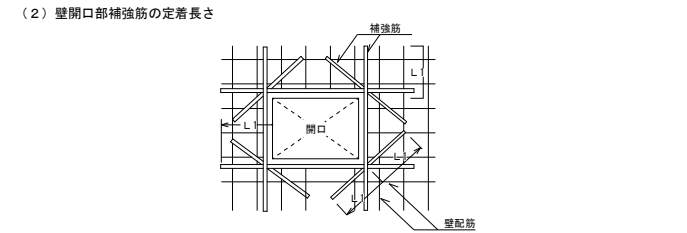
§ 5 壁

5. 1 壁筋の継手及び定着
- (1) 壁配筋の重ね継手はL1、定着の長さはL2とする。
- (2) 幅止め筋は、縦横共D10~1,000@程度とする。
- (3) 原則として、柱及び梁内に、壁筋の継手を設けてはいけない。
- (4) 下図のP@は、特記された壁筋の間隔を示す。



5. 4 壁開口部の補強
- (1) 壁開口部の補強は、A形又はB形とし、特記がなければB形とする。ただし、耐震壁を除く。

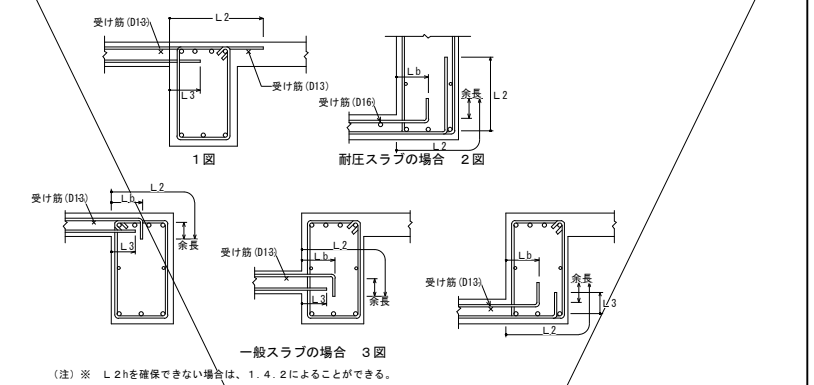
壁の種類	A 形 補 強 筋		壁の種類	B 形 補 強 筋	
	縦 筋	斜 め		縦 筋	斜 め
W12、W15	1-D13	1-D13	W12、W15	2-D13	1-D13
W18、W20	2-D13	2-D13	W18、W20	4-D13	2-D13



- (3) 開口部は柱及び梁に接する部分又は鉄筋を緩やかに曲げることにより開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
- (4) コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、特記による。

§ 6 スラブの配筋

6. 1 スラブ筋の継手及び定着
- (1) 鉄筋の重ね継手長さは、L1とする。
- (2) 定着長さ及び受け筋は、1図による。ただし、引き通すことができない場合は、3図により梁内に定着する。

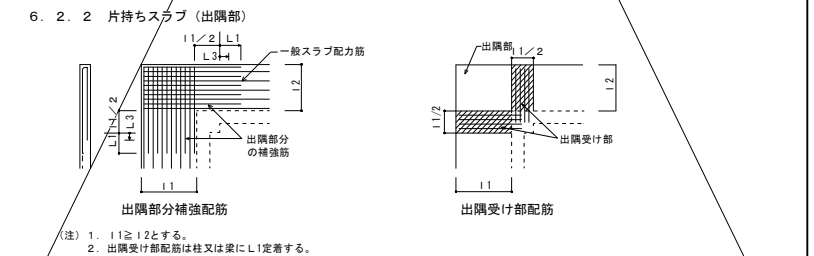
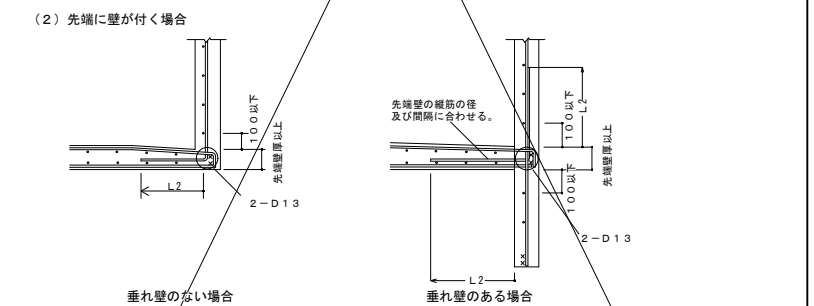
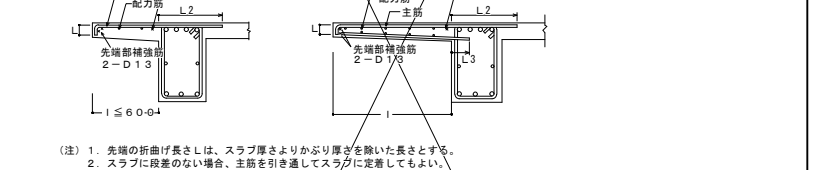


(3) 継手中心位置は下記表による。

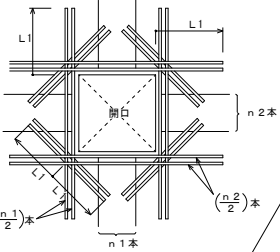
	短 辺 方 向	標 準 継 手 位 置
上 端 筋	短 辺 方 向	B・D
下 端 筋	長 辺 方 向	A・B
	両 方 向 共	A・C・D

(注) 1. 主筋下端筋継手中心はB、D部分をきけること。
2. 配筋下端筋継手中心はA、B部分をきけること。

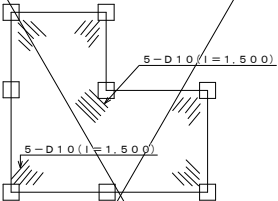
6. 2 スラブの基準配筋
6. 2. 1 片持ちスラブ
- (1) 先端に壁がない場合



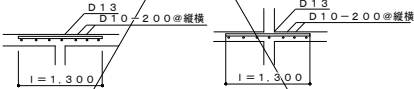
6. 3 スラブ開口部の補強
(1) スラブ開口の最大径が700mm以下の場合は、スラブ開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13 (I=2L1) シングルを上下筋の内側に配筋する。
(2) スラブ開口の最大径が両方向の鉄筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。



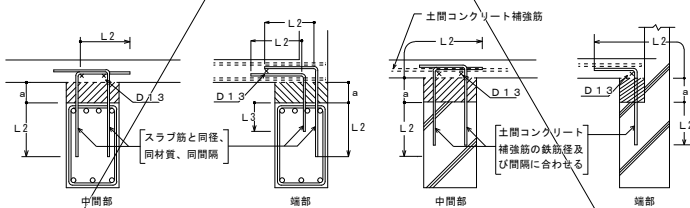
6. 4 その他の補強
6. 4. 1 屋根スラブ
屋根スラブの出隅及び入隅部分には、下図により、補強筋を上端筋の下側に配置する。



6. 4. 2 壁付きスラブ
(1) スラブに上端筋がなく、壁が付いている場合には、下図により補強筋を入れる。

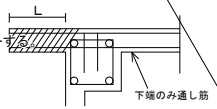


6. 4. 3 土間スラブ、土間コンクリートの打継ぎ補強
(1) 土間スラブの打継ぎ補強 (2) 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

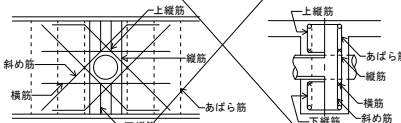


(注) 1 土間コンクリートとは、土に接するスラブのうち、床荷重を直接支持地盤へ伝達できるものをいい、それ以外は土間スラブとして、梁及び柱を介して基礎へ荷重を伝達するものとする。
2 aが300mm以下の場合に限る。

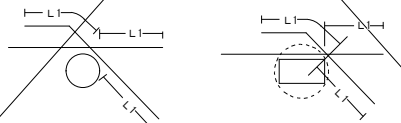
6. 5 増築予定がある場合
(1) 継手長さL=L1+0.5L1
(2) 増築取合せ部分の床主筋は増築用床まで延長することなく梁にアンカー。
(3) 右図ハッチ部分はラスマルタルとし現場の状況に応じて指示する。



5 7 梁貫通孔補強
梁貫通孔の補強はこの標準配筋により、孔の形状寸法および配筋種別は特記する。
7. 1 一般事項
(1) 孔の径は、梁せいの1/3以下とし、孔が円形でない場合はこの外接円とする。
(2) 孔の上下方向の位置は梁せい中心付近とし、梁中央下端は梁下端より1/3Dの範囲に設けてはならない。
(3) 孔は、柱面から、原則として、1.5D (Dは梁せい) 以上離す。
ただし、基礎梁、壁付帯梁は除く。
(4) 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。
(5) 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
(6) 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは下図による。
(7) 孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
(8) 溶接金網の余長は1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。
(9) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋1-13φのリング筋を取り付ける。
なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。
(10) 溶接金網の割付け始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中止とする。



H形



7. 2 補強の形式と種類

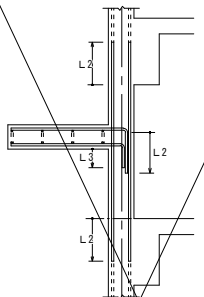
H形配筋					
配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	
H1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H2		2-2-D13			
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4					
H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H6	4-2-D19				
H7	4-2-D22	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H8	4-2-D25				

(注) - - - は、一般部分のあばら筋を示す。

5 8 階段の配筋

8. 1 片持スラブ形階段の基準配筋

片持スラブ形階段の基準配筋		
配筋種別	KA1	KA2
配筋図		
配筋種別	KA3	KA4
配筋図		

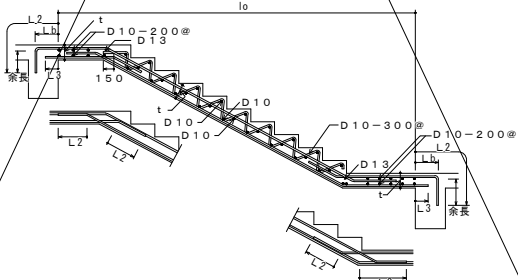


片持スラブ形階段配筋の定着

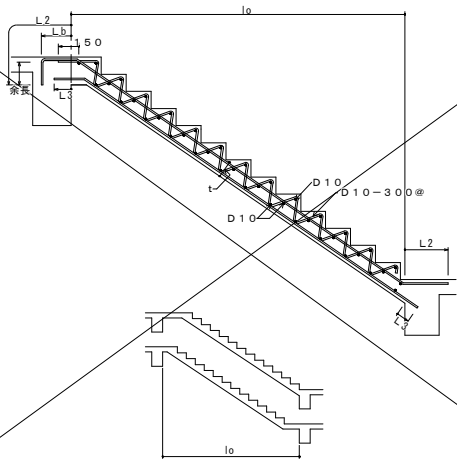
(注) 1 階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に下ろす。
2 スラブ配筋の継手及び定着の長さは、1.4.1 (2) のL3とする。

8. 2 二辺固定スラブ形階段の基準配筋

二辺固定スラブ形基準配筋		
配筋種別	上端筋、下端筋とも (全域)	
KB1	D13-200@	
KB2	D13-150@	
KB3	D13-100@	
KB4	D13、D16-150@	
KB5	D16-150@	
KB6	D16-125@	
KB7	D16-100@	



二辺固定スラブ形階段配筋 (その1)

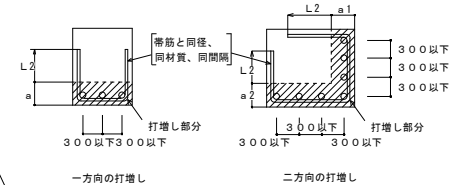


(注) 1 右図の場合にも二辺固定スラブ形階段配筋を準用する。
※ L2hを確保できない場合は、1.4.2によることができる。

二辺固定スラブ形階段配筋 (その2)

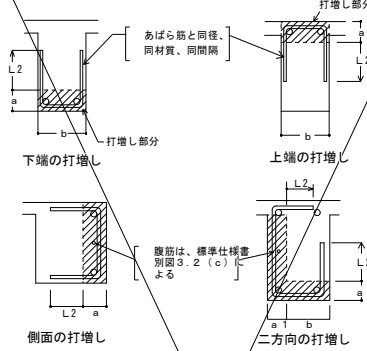
5 9 その他の補強

9. 1 柱の打増し補強



(注) 1 柱の打増し幅 (a, a1, a2) が70mm以上の場合の補強を示す。
2 寄筋と同一方向の補強筋は、等筋と同様、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。
3 縦方向の補強間隔は300mm以下とする。

9. 2 梁の打増し補強

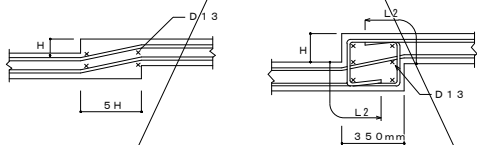


(注) 1 梁の打増し幅 (a, a1, a2) が70mm以上の場合の補強を示す。
2 あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同様、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

9. 3 壁の打増し補強



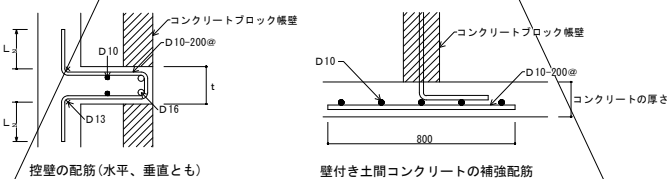
9. 4 段差のあるスラブの補強



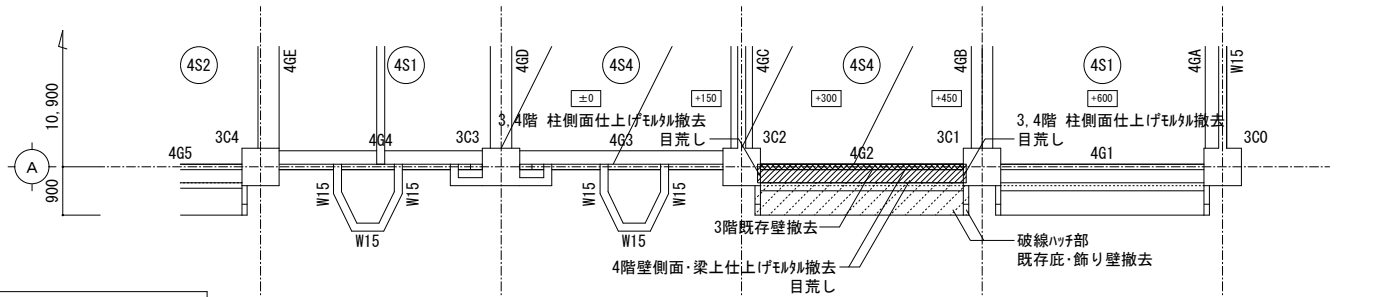
H ≤ 70 の場合
(注) 1 150mm以下の段差のあるスラブの場合に限る。

70 < H ≤ 150 の場合

9. 5 コンクリートブロック帳壁との取合い

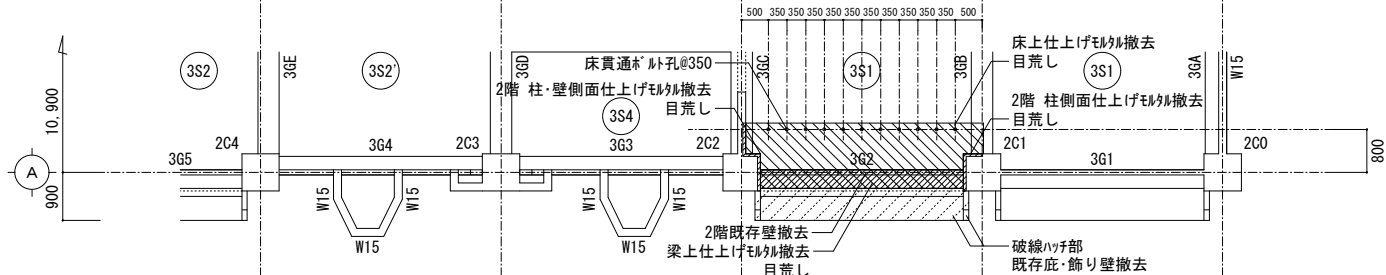


撤去図



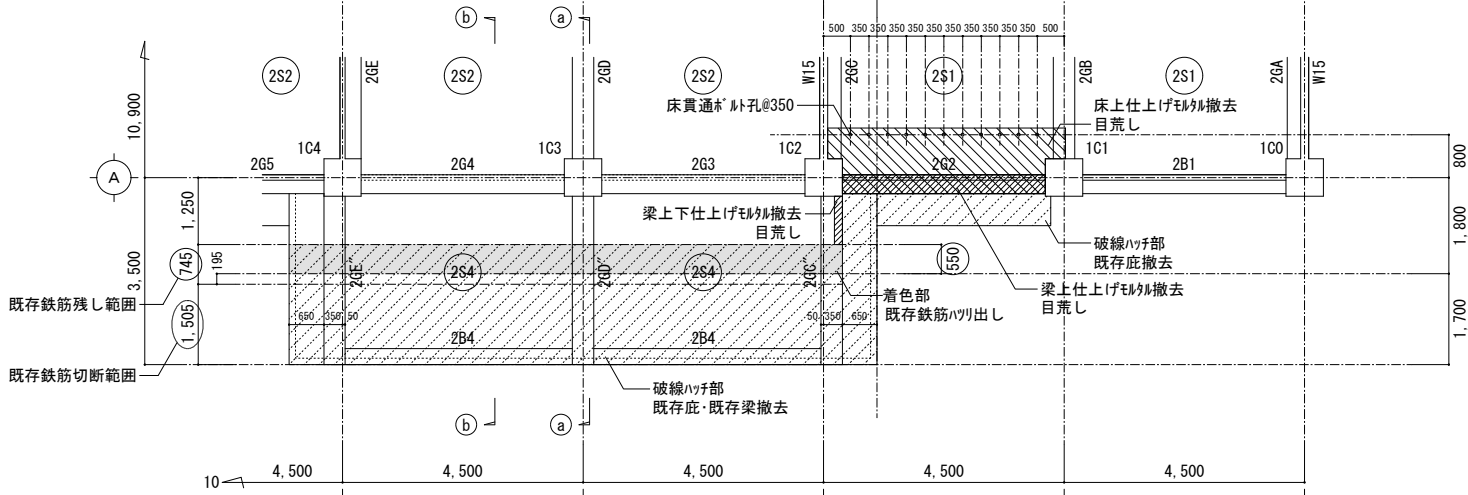
3階柱壁4階床梁伏図 1:100

- 特記なき限り下記による
- ・ 梁天端及び、スラブ天端はFL-150とする
 - ・ 特記なき壁はW10とする
 - ・ □内数値は、FLからのスラブ天端を示す



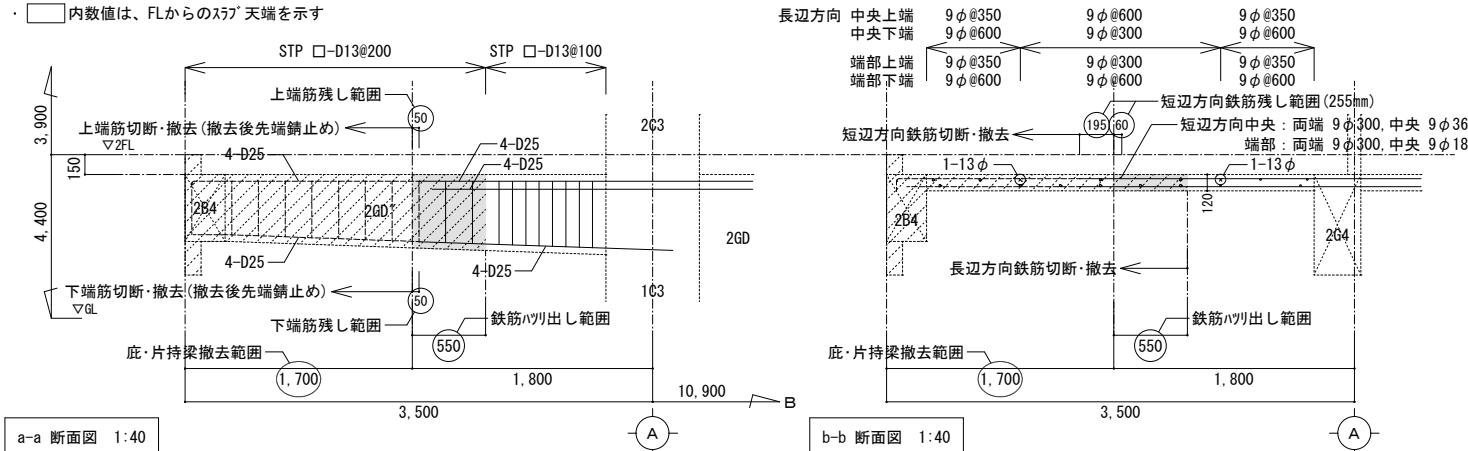
2階柱壁3階床梁伏図 1:100

- 特記なき限り下記による
- ・ 梁天端及び、スラブ天端はFL-150とする
 - ・ 特記なき壁はW10とする
 - ・ □内数値は、FLからのスラブ天端を示す

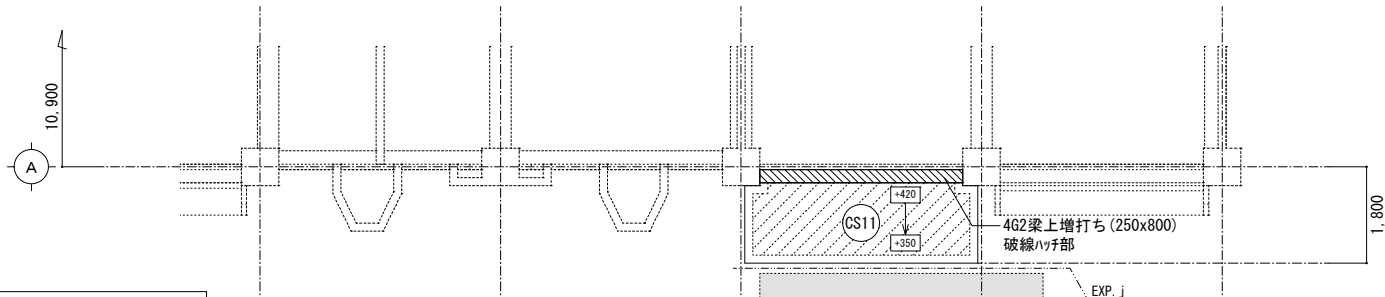


1階柱壁2階床梁伏図 1:100

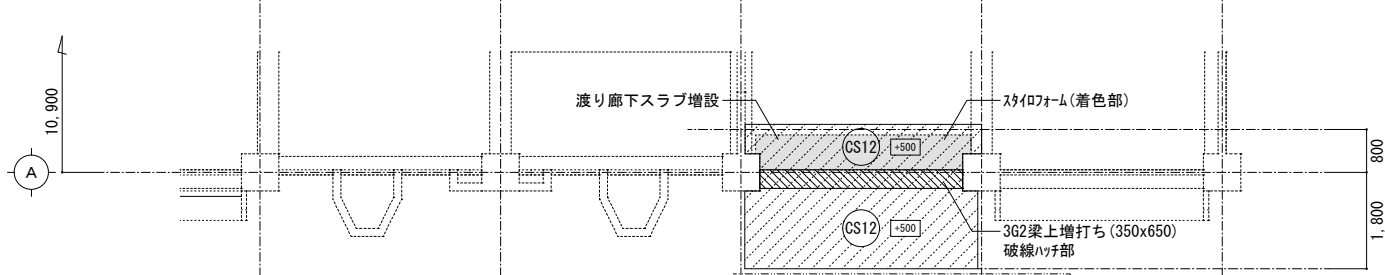
- 特記なき限り下記による
- ・ 梁天端及び、スラブ天端はFL-150とする
 - ・ 特記なき壁はW10とする
 - ・ □内数値は、FLからのスラブ天端を示す



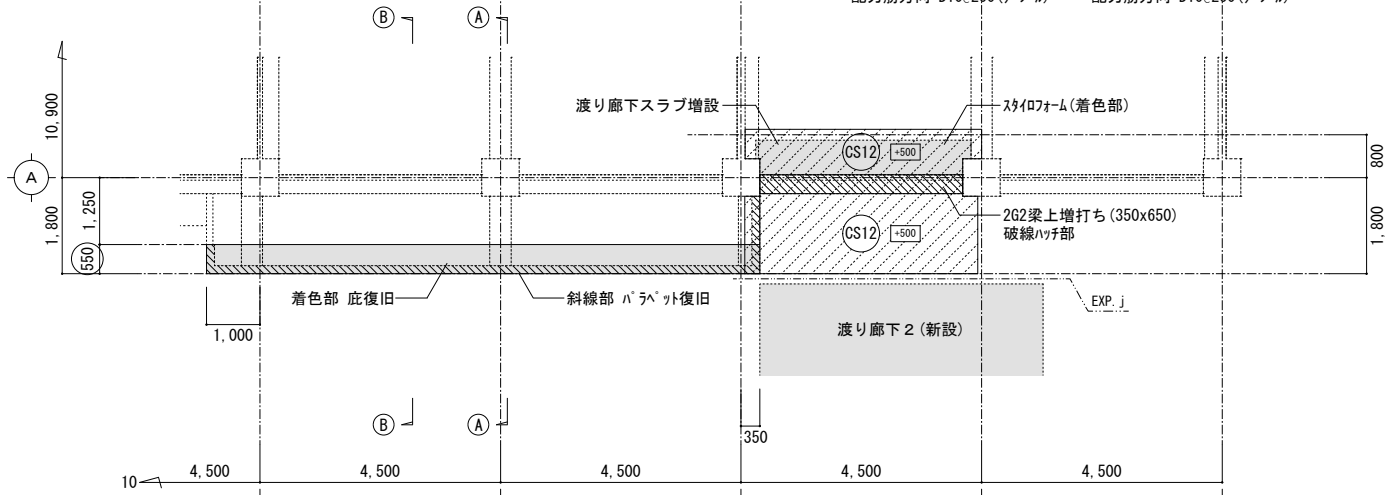
改修図



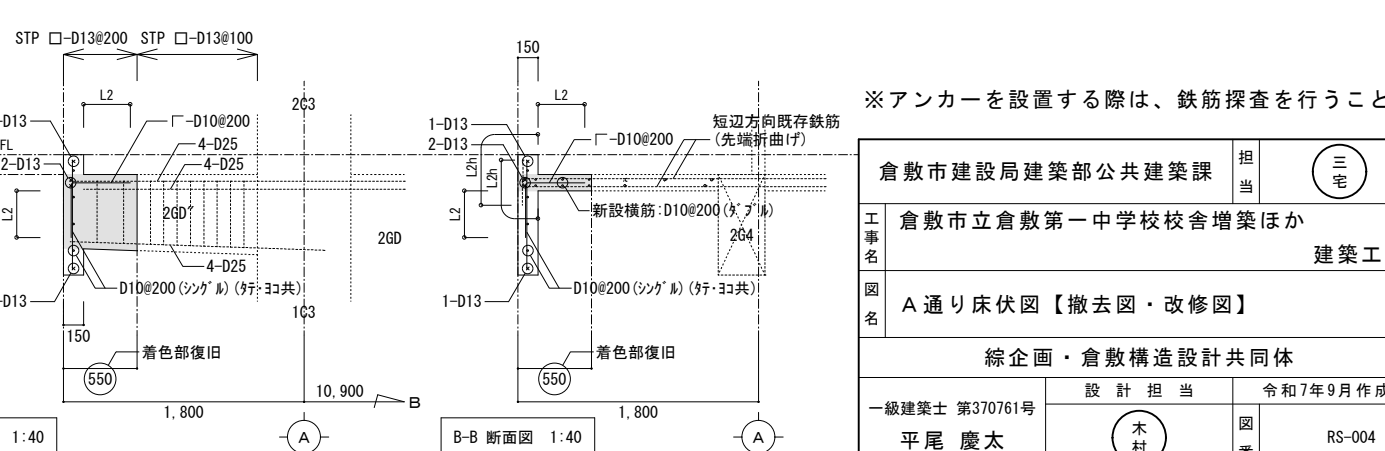
3階柱壁4階床梁伏図 1:100



2階柱壁3階床梁伏図 1:100



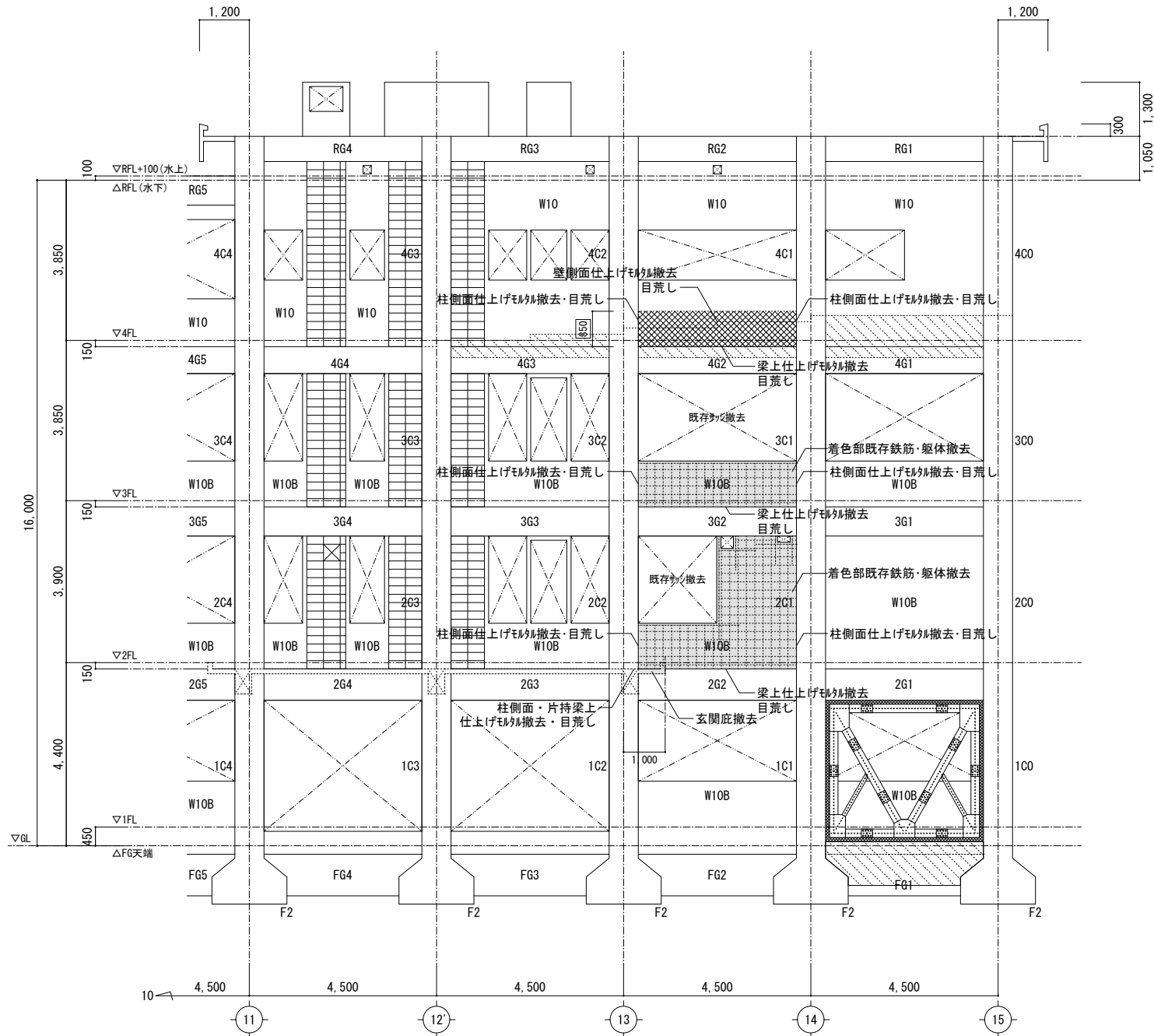
1階柱壁2階床梁伏図 1:100



※アンカーを設置する際は、鉄筋探索を行うこと

倉敷市建設局建築部公共建築課	担当	三宅
倉敷市立倉敷第一中学校校舎増築ほか	建築工事	
A通り床伏図【撤去図・改修図】		
綜企画・倉敷構造設計共同体		
一級建築士 第370761号 平尾 慶太	設計担当 木村	令和7年9月作成 図番 RS-004

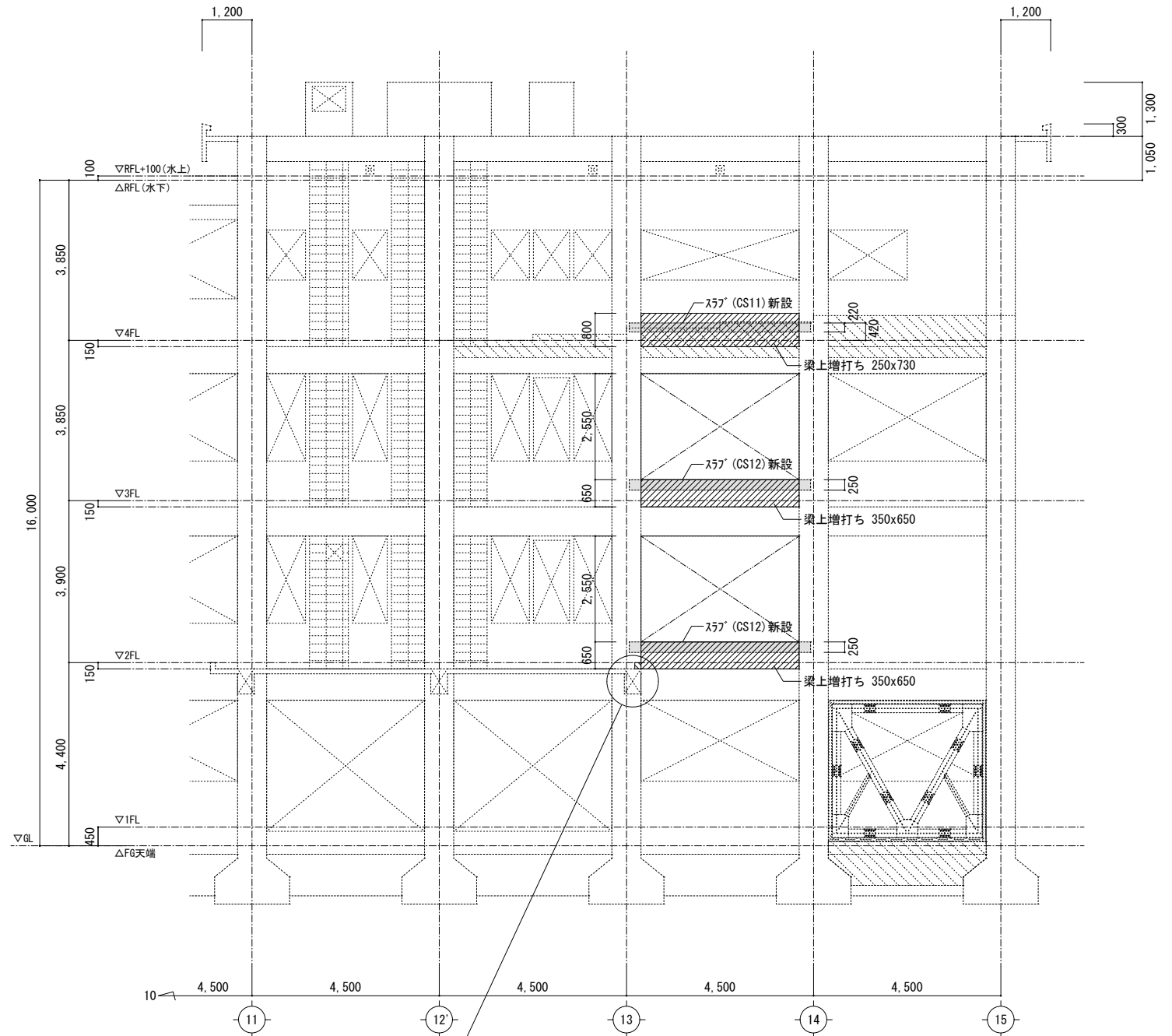
撤去図



A通り軸組図 1:100

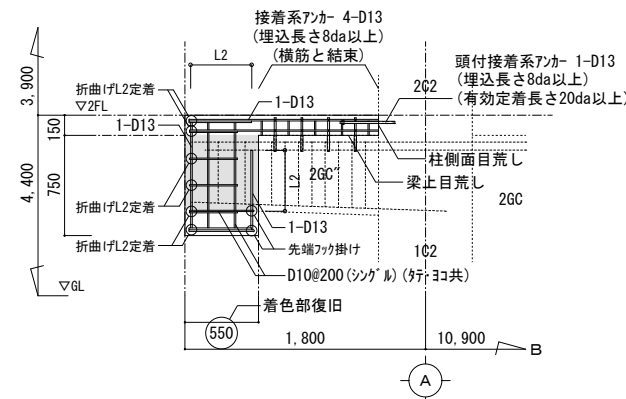
※ 内数値は、既存鉄筋残し範囲を示す。
なお、数値は目安であり現場調整による。
は、既設増打ちを示す

改修図

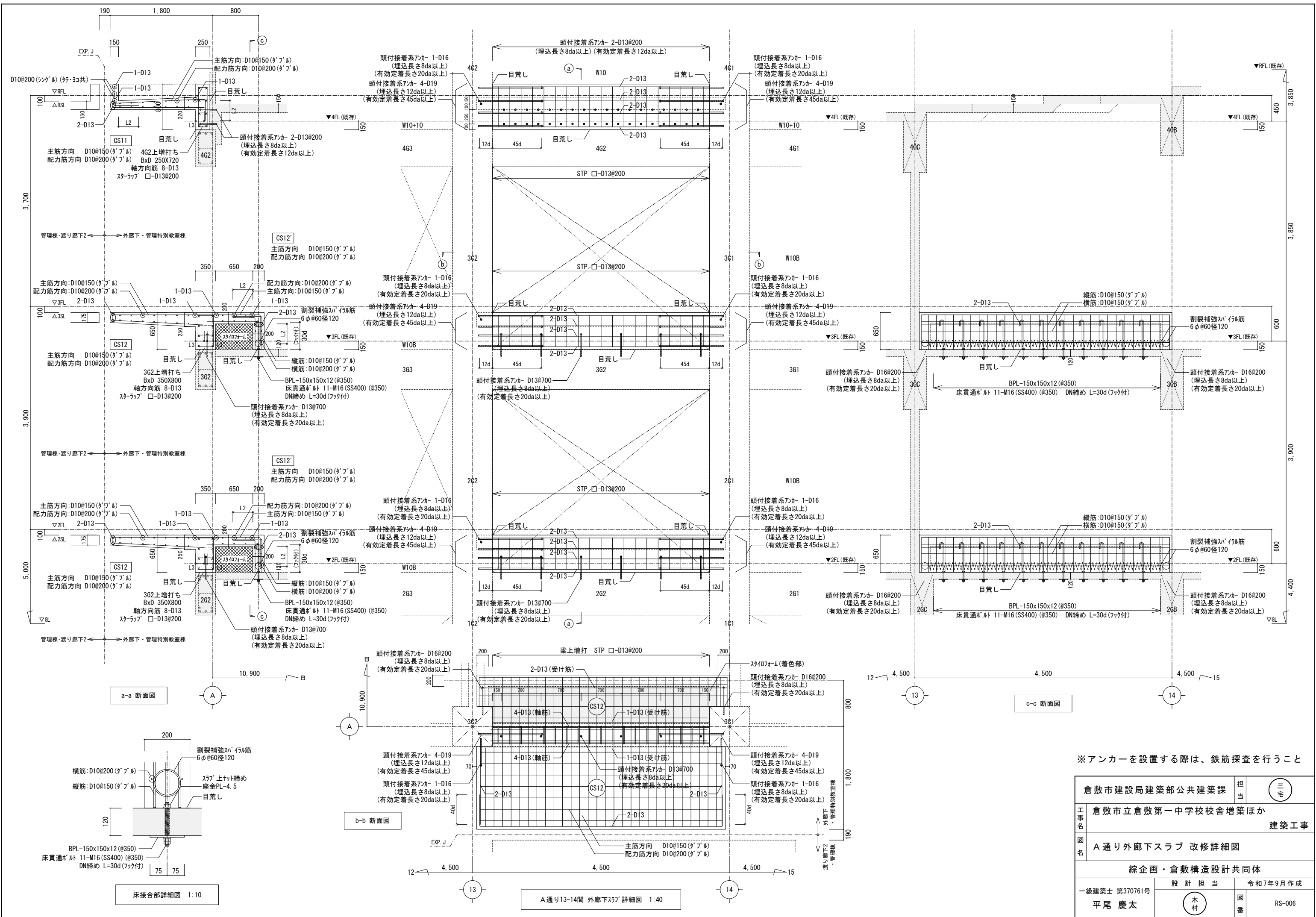


A通り軸組図 1:100

2GC''梁上ハ'ラ'ット新設詳細図 1:40



倉敷市建設局建築部公共建築課		担当	三宅
工事名	倉敷市立倉敷第一中学校校舎増築ほか 建築工事		
図名	A通り軸組図【撤去図・改修図】		
総企画・倉敷構造設計共同体			
一級建築士 第370761号 平尾 慶太	設計担当		令和7年9月作成
	木村	図番	RS-005



※アンカーを設置する際は、鉄筋探索を行うこと

倉敷市建設局建築部公共建築課		担当	三宅
工事名	倉敷市立倉敷第一中学校校舎増築ほか 建築工事		
図名	A通り外廊下スラブ 改修詳細図		
総企画・倉敷構造設計共同体			
一級建築士 第370761号 平尾 慶太	設計担当	令和7年9月作成	
	木村	図番	RS-006